トラクタ

取扱説明書

MT651・751・801・901



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

記号の見方

⚠危険 その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠警告 その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠注意 その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

取扱いの注意 誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

参考 作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。



説明箇所の位置と、見ている方向を示します。
●印：位置　　➡印：見ている方向

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場においてのロータリー耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業および路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
(詳細は、保証書をご覧ください。)

仕様について

本製品には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もあります。

無印：ハイラグタイヤ仕様
WA ：並ラグ大径タイヤ仕様
W　：ハイラグ大径タイヤ仕様
RA ：並ラグラジアルタイヤ仕様

本文の概要

1章 安全な作業をするために必ずお守りください	●安全に関する重要な内容を、代表的な作業で説明しています。個別の作業については、各項目を見てください。また、各安全銘板の内容と貼付位置を示します。
2章 公道走行と関係法規について	●公道走行するための関係法規と、損害賠償保険について説明します。
3章 サービスと保証について	●保証書とアフターサービスについて説明します。
4章 各部のなまえ	●本文中、よく使う部品の名称を紹介します。
5章 各操作部のはたらき	●本文中、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明します。
6章 運転前・作業前点検のしかた	●本機の点検箇所と、作業に適した服装などを説明します。
7章 運転と作業のしかた	●エンジンの始動から移動走行のしかた、およびトラックでの運搬のしかたを説明します。
8章 作業後の手入れのしかた	●機械を最良の状態にしておくために、毎作業後および長期間使用しないときの、手入れのしかたを説明します。
9章 定期の点検・整備のしかた	●長期間故障がなく、本機を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明します。
10章 キャビンの手入れと点検・整備のしかた	●キャビンの手入れと、点検・整備のしかたを説明します。
11章 不調診断のしかた	●正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明します。修理に出す前に確認してください。
12章 その他	●用語解説、仕様、標準付属品について説明します。

目　次

はじめに ……1
あいさつ ……1
お願い ……1
おことわり ……1
記号の見方(危険・警告・注意・取り扱いの注意・参考・方向図など) ……2
本製品の使用目的について ……2
仕様について ……2
本文の概要 ……3

1章 安全な作業をするために必ずお守りください 8

1. 一般的な注意事項 ……8
2. 運転する前に ……9
3. 作業前後の点検や整備をするとき ……11
4. 運搬するとき ……15
5. 移動やほ場へ出し入れするとき ……16
6. 作業をするとき ……18
7. 作業終了後や格納するとき ……23
8. 安全銘板の貼り付け位置 ……26

2章 公道走行と関係法規について 28

公道走行するための関係法規について ……28
ナンバープレートの交付を受けてください ……28
損害賠償保険について ……28

3章 サービスと保証について 29

保証書は大切に保管してください ……29
アフターサービスをお受けになるときは ……29
トラクターの保証と点検整備について ……29

4章 各部のなまえ 30

5章 各操作部のはたらき 32

エンジンコントロール関係 ……32
走行・PTO関係 ……33
油圧関係 ……38
電装関係 ……41
計器盤 ……44
MAC操作部 ……47
キャビン ……50
エアコンの使いかた ……51
その他 ……53

6章 運転前・作業前点検のしかた 55

1. 作業者の体調・服装について ……55
2. 点検のしかた ……56

7章 運転と作業のしかた 58

1. ならし運転（最初の50時間）について ……58
2. エンジンの始動・停止のしかた ……58
3. 作業機を上下させるには ……60
4. 作業機の降下速度の調節のしかた ……61
5. バックアップ装置の使いかた ……62
6. 発進・停止・駐車のしかた ……62
7. 道路走行のしかた ……63
8. 坂道での運転のしかた ……65
9. ほ場への出入りのしかた ……65
10. 作業に適した速度の選びかた ……66
11. ほ場での旋回のしかた ……67
12. Eモードでの高速耕うんのしかた ……67
13. 前輪倍速運転のしかた ……70
14. ロータリー耕うんのしかた ……71
15. デフロックの使いかた ……72
16. トラックへの積込み・積降しのしかた ……73
17. 車輪幅（輪距）の調節のしかた ……74
18. サブコントロールバルブ（2連）の使いかた ……76
19. 油圧外部の取り出しかた ……77
20. 外部電源・充電コンセントについて ……78
21. 3点リンクについて ……78
22. 外部操作スイッチの使いかた ……81
23. 3P切換スイッチ ……82
24. 一般作業機の取り付けかた ……83
25. スイングドローバの使いかた ……84
26. 作業機の取り扱いについての注意事項 ……85
27. パワーステアリングについて ……85
28. フロントウエイトについて ……86

8章 作業後の手入れのしかた 87

1. 作業後の手入れ ……87
2. フロントマスク・サイドカバーの開閉のしかた ……87
3. 燃料の点検・給油のしかた ……88
4. 長期間使用しない場合の手入れ ……89

9章 定期の点検・整備のしかた 90

1. 定期点検一覧表……91
2. オイル・グリス・不凍液一覧表……92
3. 給油・給水一覧表……92
4. 各部オイルの点検・交換のしかた……92
5. 各部エレメントの交換のしかた……94
6. 冷却水の点検・交換のしかた……96
7. 燃料の空気(エア)抜きのしかた……97
8. ラジエータスクリーンとエアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた……98
9. プレクリーナの点検と掃除のしかた……99
10. バッテリの点検のしかた……99
11. パイプ類の点検について……100
12. 電気配線の点検について……101
13. グリスアップ（注入）について……101
14. ブレーキの点検について……102
15. クラッチの点検について……103
16. ハンドルの点検について……103
17. ファンベルトの点検・調整について……104
18. トーインの点検・調整について……104
19. ヒューズ・ヒュージブルリンクの点検・交換について……105
20. タイヤの点検について……106
21. 排気ガスの色について……106

10章 キャビンの手入れと点検・整備のしかた 107

1. エアコン定期点検一覧表……107
2. 日常点検と清掃のしかた……108

11章 不調診断のしかた 110

1. エンジン関係……110
2. クラッチ・ブレーキ関係……112
3. 油圧関係……113
4. 電装関係……114

12章 その他 115

1. 用語解説……115
2. 仕様……116
3. 標準付属品……120

1章 安全な作業をするために必ずお守りください

●ここに記載されている注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。
●ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。
※ご購入された製品によっては、該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

1. 一般的な注意事項

⚠警告

■ こんなときは、運転しない!



●過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できない。
●酒を飲んだとき
●妊娠しているとき
●18才未満の人

【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。

■ 作業に適した服装をする



はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などを着け、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】
機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。

2010903

■ 機械を他人に貸すときは



取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

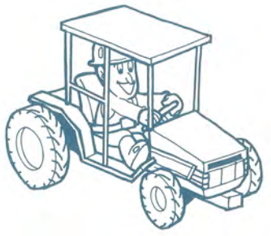
【守らないと】
死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

2015403

2. 運転する前に

⚠警告

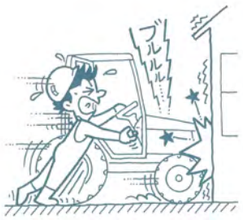
■ シートベルトを必ず装着する



腰骨に当たるようにシートベルトを締めてください。

【守らないと】
転落・転倒事故をおこした場合に、死亡または重傷を負うおそれがあります。

■ エンジン始動時は必ず運転席にすわり周囲の安全確認をする



エンジン始動時は必ず運転席にすわり、シートの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】
思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。

2015405

⚠注意

■ 寒冷時は暖機運転を実施する

寒冷時は暖機運転を必ず行ってください。

【守らないと】
トラクターの性能が十分に発揮出来ません。

■ マフラの高温に注意



運転中およびエンジン停止直後の、マフラは高温ですので、触れないでください。

【守らないと】
ヤケドをするおそれがあります。

2015406

■ 機械の改造禁止



純正以外や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。
改造をしないでください。

【守らないと】
事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

2015407

⚠注意

■ 点検・整備を行う

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



2015408

■ 定期点検整備を受ける

1年毎に定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。特に、パワーステアリングのホースは2年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



2015408

3. 作業前後の点検や整備をするとき

⚠危険

■ 注油・給油はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれあります。


2015409

■ 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。


2010911

■ バッテリ点検時は火気厳禁

バッテリの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリに引火、爆発してヤケドなどを引きおこすおそれがあります。


2010913

■ バッテリ液は体につけないようにする

バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。

万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

ヤケドをしたり、服が破れるおそれがあります。


2010914

■ 燃料もれに注意

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2015410

⚠危険

■ 燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2015411

⚠警告

■ 点検整備は平坦で安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2015412

■ マフラ・エンジン囲りのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2015413

■ タイヤには、規定の最大空気圧以上に空気を入れない

タイヤに空気を入れる際には、規定の最大空気圧以上に空気を入れないでください。

【守らないと】

タイヤが破裂し、傷害事故をおこすおそれがあります。



2015414

■ 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。



2015415

⚠警告

■ バッテリ液を「下限（LOWER)」以下にしない

バッテリ液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。



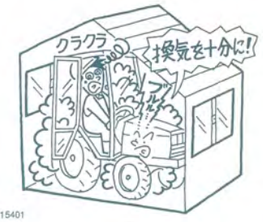
A2037549

■ 排気ガスには十分に注意する

締め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。



2015401

■ ブレーキ・ハンドルの点検を必ず行う

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように、またハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検をしてください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



2015402

■ 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010967

⚠注意

■ バッテリの取り付け取り外しは正しい手順で行う

バッテリを取り付けるときは＋側をさきに取り付け、取り外すときは－側から取り外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010917

⚠注意

■ 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



2015416

■ カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015417

■ 点検整備は過熱部分が十分冷めてから行う

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2015406

■ 使用していないPTO軸にはカバーを付ける

PTO軸を使用しないときは、グリスを塗りカバーを付けておいてください。

【守らないと】

巻き込まれたりして傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015418

■ 目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。また点検調整に必要な工具はトラクターに常備しておいてください。

【守らないと】

整備不良で事故を引きおこすおそれがあります。



2015419

4. 運搬するとき

⚠危険

■ 積込み、積降し時は左右のブレーキペダルを連結する

積込み、積降し時は、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

緊急時ブレーキ操作を行った際、ブレーキが片ぎきして転落などの事故を引きおこします。



2015430

⚠警告

■ あゆみ板の上では、だ性運転はしない

坂道やあゆみ板の上での走行は十分注意して行ってください。

クラッチを踏んだり、副変速・シャトルを「N」(中立) 位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。



2015431

■ 強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用する

積込み、積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップのしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故を引きおこすおそれがあります。



2010961

■ 登るときは後退、降りるときは前進で行う

トラックに積込むときは後退で、降りるときは前進で行ってください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故を引きおこすおそれがあります。



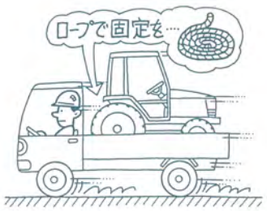
2015432

■ ロープでトラックに確実に固定する

トラックにのせて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、ギヤを入れて強度の十分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。

【守らないと】

荷台からトラクターが転落したりして、事故を引きおこすおそれがあります。



2015433

5. 移動やほ場へ出し入れするとき

⚠警告

■ 関係法規を守り安全運転を行う

道路を走行するときは、関係法規を厳守し、シートベルトを締め、ヘルメットをかぶってください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。


2015434

■ 周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進する

周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

傷害事故をおこすおそれがあります。



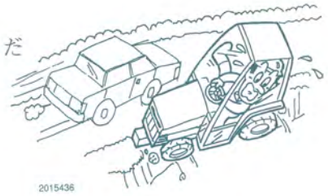
2015435

■ 移動時は路肩に注意

溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。

【注意しないと】

転落事故をおこすおそれがあります。


2015436

■ 移動走行時は左右のブレーキペダルを連結する

移動走行時には、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

ブレーキ操作の際、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。



2015437

■ 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、十分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。


2015438

⚠警告

■ 坂道・あゆみ板の上では変速禁止

あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道やあゆみ板の上では、変速をしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。



2015431

■ 溝・あぜを渡るときはあゆみ板を使用する

ほ場に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るとき、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をおこすおそれがあります。



2015445

■ 公道走行時は作業機の装着禁止

公道走行をするときは、ロータリなどの作業機を取り外してください。

【守らないと】

道路交通法違反です。事故を引きおこすおそれがあります。


2015434

■ 公道走行をするときは道路交通法規を厳守してください

【守らないと】

事故をおこすおそれがあります。


2015434

⚠注意

■ 暖気運転中は駐車ブレーキを掛ける

【守らないと】

トラクターが自然に動きだし、事故をひきおこすおそれがあります。



2015440

■ 高速走行時、急激なクラッチ（ブレーキ）ペダル操作はしない

【守らないと】

転倒・転落事故をおこすおそれがあります。



2015441

6. 作業をするとき

⚠警告

■ 作業機の着脱は平坦な場所で行う

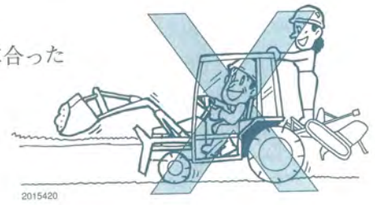

2010939

作業機の着脱は、平坦で安定した場所で行ってください。夜間は、適切な照明をしてください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。

■ 人や物をウエイト代りにしない


2015420

バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純性のバランスウエイトを使用してください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。

■ トラクターと作業機の周辺に人を近づけない


2015421

トラクターを移動して作業機と着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。

■ 重い作業機を付けるときは ウエイトでバランスを取る


2015422

重い作業機を装着したときは、フロントにバランスウエイトを付けて、バランスを保ってください。

【守らないと】

バランスを崩し事故を引きおこすおそれがあります。

■ トラクターに作業機を装着するときは、 作業機の取扱説明書を必ず読む



2015423

トラクターに作業機を装着する時は、事前に必ず作業機の取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】

傷害事故や機械の破損を引きおこします。

⚠警告

■ 傾斜地やけん引作業をするときは、 輪距（左右のタイヤ間の幅）を広くする


2015424

【守らないと】

転倒事故を引きおこすおそれがあります。

■ 作業機を付けたときは旋回に注意


2015425

作業機によってはかなりの長さになるものがありますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。

【注意しないと】

作業機が衝突したりして、傷害事故を引きおこすおそれがあります。

■ トレーラをけん引するときの注意



2015426

道路運送車輌法により、最高速度20㎞/h以上のトラクターで、トレーラ重量とトレーラ規定最大積載重量の合計が2000㎏を超えるトレーラをけん引する場合は、トレーラ側のブレーキとトラクターのブレーキを必ず連結し、灯火類のコードも連結してください。

また、坂道での変速はしないでください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。

■ 作業機の下にもぐったり、足を入れない


2015427

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

作業機が下がったときに、傷害事故負うおそれがあります。

■ ローダー作業時は前後バランスに注意


2015428

ローダー作業時は、前後の一方向にバランスがかたよらないように、ウエイトまたは作業機を装着してください。

【守らないと】

バランスを崩し転倒事故を引きおこすおそれがあります。

⚠警告

■ 作業機指定のPTO回転を守る

低速回転用の作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。

【守らないと】

作業機が異常作動し、事故や機械の破損を引きおこします。


2015429

■ ハウス内での作業では、換気を十分にする

排気ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。



2015442

■ 爪に巻き付いた草などを取るときは、エンジン停止

【守らないと】

機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。



2010949

■ 子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015443

■ ロータリー作業ではダッシュに注意

地面が硬かったり、石の多いところでは、ロータリーをゆっくりと地面に降ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛出す（ダッシュ）ことがあります。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015444

⚠警告

■ あぜ越え、段差越えのときはあゆみ板を使用する

田・畑への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときはあゆみ板を使用し、地面に接地しない程度に作業機を下げ重心を低くしてください。

【守らないと】

バランスを崩して転倒するおそれがあります。



2015445

■ わき見、手放し運転はしない

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015446

■ エンジン始動時は、作業機が下がっているか確認

エンジン始動時は、ポジションレバー「最下」、バックアップボタン「切」にして、作業機が下がっていることを確認してください。

【守らないと】

作業機が不意に下がり、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015447

■ 機械から離れるときは平坦地に置き エンジンを止める

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。

また、作業機は地面に接地してください。

【守らないと】

トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。

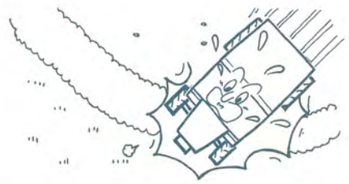

2015448

■ 旋回時はデフロックを切る

必ずデフロックを切って旋回してください。

【守らないと】

思うように旋回ができずに、事故を引きおこすおそれがあります。


2015449

⚠警告

■ けん引作業はドローバを使用

けん引作業は必ずドローバを使用してください。トップリンクやロアリンクなどでのけん引は絶対しないでください。

【守らないと】

転倒のおそれがあります。



2015450

■ 運転者以外に人を乗せない

このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

【守らないと】

思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。


2015404

■ 操作時はチルトハンドルを固定する

ハンドルの調節時以外には必ず、チルトハンドル操作ペダルは操作せずに固定してください。

【守らないと】

思うように旋回できずに、事故をおこすおそれがあります。


2015402

7. 作業終了後や格納するとき

⚠危険

■ 注油・給油はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれあります。



■ ラジエータが熱いときはキャップを開けない

ラジエータが過熱しているときには、絶対にラジエータキャップを開けないでください。

【守らないと】

熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。


2010912

■ シートは機械が十分冷めてからかける

機械にシートをかける場合は、マフラやエンジンが十分冷えてからかけてください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。


2015451

⚠警告

■ 点検整備は平坦で安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2015412

■ マフラー・エンジン囲りのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。


2015413

⚠警告

■ 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。



2015415

■ 長期格納時はバッテリとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合はバッテリを取り外し、キーを抜き取り保管してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



2015452

⚠注意

■ 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010967

■ バッテリの取り付け取り外しは正しい手順で行う

バッテリケーブルを取り付けるときは＋側をさきに取り付け、取り外すときは－側から取り外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010917

■ 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



2015416

⚠注意

■ カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015417

■ 点検整備は過熱部分が十分冷めてから行う

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。

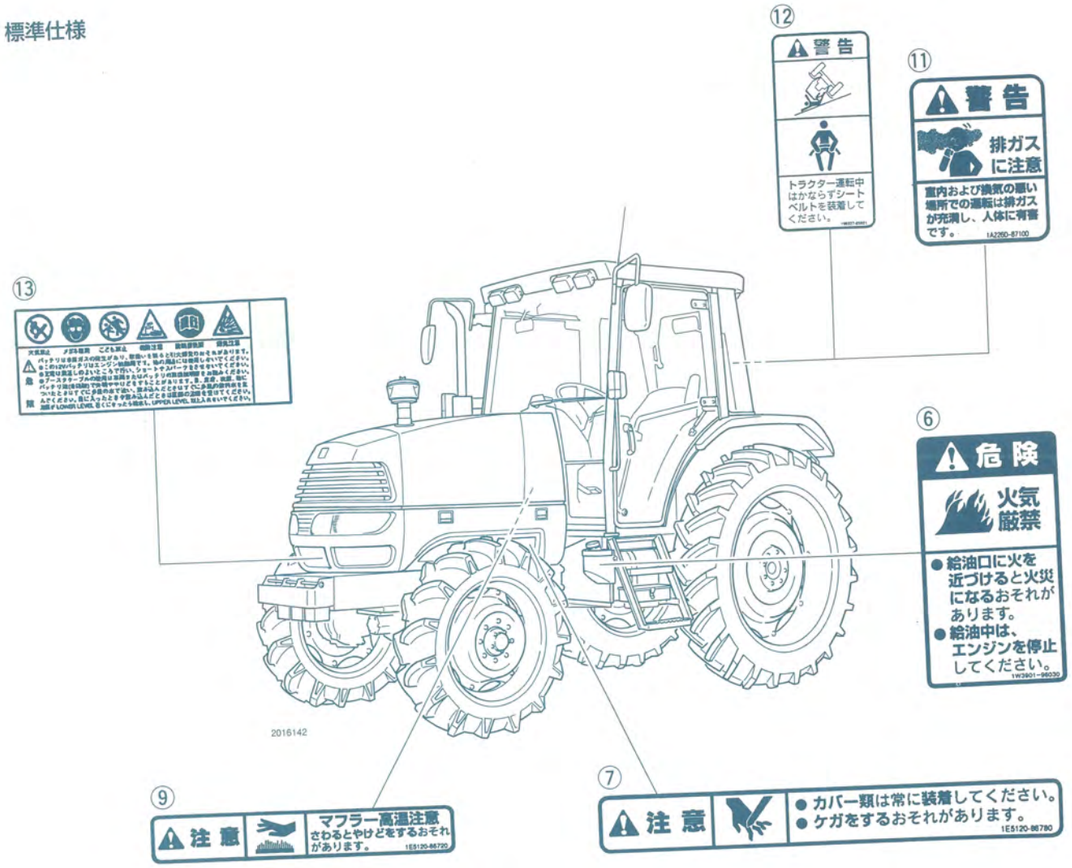


2015406

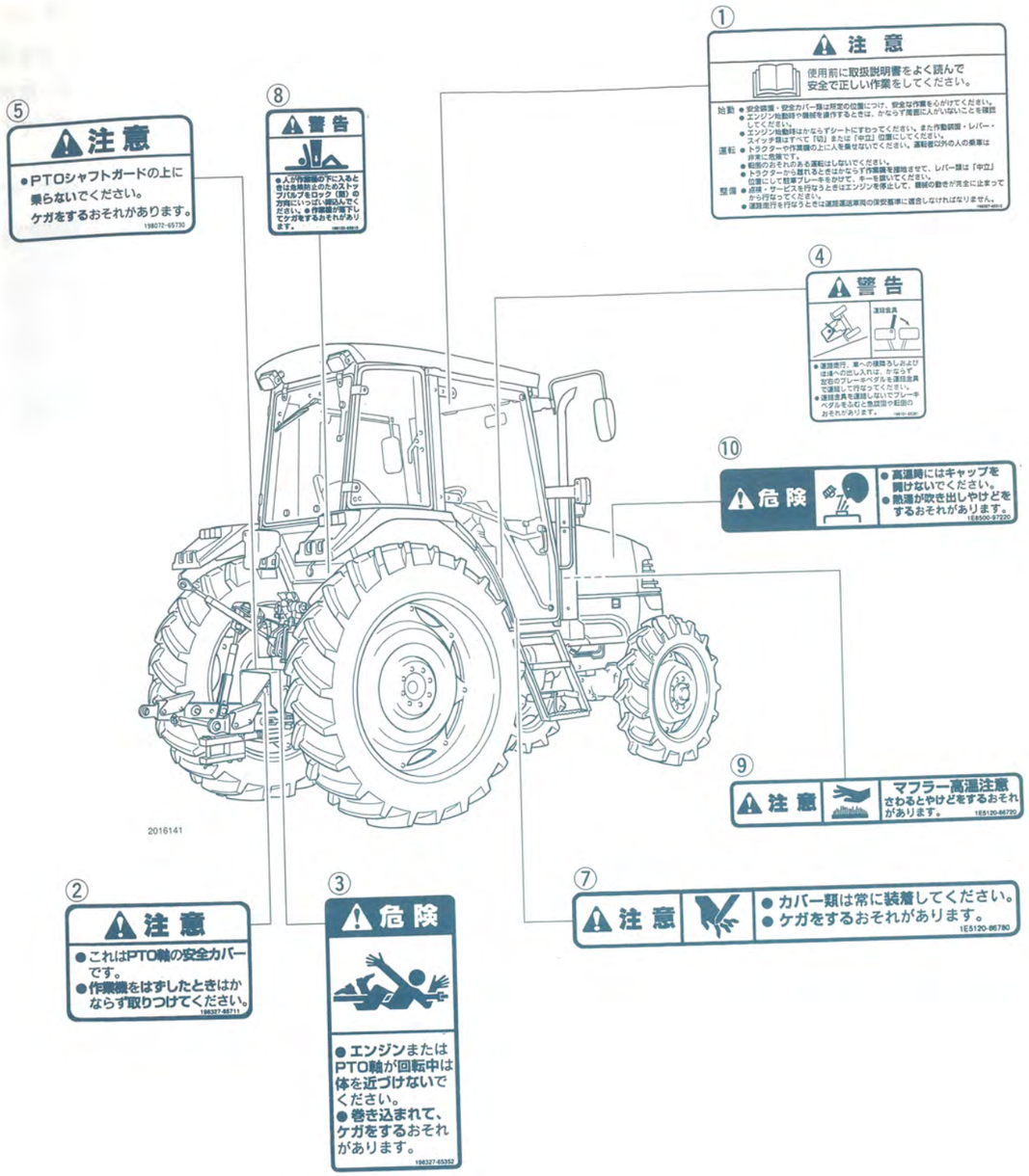
8. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼り付け位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

標準仕様



No.	部品番号	品名	No.	部品番号	品名
①	9030 0029 300	注意（安全運転）	⑧	9030 0029 380	警告（油圧）
②	9030 0029 310	注意（PTOカバー）	⑨	9030 0029 390	注意（高温注意）
③	9030 0029 320	危険（回転軸危険）	⑩	9030 0029 400	危険（ラジエータ）
④	9030 0029 330	警告（ブレーキペダル）	⑪	9354 0000 090	警告（排気ガス）
⑤	9076 0012 750	注意（ノルナ）	⑫	9030 0029 420	警告（シートベルト）
⑥	9030 0029 350	危険（火災）	⑬	9030 0030 400	危険（バッテリ）
⑦	9076 0012 730	注意（カバー装着）			



2章 公道走行と関係法規について

公道走行するための関係法規について

このトラクターは、道路運送車両法の小型特殊の対象機として型式認定を受けており、公道走行が行えます。ただし、道路交通法上は大型特殊の扱いとなります。
公道走行を行うためには、下記の事項に留意してください。

- 公道を走行する場合は、大型特殊自動車の運転免許証が必要です。必ず免許証を所持してください。
- 勝手に構造等を変更した場合は、道路を走行する為の基準に不適合となり、公道を走行することができなくなることがありますのでご注意ください。
- 作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。必ず作業機を取り外して走行してください。
- 道路運送車両法では作業灯は「道路走行中に使用しない灯火」とされています。他の交通妨害になりますので、道路走行中は点灯しないでください。
- 作業により変更した輪距などは、必ず標準状態に戻してから走行してください。(➜74ページ参照)
- 道路運送車輌法により、最高速度20㎞/h以上のトラクターで、トレーラ重量とトレーラ規定最大積載重量の合計が2000㎏を超えるトレーラをけん引する場合は、トレーラ側のブレーキとトラクターのブレーキを必ず連結し、灯火類のコードも連結してください。

ナンバープレートの交付を受けてください

このトラクターは、小型特殊自動車なので、公道を走行するしないにかかわらず、必ずトラクター取得の届出を行い、ナンバープレートの交付を受けてください。交付されたナンバープレートは、ナンバープレート取付穴に取り付けてください。



〈届け出のしかた〉
小型特殊自動車販売証明書(各特約店・JAが発行します)ならびに、小型特殊自動車届出書に軽自動車税を添えて、市長村役場へ提出してください。
※市町村により、手続きが多少異なりますので詳しくは、特約店またはJAにご相談ください。

損害賠償保険について

農耕作業用小型特殊自動車は、自動車損害賠償保険法第2条の「自動車」から省かれ、強制保険の対象から除外されております。万一の場合を考えて自動車保険の契約を希望される場合は、自動車共済、または任意の自動車保険にご加入ください。

3章 サービスと保証について

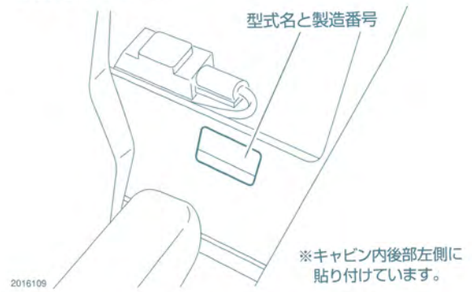
保証書は大切に保管してください

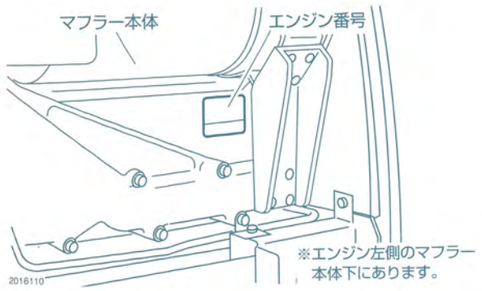
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。
(保証書は、本書と共に機械に添付しております。)

アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに110ページの「不調診断」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店、JA、お近くの当社支店までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉
- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  (何速で、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
  (約□□アールまたは約□□時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。

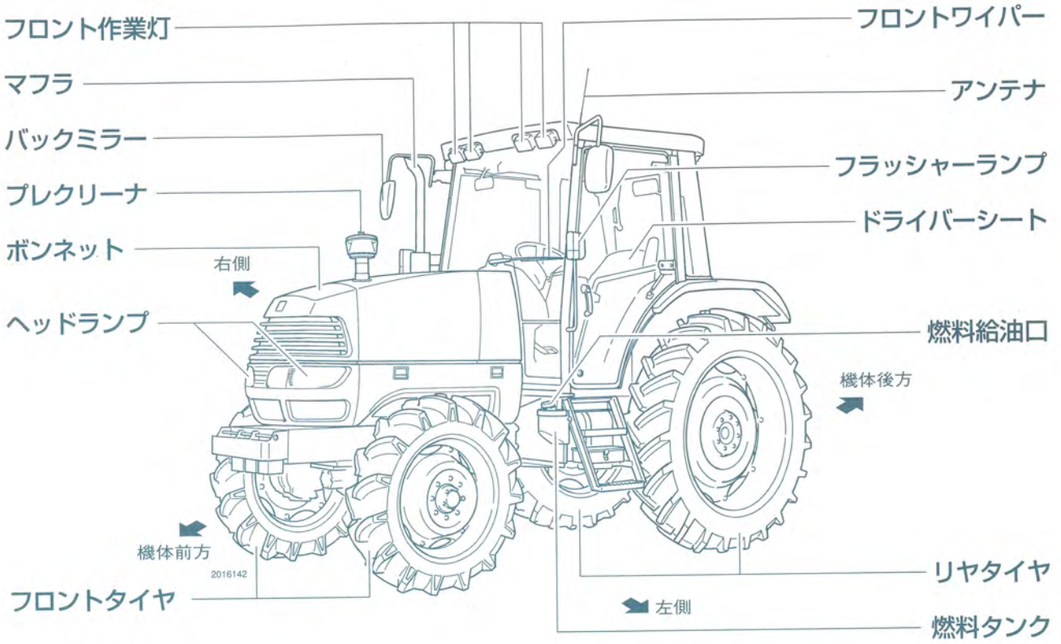


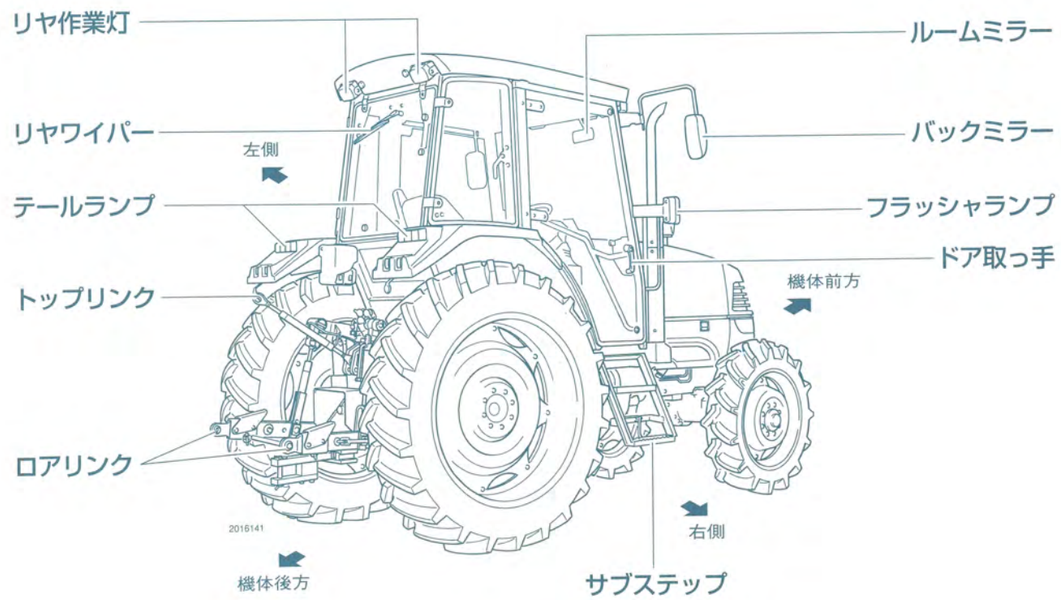


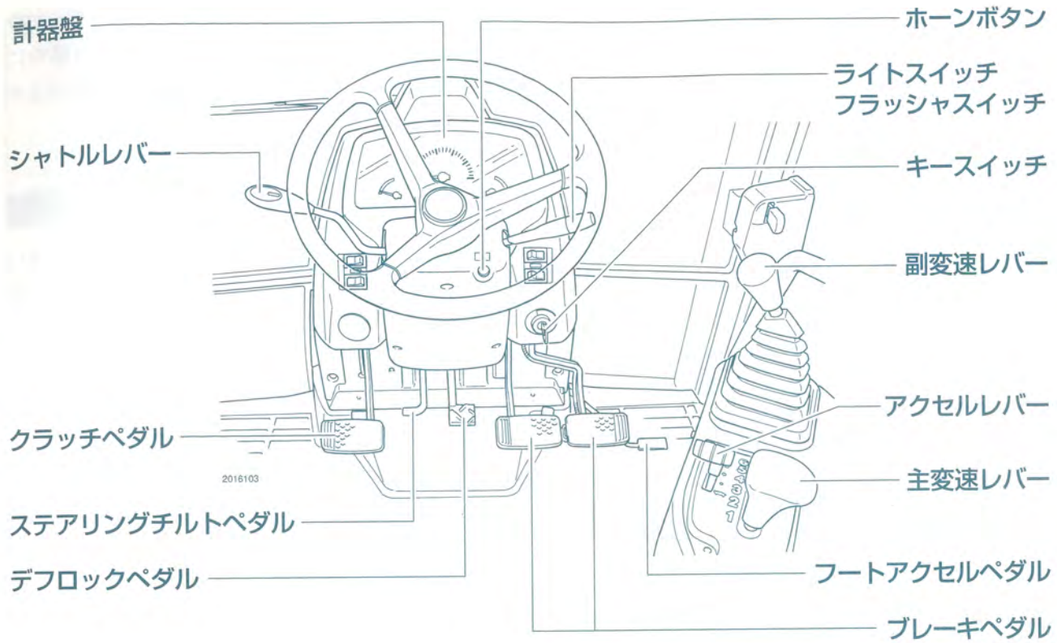
〈補修部品の供給年限について〉
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

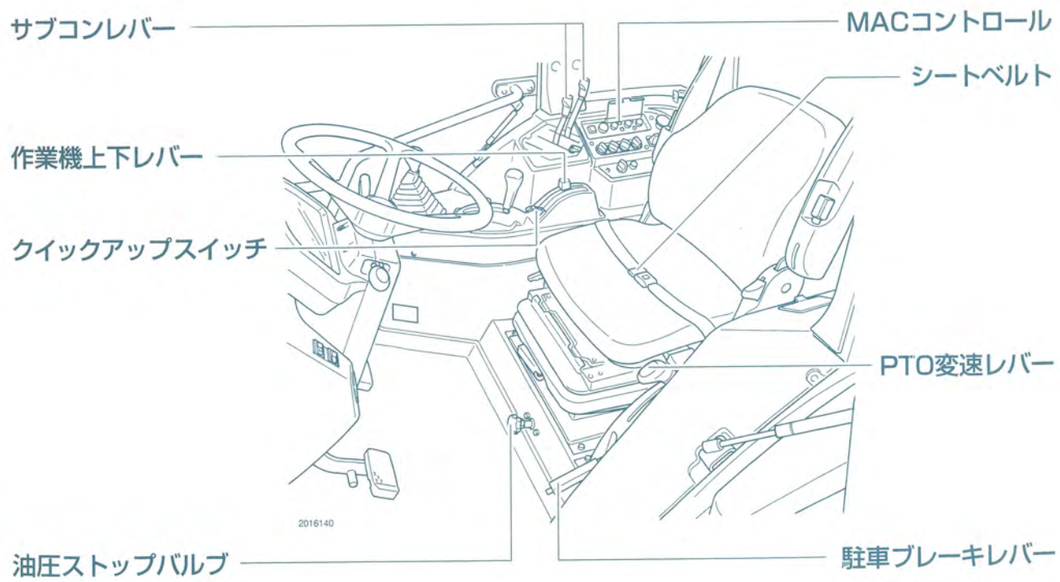
4章 各部のなまえ

この取扱説明書の説明図は、本機MT-901を基準にしています。

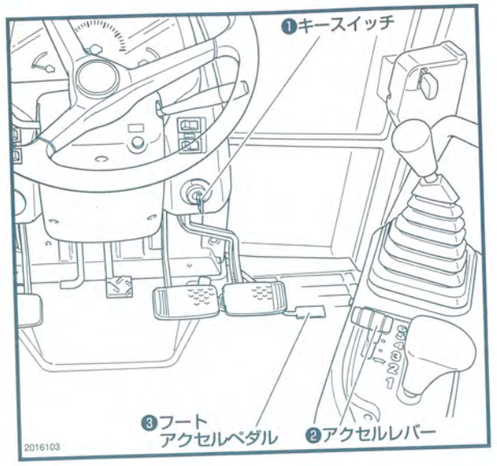








エンジンコントロール関係



❶キースイッチ

⚠注意

- **トラクターを使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。守らないと、児童などが操作し、事故を起こすおそれがあります。**

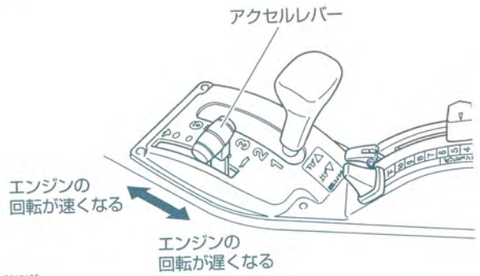
エンジンの始動・停止に使用します。



- 「切」位置……エンジンが停止します。(電流が流れず、キーを抜き取れる)
- 「入」位置……各電装品スイッチに電流が流れます。
  エンジンが停止している場合は、エンジン油圧パイロットランプとチャージパイロットランプが点灯します。
  外気温度が低い場合は、サーモスタートパイロットランプが点灯します。
- 「始動」位置…セルモータが回転し、エンジンが始動します。
  エンジンが始動したら、キーから手を離します。キーは自動的に「入」位置に戻り、連続運転になります。

❷アクセルレバー

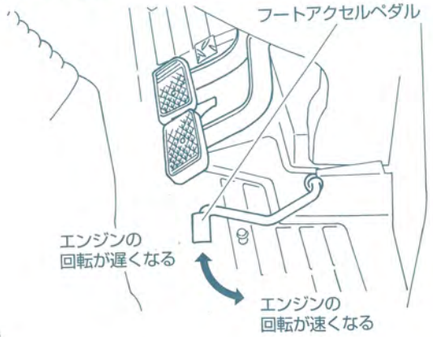
エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするときに使用します。一定回転で作業するときに使用します。



- 「🐇」側……エンジン回転が速くなります。
- 「🐢」側……エンジン回転が遅くなります。

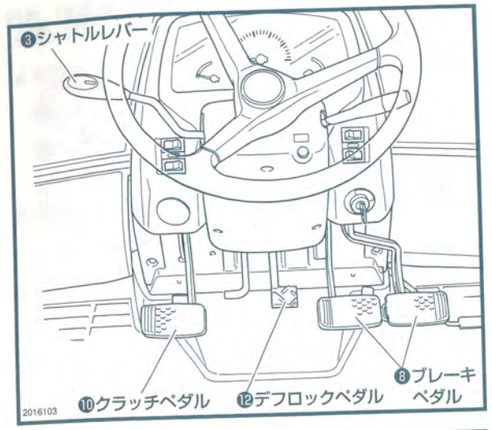
❸フートアクセルペダル

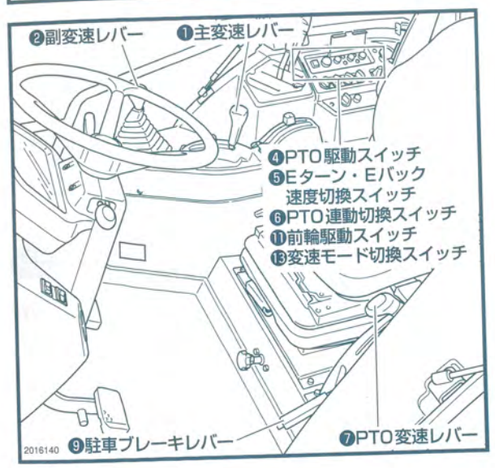
エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするときに使用します。主に、路上走行時に使用します。



- ペダルを踏み込む……エンジン回転が速くなります。
- ペダルから足を離す…エンジン回転が遅くなります。

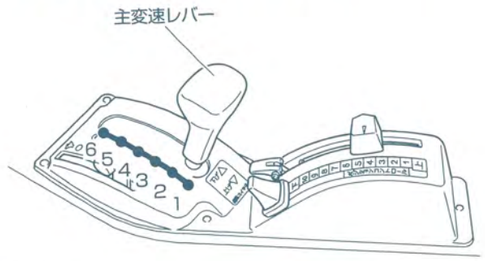
走行・PTO関係





❶主変速レバー

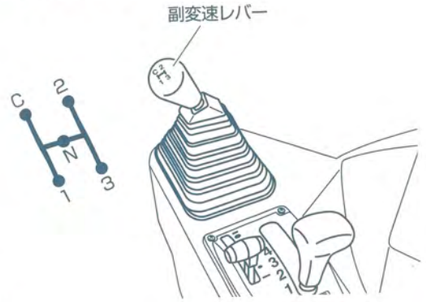
走行速度を切り換えるときに使用します。



クラッチペダルを踏まずに6段階の変速ができます。

❷副変速レバー

走行速度を切り換えるときに使用します。



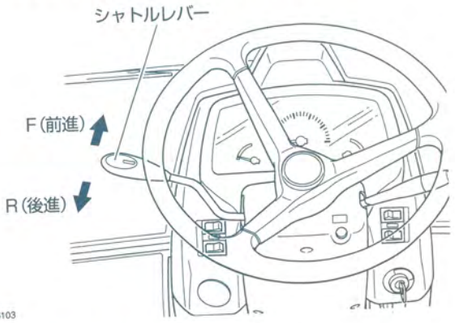
4段階の変速ができ、主変速レバー（6段階）との組み合わせにより、24段階の走行速度が選べます。
変速をするときは、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

取扱いの注意

- **「C(クリープ速度)」位置は、使いかたを誤ると故障の原因になります。**
  66ページの「10.作業に適した速度の選びかた」を参照してください。

❸シャトルレバー

「前進」と「後進」を切り換えるときに使用します。
クラッチペダルを踏まずに変速ができます。



レバーを「R」(後進) 位置にするとブザーがなります。

取扱いの注意

- **シャトルレバーを切り換えるときは、いったん「N(中立)」位置にして、機体が停止してから操作してください。**

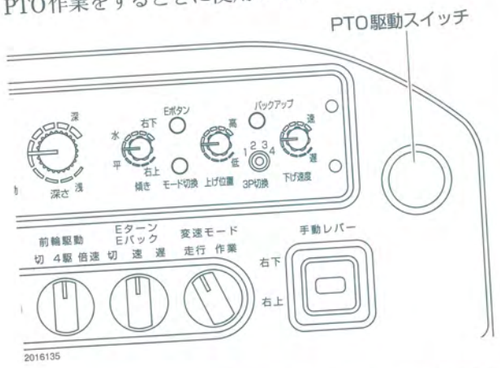
④PTO駆動スイッチ

⚠注意

- PTOを「入」にするときはエンジンの回転を下げ、作業機の下や周囲に人がいないことを確認して行ってください。
- エンジンを始動するときや、移動走行するときは必ずPTOを「切」にしてください。

守らないと傷害事故を起こすおそれがあります。

PTO作業をするときに使用します。

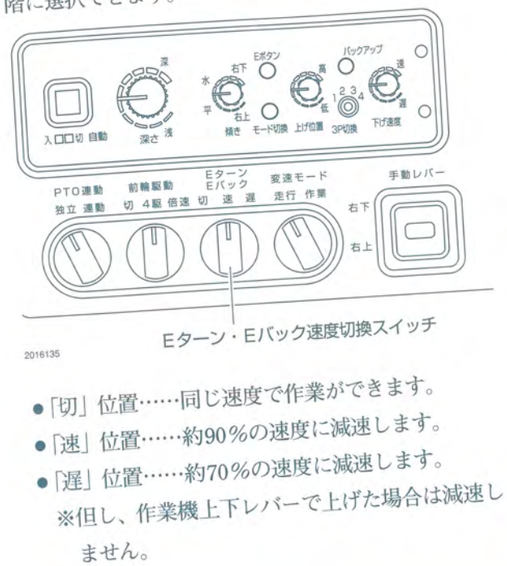


2016135

- 「切」位置……PTO駆動スイッチを押してください。PTO軸の回転が止まります。
- 「入」位置……PTO駆動スイッチを右に回してください。スイッチが上がり、PTO軸が回転します。

⑤Eターン・Eバック速度切換スイッチ

旋回（Eターン）速度と後進（Eバック）速度が、3段階に選択できます。



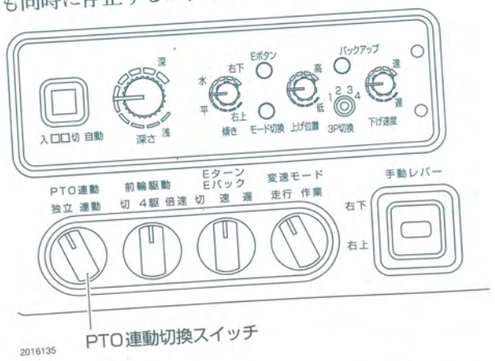
2016135

- 「切」位置……同じ速度で作業ができます。
- 「速」位置……約90％の速度に減速します。
- 「遅」位置……約70％の速度に減速します。

※但し、作業機上下レバーで上げた場合は減速しません。

⑥PTO連動切換スイッチ

クラッチペダルを踏み込んだときに、PTO軸の回転も同時に停止するか、しないかを選べます。



2016135

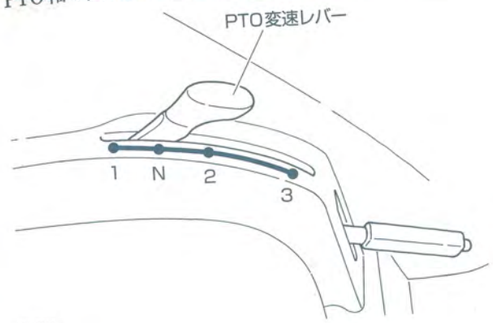
- 「独立」位置……クラッチペダルを踏み込んでも、PTO軸の回転は停止しません。
- 「連動」位置……クラッチペダルを踏み込むと、PTO軸の回転が停止します。

⑦PTO変速レバー

⚠注意

- 作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。守らないと、作業機が壊れ事故をおこすおそれがあります。

PTO軸の回転数を変えるときに使用します。



2016114

参考

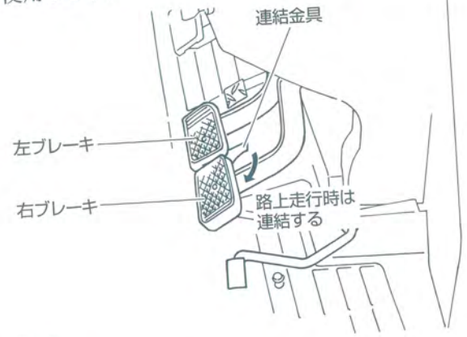
- PTO連動切換スイッチが「独立」位置のときは、PTO駆動スイッチを「切」位置にして変速してください。
- PTO連動切換スイッチが「連動」位置のときは、クラッチペダルをいっぱい踏み込んで変速してください。

⑧ブレーキペダル

⚠警告

- 移動走行時には、かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。さもないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。

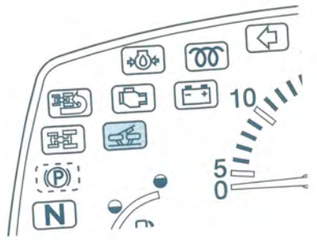
機体を停止するときや、ほ場内で旋回するときに使用します。



2016125

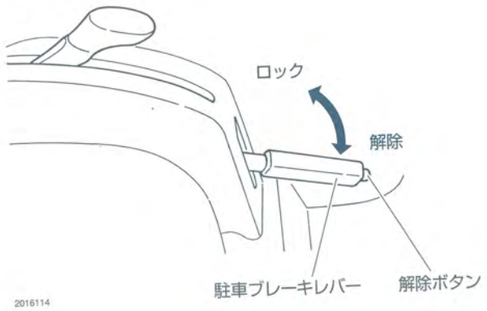
ブレーキペダルは左右独立しています。
ほ場内で小回りする場合は、旋回したい側のブレーキペダルを踏み込んでください。踏み込んだ側の後輪にブレーキがかかり、小回りできます。
路上走行する場合は、連結金具で左右のブレーキペダルを連結します。連結するとブレーキペダルを踏み込んだとき、左右同時にブレーキがかかります。

- ブレーキペダルが連結されていない場合は計器盤のブレーキ非連結ランプが点灯します。
- 連結するとランプは消灯します



⑨駐車ブレーキレバー

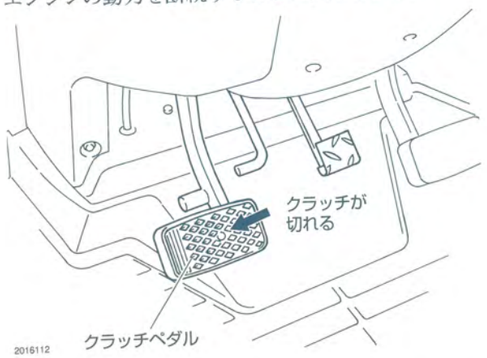
機体を駐車するときに使用します。



レバーを引き上げると駐車ブレーキが働きます。
解除するときは、解除ボタンを押したまま、レバーを押し下げます。

⑩クラッチペダル

エンジンの動力を断続するときに使用します。



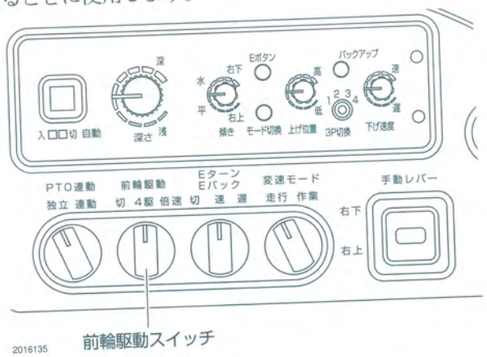
ペダルを踏み込むとクラッチが切れ、エンジンの動力が断たれます。

⑪前輪駆動スイッチ

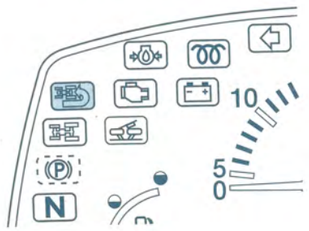
⚠警告

- 「倍速」の状態では路上走行や傾斜地走行をしないでください。守らないと転倒などの事故を起こすおそれがあります。
- 副変速レバーが「C」「1」「2」速で、スイッチを「倍速」位置に切り換えると、計器盤の倍速ランプが点灯し、倍速が働きます。
- 副変速レバーが「3」速位置では、安全のために倍速が働きません。

2輪駆動と4輪駆動、および「倍速」の切り換えをするときに使用します。



- 「切」位置……後輪の2輪駆動になります。
- 「4駆」位置……4輪駆動になります。
- 「倍速」位置 … 4輪駆動で旋回時のみ前輪が2倍の速度で駆動します。
  副変速レバーが「C」「1」「2」速の位置にあるとき、計器盤の倍速ランプが点灯し、「倍速」が働きます。



取扱いの注意

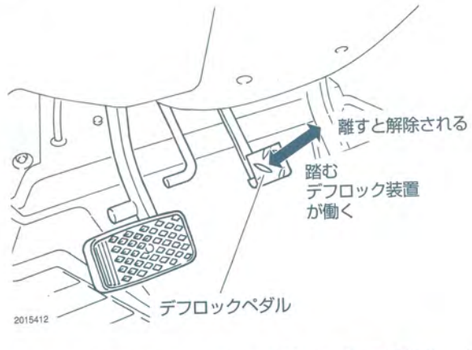
- 副変速レバーが「3」速位置のときは、倍速が働きませんので注意してください。

⑫デフロックペダル

⚠警告

- 旋回時は、かならずデフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回ができずに、事故をおこすおそれがあります。

軟弱な圃場で、後輪の片側が空転して、直進できないときに使用します。



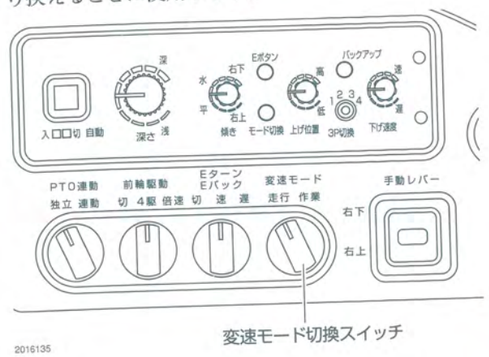
ペダルを踏み込むと左右の車輪が一体で駆動し、空転を防止します。ペダルから足を離すと解除されます。

取扱いの注意

- 路上走行時には使用しないでください。

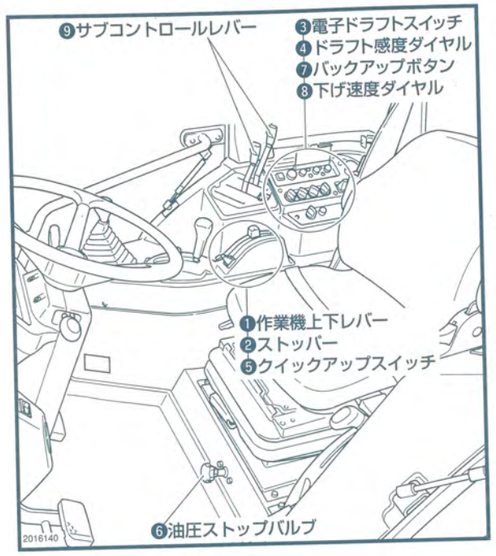
⑬変速モード切換スイッチ

発進・変速時のクラッチのつながりタイミングを切り換えるときに使用します。



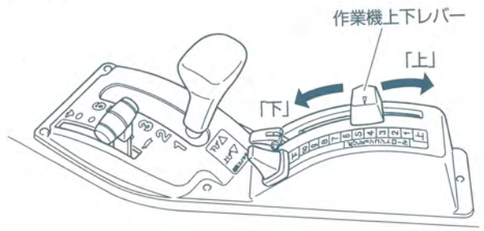
- 「走行」位置……発進・変速時のショックが滑らかになります。路上走行や移動時に使用します。
- 「作業」位置……発進・変速時のつながりが速くなります。作業時やトレーラけん引時に使用します。

油圧関係



❶作業機上下レバー

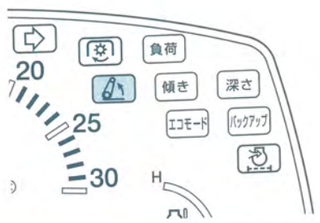
作業機を任意の位置に設定し、その位置を一定に保ちます。



- 「上」方向……作業機が上がります。
- 「下」方向……作業機が下がります。

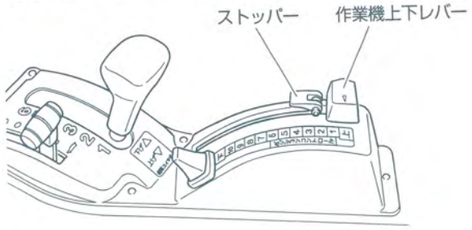
参考

- リフトランプが点灯しているときは、作業機上下レバーでは作業機が下がりません。



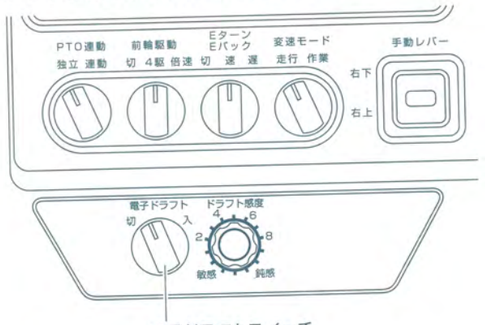
❷ストッパー

路上走行時などで作業機上下レバーを「上昇」位置で固定するとき、または作業機上下レバーの操作範囲を制限したいときに使用します。



❸電子ドラフトスイッチ

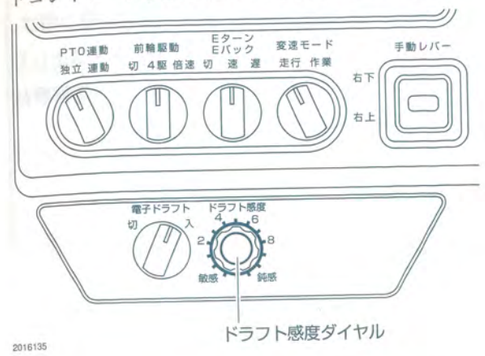
プラウなどのけん引作業に使用します。



- 「入」位置……ドラフト感度調整が働きます。
- 「切」位置……ドラフト感度調整が働きません。

❹ドラフト感度ダイヤル

電子ドラフトスイッチが「入」位置のとき、ドラフトコントロール装置の感度の切り替えができます。



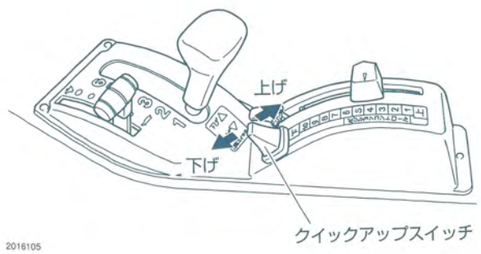
- 「鈍感」側…… けん引力の変動がある程度大きい場合にセンサが反応する。
- 「敏感」側…… 小さな変動力でセンサが反応する。

❺クイックアップスイッチ

⚠警告

● エンジンを停止しても、キースイッチが「入」位置の場合は、クイックアップスイッチを「下げ」位置にすると作業機は下降します。
人が作業機の下にいないことや、足を踏み込んだりしていないことを確認してから操作してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

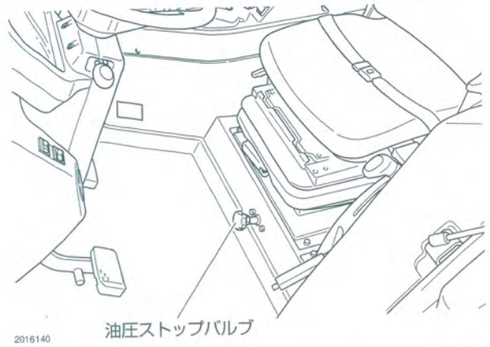
作業機の上げ下げに使用します。



- 「上げ」方向…… 作業機が上昇します。
- 「下げ」方向…… 作業機上下レバーで設定した下げ位置まで、作業機が下降して停止します。

❻油圧ストップバルブ

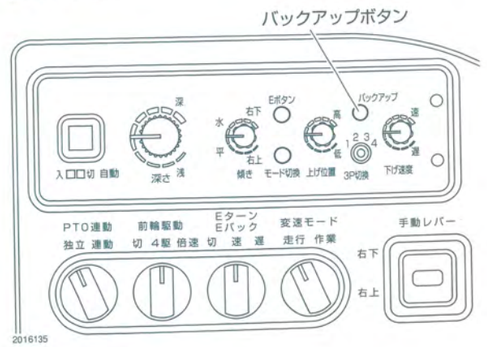
作業機昇降装置への油圧の「入」「切」に使用します。



- 「右」側へいっぱいに回す…作業機昇降装置への油圧回路が閉じます。
- 「左」側へいっぱいに回す…作業機昇降装置への油圧回路が開きます。

❼バックアップボタン

シャトルレバーを「R」（後進）位置にしたとき、作業機を自動的に上昇するか、しないかの切り換えに使用します。



●「入」……計器盤のバックアップランプが点灯し、シャトルレバーを「R」（後進）位置に入れたとき、作業機が自動的に上昇します。



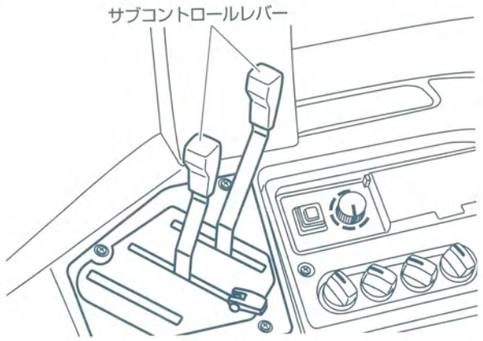
●「切」……計器盤のバックアップランプが消灯し、シャトルレバーを「R」（後進）位置に入れても作業機は上昇しません。

⑧サブコントロールレバー

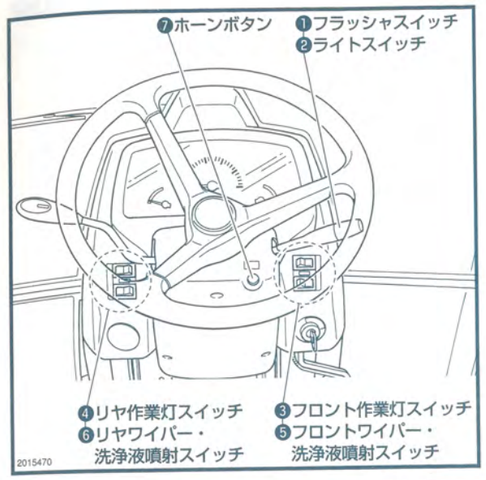
⚠注意

●油圧取出口のプラグを外したり、配管の取り付け、取り外しを行うときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。

作業機側の油圧シリンダの操作を行います。
配管と操作方法は➜76ページを参照してください。

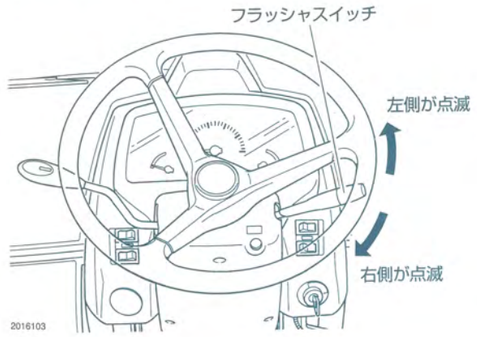


電装関係



❶フラッシャスイッチ

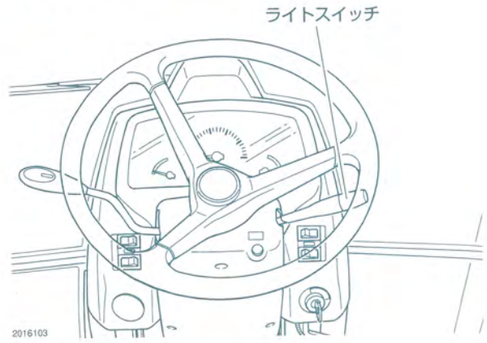
フラッシャランプ（方向指示器）を点滅させるときに使用します。



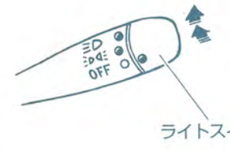
キースイッチを「入」位置にします。
- フラッシャスイッチを手前に引く……右側が点滅
- フラッシャスイッチを前側に押す……左側が点滅

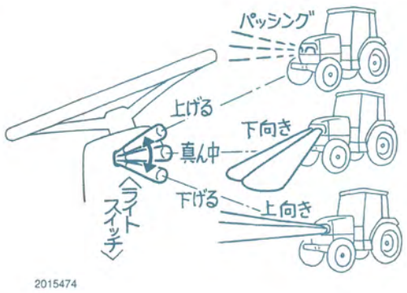
❷ライトスイッチ

車幅灯、テールランプ、計器盤、ヘッドランプの点灯・消灯、およびヘッドランプの向きの切り換えに使用します。

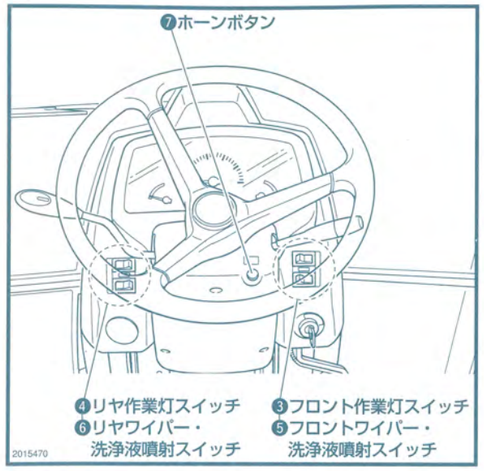


……ヘッドランプ点灯
……車幅灯、テールランプ、計器盤点灯



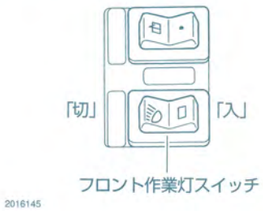


キースイッチを「入」位置にして、ライトスイッチを時計回りに1段回すと車幅灯・テールランプ・計器盤が点灯し、2段回すとヘッドランプが点灯します。
ヘッドランプが点灯した状態でスイッチを上下すると、「パッシング」「下向き」「上向き」になります。



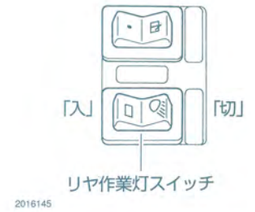
❸フロント作業灯スイッチ

スイッチを「入」位置にすると、フロント作業灯(4灯)が点灯します。



❹リヤ作業灯スイッチ

スイッチを「入」位置にすると、リヤ作業灯が点灯します。

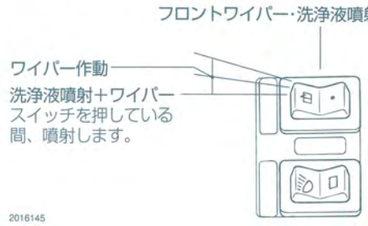


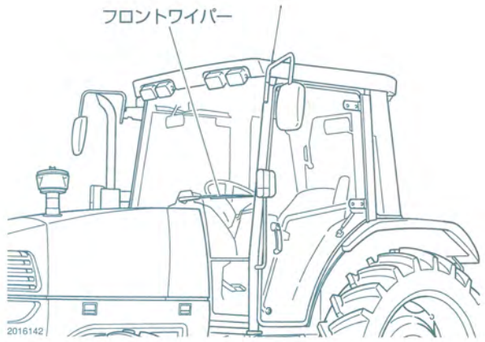
取扱いの注意

- エンジンを停止して作業灯を長時間使用すると、バッテリ容量が低下しエンジンの始動ができなくなります。

❺フロントワイパー・洗浄液噴射スイッチ

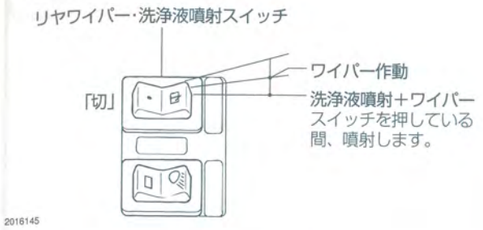
フロントワイパーと洗浄液噴射の「入」「切」に使用します。

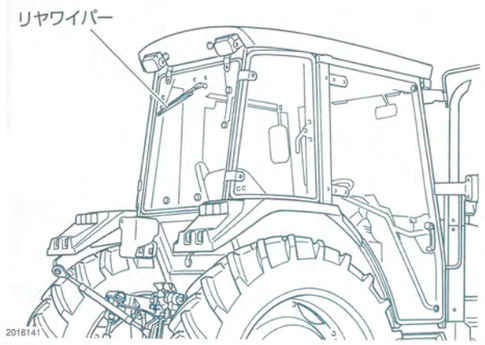




❻リヤワイパー・洗浄液噴射スイッチ

リヤワイパーと洗浄液噴射の「入」「切」に使用します。



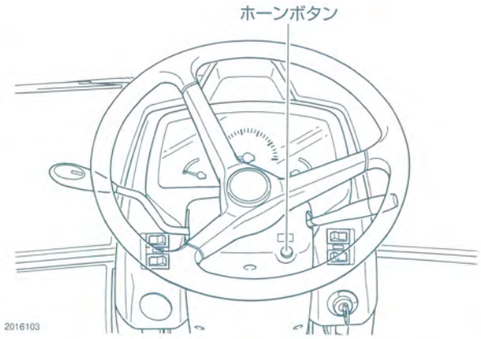


取扱いの注意

- ワイパーを止めるときは、キースイッチが「入」のままワイパースイッチを、「切」にしてください。
- ワイパーでの空ぶきは、ガラス面に傷をつけたり、ワイパーをいためますので洗浄液を噴射させてください。
- 洗浄液が出ないときは、洗浄液の噴射をしないでください。洗浄液が空のまま作動させるとポンプの故障の原因になります。
- 寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがあります。このまま作動させると、ワイパーが破損しますのでガラスを暖めてからご使用してください。
- エンジン停止状態で、ワイパーを長時間使用するとバッテリ容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

❼ホーンボタン

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。



キースイッチを「入」位置にして、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

❽テールランプ

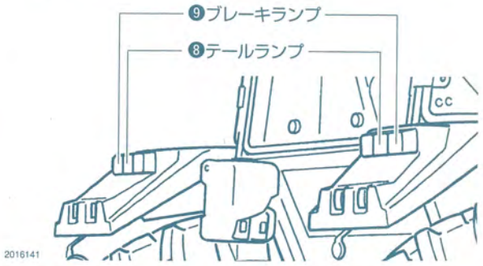
ライトスイッチと連動して点灯します。

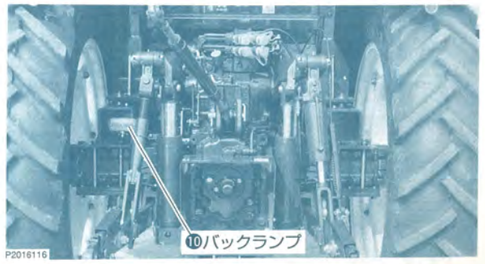
❾ブレーキランプ（制動灯）

ブレーキペダルを踏み込むと点灯します。

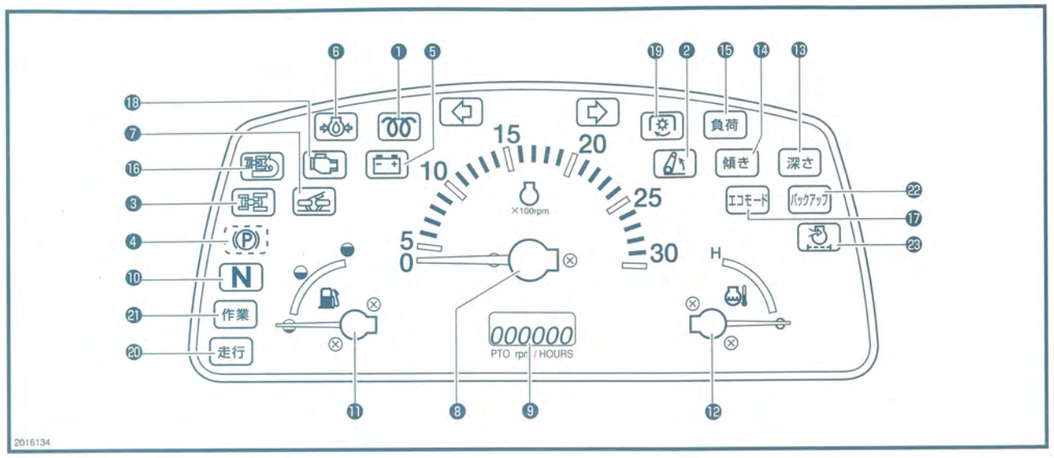
❿バックランプ（後退灯）

シャトルレバーを「R」(後進) 位置に入れると、ランプが点灯します。





計器盤



❶サーモスタートパイロットランプ

キースイッチを「入」位置にするとランプが点灯して、ヒーターに通電したことを示します。ランプが消えたら、キースイッチを「始動」位置にして、エンジンが始動できます。
通電（点灯）時間は、冷却水温により異なります。

参考

通電（点灯）時間の目安
- 冷却水温5℃以上……1秒以下
- 冷却水温5℃以下……3～5秒
- 冷却水温－20℃以上……23～25秒

❷リフトランプ

- キースイッチを「入」位置にするとランプが点灯し、2秒後に消えます。
- 作業中にランプが点灯しているときは、作業機上下レバーやクイックアップスイッチのバックアップ機構で作業機が上がっています。作業機を下げると消えます。
(➜60ページ参照)
また、外部操作スイッチで作業機を上げたときもランプが点灯します。クイックアップスイッチを「下げ」位置にするとランプは消灯します。

❸4WDランプ

前輪駆動スイッチを「4駆」位置にするとランプが点灯して、4輪駆動走行を示します。

❹駐車ブレーキパイロットランプ

駐車ブレーキレバーを引き上げるとランプが点灯して、駐車ブレーキがかかっていることを示します。

❺チャージパイロットランプ

キースイッチを「入」位置にするとランプが点灯し、エンジン始動後、エンジン回転が上がってバッテリへの充電が始まると消えます。

参考

エンジン回転が1000rpm以下では充電しませんので、1500rpm以上にしてください。

❻エンジン油圧パイロットランプ

キースイッチを「入」位置にするとランプが点灯し、エンジンを始動するとランプが消えます。
エンジン回転中にランプが点灯したときは、潤滑油回路に異常が発生しています。すぐにエンジンを停止して、不具合箇所を調べて処置してください。

❼ブレーキ非連結ランプ

ランプが点灯しているときは、左右のブレーキペダルが連結金具で連結されていません。連結するとランプは消灯します。

❽エンジン回転計

エンジン回転数を指針で示します。

❾積算時間計・PTO回転計

PTO rpm / HOURS

PTO軸の回転数またはトラクターの使用時間を表示します。
PTO軸が回転しているときは、PTO軸の回転数を［P000］で表示します。
PTO軸が回転していないときは、トラクターの使用時間を［H 000］で表示します。右端の白枠内の数字は、6倍すると「分」単位の時間になります。

❿N（ニュートラル）ランプ

N

シャトルレバーを「N」（中立）位置にすると、ランプが点灯します。
シャトルレバーを「F」（前進）または「R」（後進）位置にすると、ランプが消えます。

⓫燃料計

燃料の残量を指針で知らせます。
針が減少位置を示したときは、早めに燃料補給してください。

⓬水温計

H

運転中の冷却水温を指針で知らせます。
針がレッドゾーンを示したときは、エンジンがオーバヒートのおそれがあります。作業を中断して点検してください。

⓭深さランプ

深さ

MACボタンを「入」位置にすると、「深さ」が点灯します。
点灯中は、PACロータリの使用時に、ロータリの耕うん深さを一定に保ちます。

⓮傾きランプ

傾き

MACボタンを「入」位置にすると、「傾き」が点灯します。
点灯中は、トラクターの傾きにかかわらず、作業機を地面と一定の角度に保つことができます。また、作業機を最上げ付近に上げたときに、作業機が本機と平行になります。

⓯負荷ランプ

負荷

電子ドラフトスイッチを「入」位置にすると、「負荷」が点灯します。
点灯中は、電子ドラフトが働きます。
電子ドラフトスイッチが「切」位置で「負荷」が点灯しているときは、ロータリの耕うん深さを制御して、エンジン負荷を一定に保ちます。

⑯ダイヤクイックターン（倍速）ランプ



副変速レバーが「C」「1」「2」位置で、前輪駆動スイッチを「倍速」位置にするとランプが点灯します。
点灯中は、前輪倍速が作動します。

参考

副変速レバーが「3」位置にあるときは、前輪駆動スイッチを「倍速」位置にしても、安全のため前輪倍速が作動しません。

⑰E(エコ)モードランプ



MACボタンを「入」位置にすると、「エコモード」ランプが点灯します。
点灯中は、Eガバナーの働きで、高速耕うんに適したエンジン出力性能になります。
MACボタンを「切」位置にすると「エコモード」ランプが消え、通常のエンジン出力性能になります。

⑱トラブルランプ



「トラブル」ランプが点滅したときは、Eガバナーシステムに故障などの異常があります。直ちに使用を中止して、お買い求めの販売店またはJAにお知らせください。

⑲PTOランプ



PTO駆動スイッチを「入」位置にすると、ランプが点灯します。
点灯中は、PTO軸が回転しています。

参考

エンジン始動時に、ランプが点灯していると始動できません。PTO駆動スイッチを「切」位置にしてエンジンを始動してください。

⑳走行ランプ



変速モード切換スイッチを「走行」位置にすると、「走行」ランプが点灯します。
点灯中は、発進・変速時のショックが滑らかになります。
路上走行や移動時に使用します。

㉑作業ランプ



変速モード切換スイッチを「作業」位置にすると、「作業」ランプが点灯します。
点灯中は、発進・変速時のつながりが速くなります。
作業時やトレーラけん引時に使用します。

㉒バックアップランプ



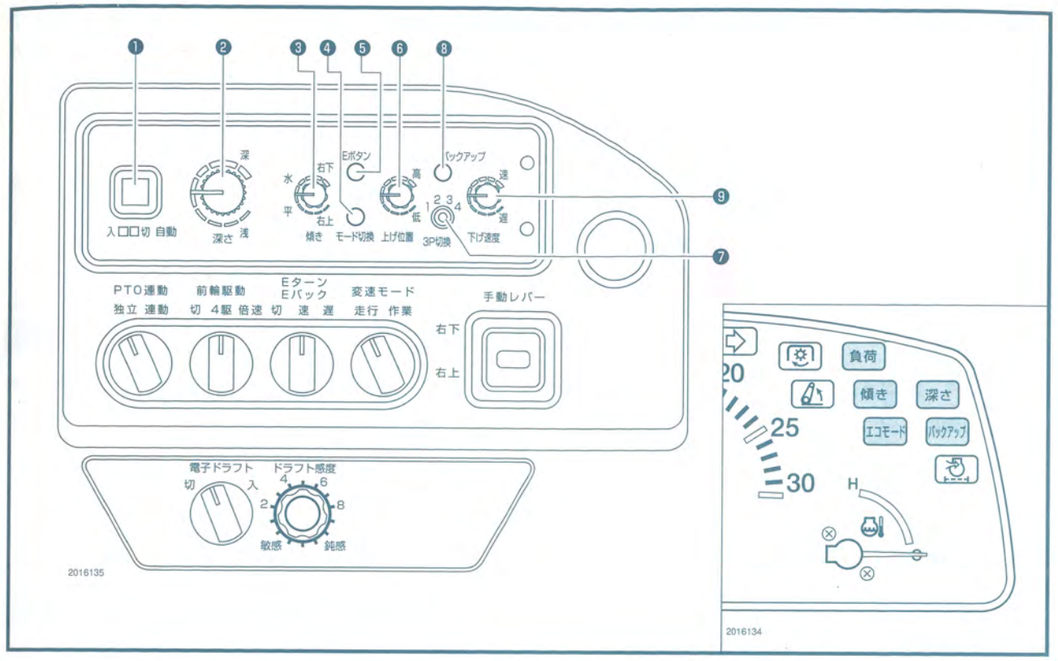
バックアップボタンを「入」位置にすると、ランプが点灯します。
点灯中は、シャトルレバーを「R」（後進）位置にすると、作業機が自動的に上昇します。

㉓エアクリーナエレメント目詰まり警告ランプ



エアクリーナエレメントに目詰まりが発生すると警告ランプが点灯します。
警告ランプが点灯したら、エレメントの清掃をしてください。(➔98ページ参照)

MAC操作部



❶MACボタン



ボタンを押すと、ランプが点灯し、深さ・傾き・Eモードを自動設定します。このとき、パネルの「深さ」「傾き」「エコモード」ランプが点灯します。この状態で、通常の耕うん作業が行えます。

❷深さダイヤル



ロータリーの耕うん深さを調節します。

❸傾き設定スイッチ



作業機の傾きを任意に設定できます。

●「傾き」自動で使用する場合

パネルの「傾き」ランプが点灯しているとき、設定スイッチを操作して、作業機を任意の角度に設定すれば、トラクターの傾きにかかわらず、作業機を地面と一定の角度に保つことが出来ます。

●「傾き」手動で使用する場合

パネルの「傾き」ランプが消灯しているとき、設定スイッチを操作して、作業機を任意の角度に設定すると本機に対して設定された角度になります。

④モード切換ボタン



作業モードの切換に使用します。

●ボタンを押すと「深さ＋傾き」「負荷＋傾き」「深さ」「傾き」「負荷」自動に順次切換ります。どのレンジに入っているかは、パネルの表示ランプに表示されます。

「深さ自動」

●PACロータリー使用時にロータリーの耕うん深さを一定に保ちます。

「傾き自動」

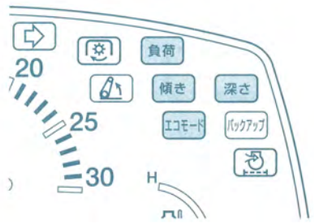
●トラクターの傾きにかかわらず、作業機を地面と一定の角度に保つことができます。また、作業機を最上げ付近に上げたときには、作業機は本機と平行になります。

「負荷」＋電子ドラフトスイッチ「切」

●ロータリーの耕深を制御してエンジン負荷を一定に保ちます。
負荷制御のみで作業する場合でも、耕深は深さダイヤルで設定します。この場合は深さダイヤルで作業機の位置の設定となります。

「Eモード」

●Eガバナーの働きで、高速でのロータリー作業に適したエンジン出力性能になります。



⑤Eボタン



●Eボタン「入」にするとEガバナーの働きで、高速耕うんに適したエンジン出力性能となります。

取扱いの注意

●ロータリー脱着時はEボタンと、電子ドラフトスイッチを「切」にして「深さ」「傾き」「負荷」「エコモード」の各ランプを消灯状態にしてください。

⑥上げ位置ダイヤル



クイックアップスイッチ、作業機上下レバー、バックアップで作業機を上げたときの作業機の最上げ位置を設定します。

⑦3P切換えスイッチ



作業機をつけかえたとき、その作業機によって定まる3点リンクの取付状態に応じて、スイッチを切換えます。(➔82ページ参照)

⑧バックアップボタン



バックアップボタンを押すと、バックアップランプが点灯し、バックアップ機構が働きます。

シャトルレバーを「R」(後進) 位置に入れると、自動的に作業機が上がります。ランプ点灯時、ボタンを押すと、ランプが消灯し、バックアップ機構が解除されます。

⚠注意

次のような作業では、バックアップ機構は解除してください。

- **トラックへの積込み・積降し作業**
- **あぜ越え・ほ場への出入り作業**
- **果樹園・ハウス内作業で支柱や木に当たる場合**
- **トレーラなど作業機を上下しない作業**
- **一般道路走行時**
- **格納時**

⑨下げ速度ダイヤル

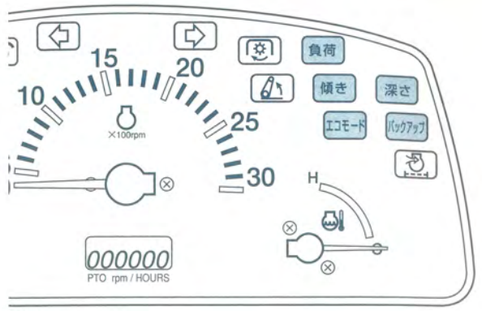


クイックアップスイッチまたは、作業機上下レバーで、下げ操作したときの、作業機の下げ速度を調節します。

- 「速」側に回す……作業機の下げ速度が速くなります。
- 「遅」側に回す……作業機の下げ速度が遅くなります。

センサ異常時の表示について

センサに異常が発生した場合は、パネルの表示ランプが点滅します。この場合は、正常作業が行えなくなりますので、特約店またはJAまでご連絡ください。



2016134

キャビン

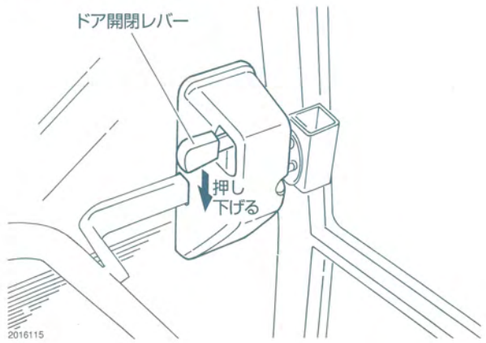
❶ドア取っ手

車外からドアを開閉するときに使用します。
ドア取っ手のボタンを押すとロックが解除され、ドアが開けられます。



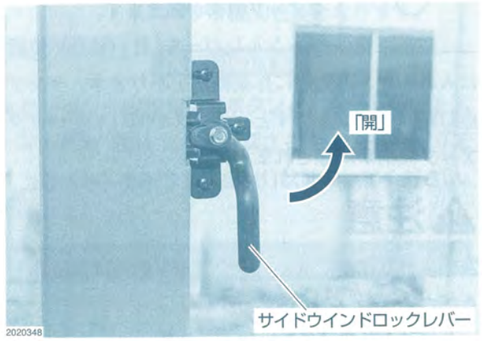
❷ドア開閉レバー

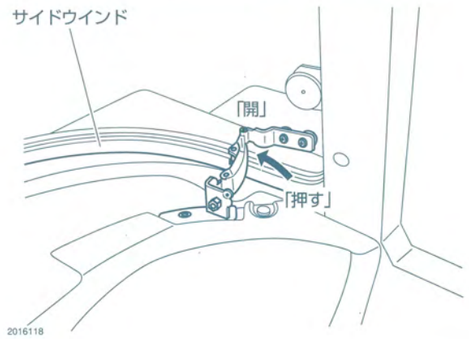
車内からドアを開閉するときに使用します。
ドア開閉レバーを下方向に押すとロックが解除され、ドアが開けられます。



❸サイドウインドロックレバー

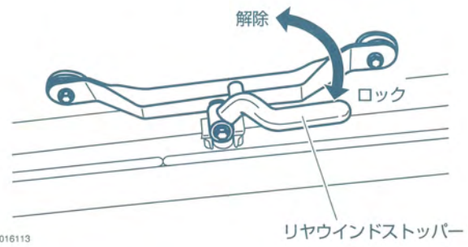
サイドウインドロックレバーを「開」側に回して、サイドウインドを外側に押すと開きます。





❹リヤウインドストッパー

リヤウインドストッパーを「解除」側に回して、リヤウインドを上に押し上げると開きます。

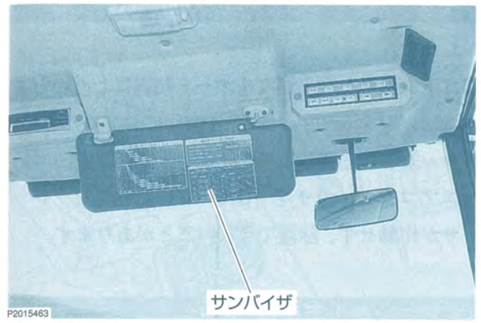


取扱いの注意

- **作業終了後トラクターを離れるときは必ず各窓を閉めてください。**
  雨水などによりキャビン内がぬれることがあります。

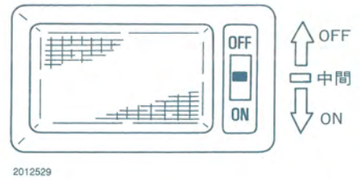
❺サンバイザ

直射日光を遮るときに使用します。



❻ルームランプ

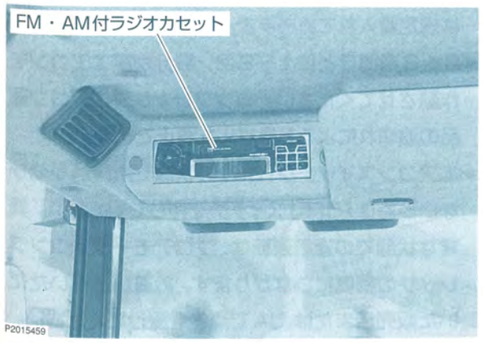
スイッチでルームランプの点灯・消灯ができます。



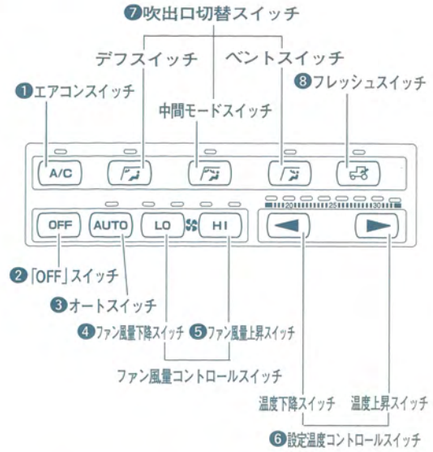
- 「ON」位置……ルームランプが点灯する。
- 「中間」位置……ドアを開けたときにルームランプが点灯する。
- 「OFF」位置……ルームランプが消える。

❼FM・AM付ラジオカセット

FM・AMラジオ・カセットテープを聞くことができます。
操作は、FM・AM付ラジオカセットの取扱説明書をお読みください。



エアコンの使いかた



❶エアコンスイッチ

スイッチを一度押すごとに、エアコンが「ON」、「OFF」に切り換わります。
※「OFF」の状態からスイッチを押すと「ON」となり、緑色のランプが点灯します。再び押すと「OFF」になります。

❷「OFF」スイッチ

スイッチを押すと、ファン、エアコンが「OFF」になります。

❸オートスイッチ

オートスイッチを押すと、ファン風量と吹出温度を自動制御します。また、エアコンスイッチは自動的に「ON」となり、オートスイッチ、エアコンスイッチのランプが点灯します。
この時、ファンコントロールスイッチの全てのランプが消灯します。

❹ファン風量下降スイッチ

オートスイッチが「ON」の状態から、ファン風量下降スイッチを1回押すごとに、風量が一段ずつ下降します。

⑤ファン風量上昇スイッチ

オートスイッチが「ON」の状態から、ファン風量上昇スイッチを1回押すごとに風量が一段ずつ上昇します。

⑥設定温度コンロールスイッチ

温度上昇、温度下降スイッチを押すと、設定温度が上昇、下降します。

- 瞬時押す場合、設定温度が1℃ずつ変化します。
- 押し続ける場合、0.3秒ごとに設定温度が1℃ずつ変化します。
- 設定温度の両端（20℃未満、30℃を越える）で最大冷房、最大暖房状態に固定します。

⑦吹出口切替スイッチ

次の3つのスイッチを押すと、温風、冷風の吹出口を切り換えることができます。



デフスイッチ
フロントガラスに向かって吹き出します。（ガラスのくもりや、凍結時に使用します。）



ベントスイッチ
左右両側の吹出口よりオペレータ側に吹き出します。



中間モードスイッチ
両吹出口から吹き出します。

⑧フレッシュスイッチ(外気導入スイッチ)

フレッシュスイッチを一度押すごとに、空気の取り入れ口を内気循環側と外気取り入れ側に切り換えます。外気取り入れ側のときには、緑色のランプが点灯します。

エアコン冷暖房のしかた

❶エアコンスイッチを「ON」にします。
❷設定温度コンロールスイッチで希望の温度に設定します。
❸ファン風量と吹出温度をオート制御にしたいときには、オートスイッチを「ON」にしてください。
※キャビン内の温度が低いとき（約15℃以下）は、エアコンスイッチを「ON」にしてもコンプレッサが作動せず、除湿できないことがあります。

エアコンを上手に使うには

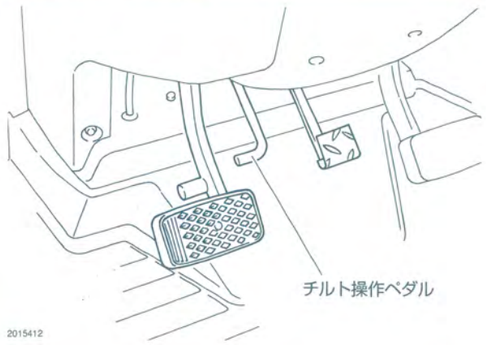
- エアコン使用時に煙草を吸ったとき、目が痛くなることがあります。このようなときはフレッシュスイッチを押して、空気の取り入れ口を外気取り入れ側に切り替えて下さい。
- 湿度の高いときは、窓ガラスが曇やすくなります。空気の取り入れ口を外気取り入れ側に切り替えて、エアコンを作動させると便利です。
- 吹出口から霧が吹き出すことがあります。これは湿った空気がエアコンユニットを通過する際、水粒子が凍って吹き出されるもので、異常ではありません。

取扱いの注意

- **エアコンスイッチはコンプレッサなどに無理な力をかけないため、エンジンを始動した後「ON」させるようにしてください。**
- **炎天下の放置状態からエアコンを使う場合には一度、ドア、窓を開けて室内空気を入れかえた後、使用してください。**
- **長期間使用しないときも、エアコン内の冷媒ガスは規定量入れておきます。**
- **2～3週間ごとに1～2回、数分程度エアコンを作動させてください。コンプレッサやエアコン部品の油切れによるトラブルを防止できます。**
- **エアコンスイッチが「ON」の状態で冷暖房が効かない場合は「OFF」スイッチを押してください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた販売店または、JAで点検を受けてください。**

その他

チルト操作ペダル



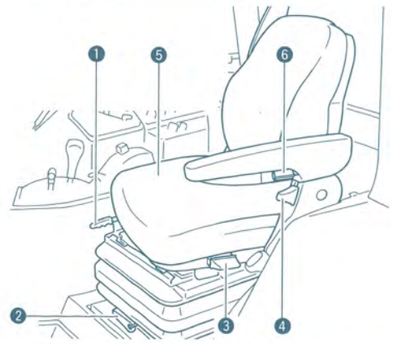
ペダルを踏み込むと、ステアリングハンドルの角度を5段階調節できます。
ペダルから足を離すと固定されます。

取扱いの注意

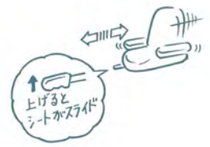
- **調節後は、ステアリングハンドルが確実に固定されていることを確認してください。**

ドライバーシート

ハンドルやレバー類・ペダルなどが楽に操作できる、ゆとりのある位置にシートを調節できます。



❶シート前後調節レバー
シートの前後調節が15段階に（150㎜）できます。



❷体重調節ハンドル
運転者の体重に合わせてシートのクッション調節ができます。



❸スイベル調節レバー
シート位置を左右に各10度回転できます。



❹リクライニング調節レバー
レバーを持ち上げて、背もたれ角度を20度の範囲で調節できます。



❺シート高さ調節
シートを持ち上げると、3段階の高さ調節ができます。シートを下げるときは、一旦最上げにすると解除になりシートは下がります。



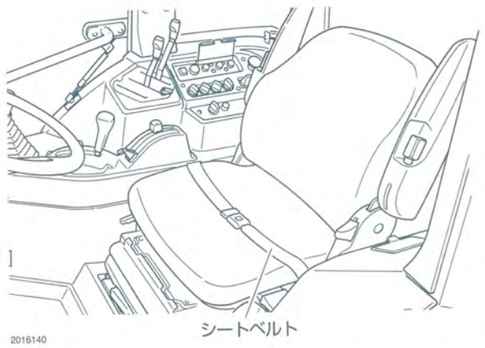
❻アームレスト調節グリップ
調節グリップを回すと上下に40度の角度が調節できます。



シートベルト

⚠警告

- トラクターを運転するときは、必ずシートベルトを着用してください。
  守らないと、転落、転倒事故のとき死亡または重傷のおそれがあります。

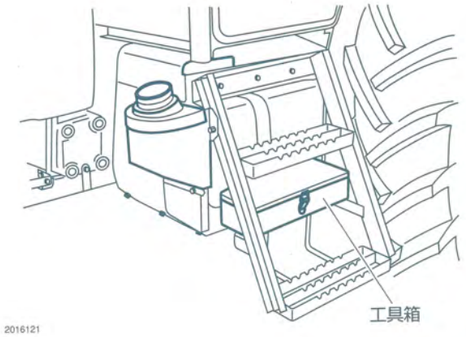


2016140

運転者の身体を、ドライバーシートに固定するときに使用します。
装着するときは、ドライバーシートに上体を起こして座り、腰骨にかかる位置にベルトがねじれないように、タングプレートをバックルの中へ「カチリ」と固定音がするまで差し込みます。
外すときは、バックルのPRESSボタンを押します。

工具箱

工具類を収納するときに使用します。左側のサブステップの内側にあります。



2016121

カップホルダー

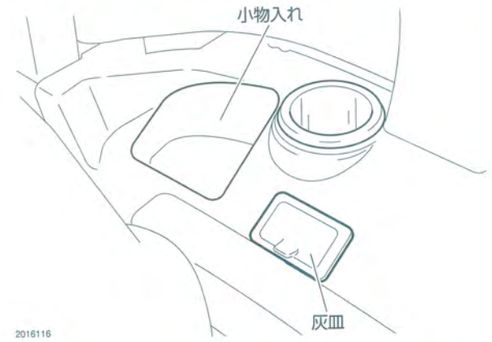
缶ジュースなどを収納することができます。



2016116

小物入れ

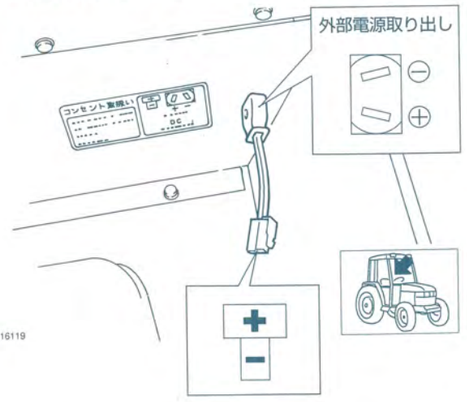
小物類を入れることができます。



2016116

外部電源取り出し

12V20A以下の外部電源を取り出すことができます。
キー連動方式で、ヒューズも装着しています。



2016119

⚠危険

- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。ヤケドをするおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。
  また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災の原因になります。
- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので、かならず点検してください。
  守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

- 安全で快適な作業を行うには、本機を使用する人が一日一回、作業前の点検を行うようにしてください。異常箇所は直ちに整備し、作業終了時も異常がないかチェックしてください。
- 点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で車止めをした上で行ってください。守らないと、機械が転倒するなど事故をおこすおそれがあります。
- 作業機の下へ入るときは、油圧ストップバルブをいっぱいに締め込んで油圧をストップさせてください。守らないと、何らかの原因で、作業機が急に下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 運転・作業前の点検時に、エンジンを始動して行う場合は、閉め切った室内で行わないでください。
- 運転・作業前の点検をするときは、点検者以外の人（特に子供）を近づけないでください。

⚠注意

- 点検・整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。
  守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。
- 点検・整備などで取り外したカバー類は、かならず取り付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

1. 作業者の体調・服装について

体調について

作業を行うときには、健康な状態で行ってください。
過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。
※特に、お酒を飲んでいる・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。



服装について

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などのすべり止めの付いた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。

※タオルをはち巻き・首巻き・腰にして作業を行わないでください。


2010903

2. 点検のしかた

運転・作業を行う前の点検は次の順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ

前日の異常箇所



2015408

- 前日の作業中に異常を感じたところがありませんか

本機の周りを回ってみて


2010567

- 各部の変形・損傷・汚れはありませんか
- タイヤの空気圧、摩耗度合、損傷はありませんか……106
- 車体各部の損傷、ボルトのゆるみはありませんか
- 車輪取付けボルトおよびリムとディスクの取付けボルトのゆるみはありませんか……74
- 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷はありませんか……88・100

ボンネットを開けてみて


2010556

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか……93
- 冷却水の量と水もれ、ホースの損傷はありませんか……96・100
- バッテリ液の量は正常ですか……99・100
- エアクリーナーの汚れはありませんか……98
- 冷却ファンのベルト張りと損傷はありませんか……104
- ラジエータグリルやエンジンルーム内のホコリやゴミはありませんか……98
- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか……101

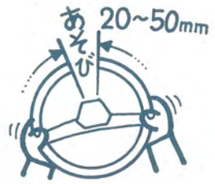
作業機側へ回ってみて


2010563

- ドライブシャフトロックピンのPTO軸への挿入状態は適正ですか
- 各部のRピンの差し込み状態は適正ですか

詳しくは作業機の取扱説明書をご覧ください。

運転席に座ってみて



2010565

- ブレーキの作動具合は適正ですか……102
- ハンドルの遊び量は適正ですか……103
- クラッチペダルの作動具合は適正ですか……103

エンジンを始動してみて



2015457

- エンジン始動後の異音はありませんか
- 排気ガスの色は正常ですか
- ランプ・メータ類の作動は正常ですか……41～46

1. ならし運転（最初の50時間）について

新車は使用時間50時間までの取り扱いが大変重要です。
トラクターの寿命、性能に大きく影響します。この期間中は、次の点に注意して、正しく取り扱ってください。

❶急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
❷必要以上のスピードや負荷をかけないでください。
❸運転はエンジンが十分に暖まってから行ってください。
❹悪路や傾斜地では、速度を落としてゆっくり走行してください。
❺使い始めて最初の50時間目には、➜91ページの表に従い各部の点検、オイルの交換等をしてください。

2.エンジンの始動・停止のしかた

⚠警告

- エンジン始動時は、かならず運転席に座ってレバーの位置と周囲の安全を確認してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 閉めきった室内ではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- 機械を使う前と後には、かならず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。
- 暖気運転中は駐車ブレーキをかけてください。守らないと、何らかの原因でトラクターが走りだし、事故をおこすおそれがあります。

始動のしかた

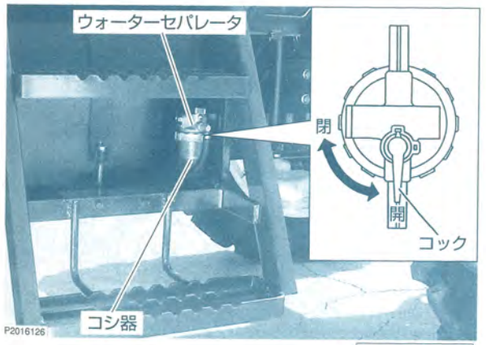
⚠注意

- 作業機上下レバーが「下」位置、でない場合、また、リフトランプが点灯しているときにはエンジンを始動しないでください。守らないと、作業機が急に上がって、傷害事故をおこすおそれがあります。

取扱いの注意

- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。
（10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから、手順⑥の操作を繰返してください。）
- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。

❶燃料こし器とウォーターセパレータのコックを「O」（開）の位置にします。





❷副変速レバー・シャトルレバーを「N」（中立）位置にし、PTO駆動スイッチを「切」位置にします。
❸作業機上下レバーを「下」位置にし、キースイッチを「入」位置にして、計器パネルのリフトランプが消えて作業機が降りていることを確認してください。



参考

- リフトランプが点灯しているときは、油圧昇降スイッチを「下げ」側に操作してください。作業機は降下し、ランプは消灯します。

❹アクセルレバーを「🐢」位置にします。
❺サーモスタートランプが消灯してからクラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「始動」位置にします。
❻エンジンが始動したら、すみやかにキースイッチから手を離してください。



参考

- エンジンが暖まっているときは、サーモスタートランプは瞬時に消えます。
- 安全スイッチの働きによりクラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとセルモータが回りませんのでエンジンの始動ができません。

❽アクセルレバーでエンジンを1500回転ぐらいに下げ、約５分間は負荷をかけずに暖機運転を行ってください。

エンジン回転計



参考

- 寒冷時は油圧系の性能を十分に発揮するために、下表を目安に暖機運転を長めに行ってください。

気　温	暖機運転時間
0℃～-10℃	10分以上
-10℃～-20℃	20分以上
-20℃以下	30分以上

停止のしかた

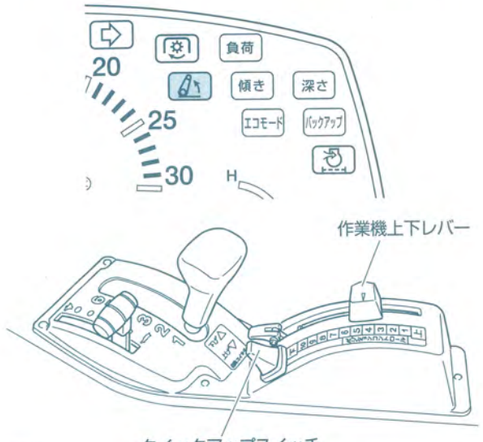
❶アクセルレバーを「🐢」位置にして、キースイッチを「切」位置にするとエンジンが停止します。



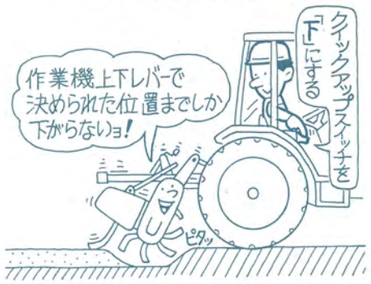
2016163

3. 作業機を上下させるには

作業機を上下させるには、作業機上下レバーまたは、クイックアップスイッチを使用します。(ほ場外では作業機上下レバーにて上下してください。)クイックアップスイッチを「上げ」位置に操作すると作業機はあがり、リフトランプが点灯します。「下げ」位置に操作すると作業機は作業機上下レバーで決められた位置まで下がり、リフトランプが消えます。



2016105



2015490

参考

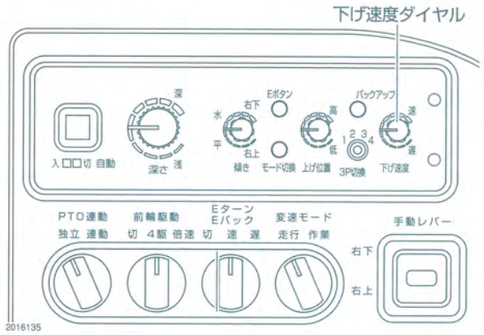
- 作業機上下レバーが最上昇位置にあるときは、クイックアップスイッチを操作しても作業機は下がりません。このとき作業機が上がっていてもリフトランプは点灯していません。作業機上下レバーを「下」方向に操作し、作業機を下げてください。
- クイックアップスイッチ・バックアップ装置で作業機を上昇させたあと、作業機を下げるには、クイックアップスイッチを「下げ」位置にするか、作業機上下レバーを一度、最上昇位置に操作した後「下」方向に操作してください。

4. 作業機の降下速度の調節のしかた

⚠警告

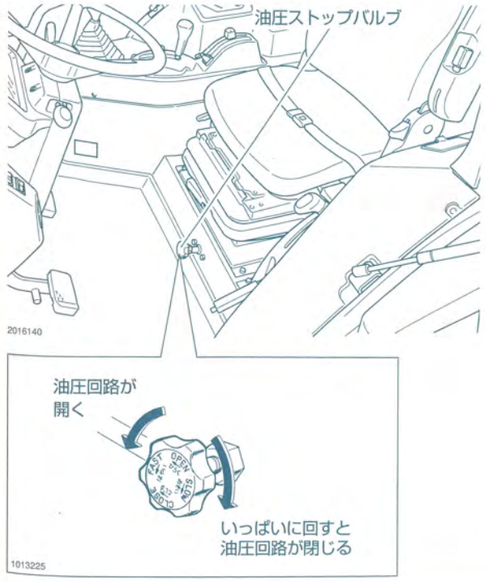
- **作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。守らないと、何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。**

作業機の降下速度を調節する場合は、下げ速度ダイヤルを「速」方向に回すと作業機は速く降り、「遅」方向に回すと作業機の降下速度は遅くなります。



2016135

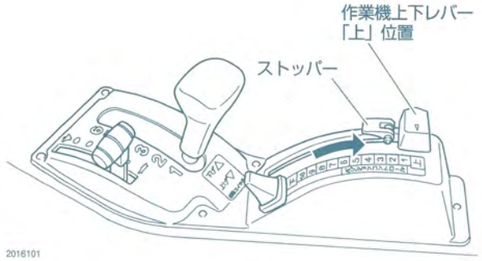
また、油圧ストップバルブを「右」方向にいっぱいまで回すと油圧がストップされ、作業機は下がりません。



2016140　1013225

取扱いの注意

- 路上走行するときは、油圧ストップバルブは開いたままで、作業機上下レバーを「上」位置にして、ストッパーでロックして走行してください。
- 油圧ストップバルブを一杯に締め込んだまま、作業機上下レバーを操作しないでください。守らないと、油圧部品の破損をひきおこします。



2016101

5. バックアップ装置の使いかた

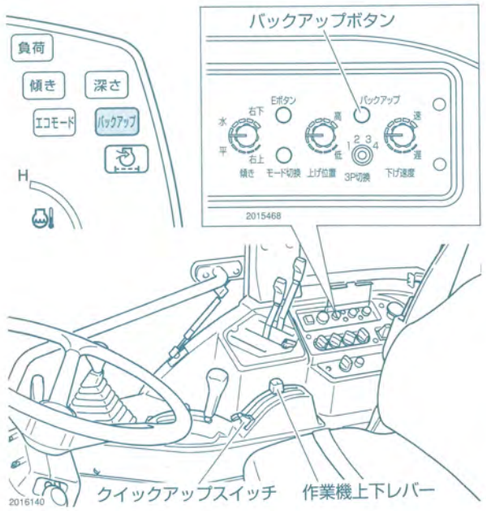
⚠警告

次のようなときは、バックアップ装置は使用しないでください。

- トラックへの積込み、積降し。
- あぜ越え、ほ場への出入り。
- 果樹園、ハウス内など支柱や木に当たるとき。
- 一般道路走行時。
- 格納時。
- 作業時の着脱・調整時。

守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

バックアップ装置を使用しますと、枕地や回り耕などでバックするときに能率良く作業ができます。
バックアップボタンを押してバックアップが「入」(ランプ点灯）の状態のとき、シャトルレバーを「R」(後進）に入れると作業機が自動的にあがりブザーが鳴ります。作業機を降ろすときは、クイックアップスイッチを「下げ」位置にします。
ゆっくり降ろしたい場合は、作業機上下レバーを一度最上昇位置に操作した後「下」方向に操作してください。



バックアップ装置を使用しないときは、バックアップスイッチを再度押して「切」(ランプ消灯）にしてください。

6. 発進・停止・駐車のしかた

⚠警告

- 発進するときは、周囲の人に合図して周囲の安全を確認した上で、急発進しないようにゆっくり発進してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 移動走行時には、かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回したり、転倒したりするおそれがあります。
- トラクターからはなれるときには、平坦で安定した場所に置き、かならず駐車ブレーキをかけ、シャトルレバーと副変速レバーを「N」(中立）位置にし、作業機を接地させてエンジンを止め、車止めをしてください。守らないと、トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。

発進のしかた

❶ブレーキペダルが連結金具で、左右連結されていることを確認します。
❷アクセルレバーでエンジン回転を約1500回転ぐらいにします。
❸作業機上下レバーを「上」方向に操作して、作業機を最上昇位置に上げます。
❹クラッチペダルを踏み込んで、副変速レバー・主変速レバーを希望の位置に確実に入れます。速度は➔66ページを参照してください。
❺シャトルレバーを「F」位置または「R」位置に入れます。



❻クラッチペダルをゆっくり離すと、トラクターが動き始めます。

取扱いの注意

- 走行中・作業中は、絶対にクラッチペダルの上に足を乗せないようにしてください。守らないと、事故やクラッチの早期摩耗をひきおこすおそれがあります。

参考

- 主変速レバー・シャトルレバーはクラッチを踏まずに操作できます。副変速は停止して、クラッチを踏んでから変速してください。

停止・駐車のしかた

❶アクセルレバーを低速側に戻して、スピードを落とします。クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込んで停止し、副変速レバー・シャトルレバーおよびPTO駆動スイッチを「切」位置にします。
❷左右のブレーキが連結金具で連結されていることを確認し、駐車ブレーキレバーを引いて、ブレーキをロックします。
❸作業機を取り付けている場合は、クイックアップスイッチを「下げ」に操作し、作業機上下レバーを「下」方向に操作して作業機を降ろしてください。



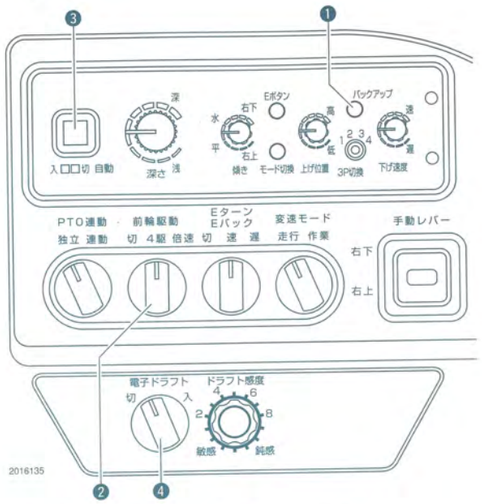
❹キースイッチを「切」にして、エンジンを停止します。

7. 道路走行のしかた

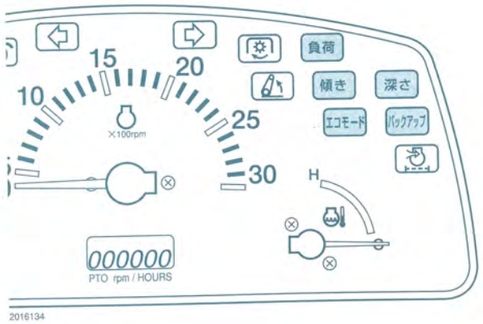
⚠警告

- 路上走行時やあぜ越え時にはかならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。
- 公道を走行するときは、道路交通法等関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。
- このトラクターの乗車定員は１名です。運転者以外に人を乗せないでください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。
- 公道走行するときは、ロータリーなどの作業機を取り外してください。守らないと、道路運送車両法違反で、事故をおこすおそれがあります。
- 路上走行時は、バックアップスイッチを「切」位置にし、前輪駆動スイッチを「切」位置にしてください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 一般道路走行時はMACボタンを「切」、電子ドラフトスイッチを「切」位置にして、「深さ」・「傾き」・「負荷」・「エコモード」の各ランプを消灯状態（手動）にしてください。

●路上走行をするときは、作業機が自然に下降したり、傾いたりしないように、次の処置を行ってください。



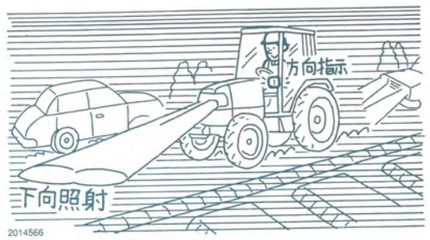
❶バックアップスイッチ……「切」
❷前輪駆動スイッチ……「切」
❸MACボタン……「切」
❹電子ドラフトスイッチ……「切」
「負荷」「傾き」「深さ」「エコモード」「バックアップ」ランプが消灯していることを確認してください。



守らないと、急旋回や転倒して事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

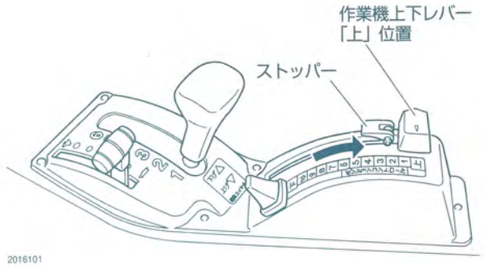
●PTO駆動スイッチを「切」位置、PTO変速レバーを「N」（中立）位置にして、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。
●走行スピードはフートアクセルペダルで調節してください。
●進路変更するときは、フラッシャスイッチによって進行方向を他の車に知らさなければなりません。
●バックミラーで後続車に注意し、追越しの妨害にならないようにしてください。
●夜間走行時ライトを点灯し、対向車とすれ違うときは、ライトスイッチを下方照射とし、対向車の妨害にならないようにしてください。



●狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は、路肩に十分注意して、スピードを落して走行してください。
守らないと、事故をおこすおそれがあります。

取扱いの注意

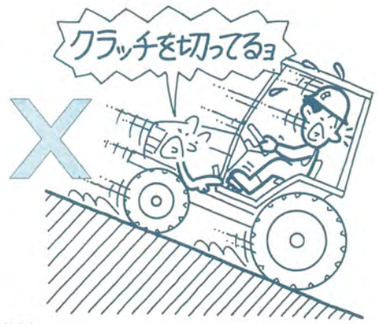
●油圧ストップバルブは開いたままで、作業機上下レバーを「上」位置にして、ストッパーをセットして走行してください。守らないと、油圧部品の破損をひきおこします。



8. 坂道での運転のしかた

⚠警告

●あらかじめ適正な速度段を選択し、坂の途中では、変速をしないでください。
●坂道ではシャトルレバー・副変速レバーを「N」（中立）位置にしないでください。
●坂道では駐車しないでください。守らないと、トラクターが坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。
●坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行してください。急な下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。
●坂の途中ではクラッチペダルを踏まないでください。トラクターがすべり落ちて大変危険です。
●上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落してゆっくりと発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。
●変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキでロックしてください。
守らないと、事故をおこすおそれがあります。

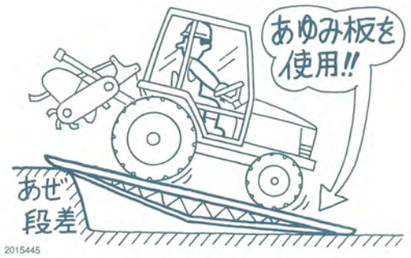


9. ほ場への出入りのしかた

⚠警告

●かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、転倒するおそれがあります。
●ほ場への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、作業機を下げ重心を低くしてください。
●急な傾斜を登る場合は、後進で、降りる場合は前進で行ってください。
●バックアップスイッチを「切」にし、前輪駆動スイッチを「4駆」の位置にしてください。
守らないと、バランスをくずし、転倒・転落のおそれがあります。

ほ場への出入りは、ほ場に対して、直角に出入りしてください。登り始めは、作業機を低くして重心を下げ、トラクターの前・後輪が完全にあがりきってから作業機を上げてください。



10. 作業に適した速度の選びかた

主変速レバーと副変速レバーとシャトルレバーの組合せにより、前進24段・後進24段の速度が選べます。下表を参考にして、作業に合った速度を選んでください。

作業速度段の選びかた

	変速段	主変速レバー	副変速レバー	MT651 MT751	MT801 MT901
				km/h	km/h
前進	1	1	C	0.20	0.21
	2	2		0.25	0.27
	3	3		0.32	0.35
	4	4		0.41	0.44
	5	5		0.51	0.55
	6	6		0.65	0.69
	7	1	1	1.21	1.30
	8	2		1.53	1.64
	9	3		1.97	2.11
	10	4		2.50	2.68
	11	5		3.14	3.36
	12	6		3.98	4.26
	13	1	2	3.57	3.83
	14	2		4.53	4.85
	15	3		5.84	6.25
	16	4		7.40	7.92
	17	5		9.29	9.94
	18	6		11.78	12.60
	19	1	3	9.12	9.76
	20	2		11.56	12.37
	21	3		14.89	15.94
	22	4		18.88	20.21
	23	5		23.69	25.36
	24	6		30.03	32.14

※後進速度は、前進速度とほぼ同じです。
※上の表は、標準タイヤサイズ装着時速度です。
MT651, 751 ：12.4-36
MT801 ：13.6-38
MT901 ：16.9-34

高速レンジでの発進は主変速「1」から発進するとスムーズな発進ができます。
パワーシフトのメリットを生かして「1」→「2」・「3」・「4」・「5」→「6」とシフトして最高速度が得られます。

取扱いの注意

〈副変速レバー「C」位置（クリープ変速）の使用について〉
クリープ速度は使用と取扱いを誤ると故障の原因になります。次のことに注意して使用してください。
(1) 使用できる作業
- ロータリーでの深耕、細土耕うん作業
- ロータリー耕うんで、ほ場が硬く標準速度で耕うんできないとき
- プランタによる移植作業
- 農業用トレンチャによる作業
- トラックへの積降し

(2) 使用できない作業
（故障の原因となります）
- 湿田での脱出時
- 重けん引作業
- フロントローダ作業
- フロントブレード作業
- 土木作業

(3) 発進・停止時について
クリープ速度では車軸の回転が大変強くなるので、ブレーキペダルだけを強く踏んでもブレーキはききません。また、故障の原因となりますので、必ず次のことを守ってください。
- 発進は駐車ブレーキを必ず外してから行ってください。
- 停止はクラッチペダルを踏んで、クラッチを切ってからブレーキをかけてください。

11. ほ場での旋回のしかた

⚠警告

- かならず、デフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回ができずに事故をおこすおそれがあります。

旋回するときは、エンジンの回転を落とし、ゆっくりなめらかに旋回してください。
❶作業機を上げます。
❷左右ブレーキペダルを連結している連結金具を外します。
❸ハンドルを切ると同時に、旋回しようとする側のブレーキペダルを踏み込むと小回りができます。

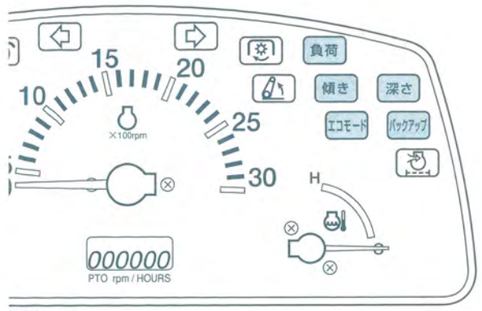


2015467

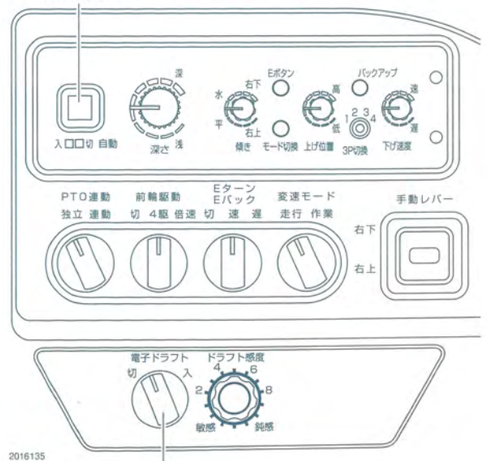
12. Eモードでの高速耕うんのしかた

⚠警告

- あぜ越えやほ場への出入り、作業機の着脱、調整時は、MACボタンを「切」、電子ドラフトスイッチを「切」位置にして、「深さ」・「傾き」・「負荷」・「エコモード」の各ランプを消灯状態（手動）にしてください。
守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。



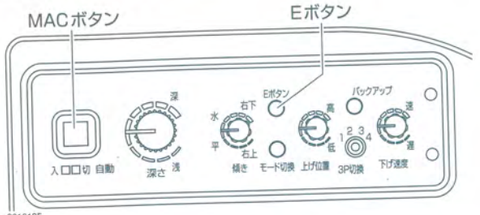
2016134



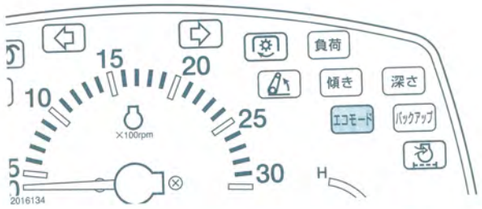
2016135
電子ドラフトスイッチ

高速耕うんに適した車速

MACボタンを「入」にするか、Eボタンを「入」にすると、計器パネルの「エコモード」ランプが点灯し、Eモード(高速耕うんモード)となります。



2016135



2016134

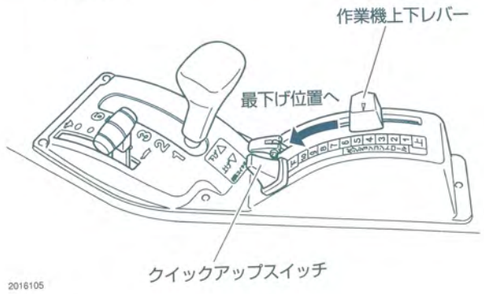
高速耕うんを行うときは、下表の速度を選んでください。

副変速	主変速	MT651 MT751 MT801 MT901	
		Km/h	Km/s
1	5	3.1～3.4	0.9
1	6	4.0～4.3	1.1～1.2

ロータリー作業(PACロータリー使用時)

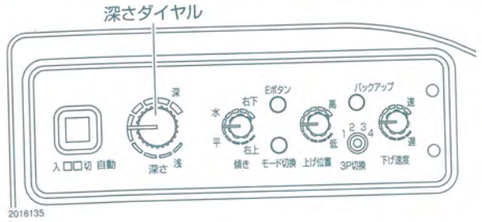
深さダイヤルで耕深を設定した後、クイックアップスイッチでロータリーを下ろしてください。

※作業機上下レバーは、「最下げ」位置にしておいてください。



2016105

実際の耕深を見ながら、希望の耕深でないときは、深さダイヤルで耕深を調節してください。



2016135

取扱いの注意

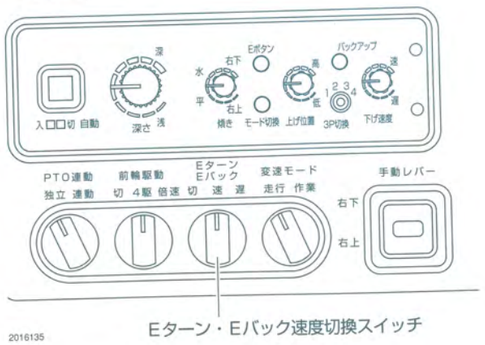
- **耕深や土質の関係でエンジン負荷が大きくなると「エコモード」ランプが点滅します。そのときは車速を1段落としてください。**



P2011937

〈Eターン・Eバックの設定〉

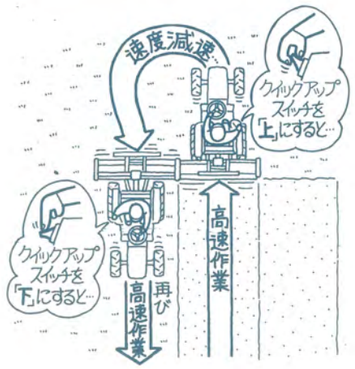
- Eモードで高速耕うん時、旋回速度または後進速度を2段階に調節できます。速いと感じるときは、Eターン・Eバック速度切換スイッチを「遅」の方へ回し、旋回速度または後進速度を落としてください。



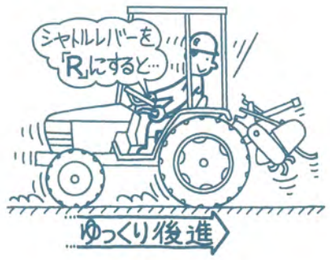
2016135

〈Eターン・Eバックの機能〉

- クイックアップスイッチを「上げ」位置にすると、エンジン回転が自動的に下がり、旋回に適した速度となります。(Eターン)
  クイックアップスイッチを「下げ」にすると、アクセルレバーで設定したエンジン回転に戻ります。



- シャトルレバーを「R」(後進) 位置にするとエンジン回転が自動的に下がり、後進に適した速度となります。(Eバック)



- Eターン・Eバック速度切換スイッチを「切」位置にすると、クイックアップスイッチを「上げ」、またはシャトルレバーを「R」(後進) 位置にしてもエンジン回転は自動では下がりません。

参考

- Eターン・Eバックは、旋回速度と後進速度を自動的に減速する機能ですが、一時的に速度を戻すときは、アクセルレバーでエンジン回転数を一旦1500rpm以下に下げるとEターン・Eバック機能は解除され、アクセルレバーで任意のエンジン回転数に復帰できます。

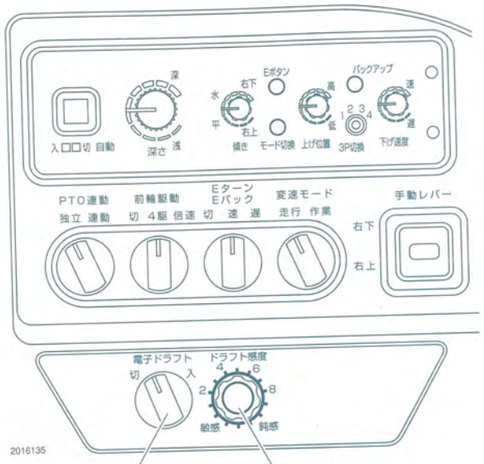


2015497

プラウ作業のしかた

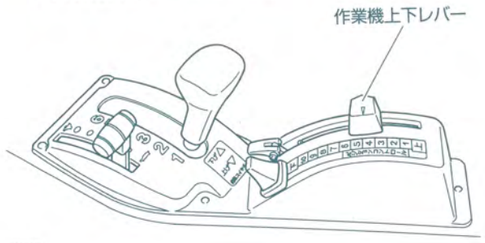
❶電子ドラフトスイッチを「入」位置にして、メーターパネルのランプ「負荷」を点灯させてください。





❷ドラフト感度ダイヤルで耕深を調整してください。

❸ほ場の起伏差が大きい場合は、作業機上下レバーで下げ規制をしてください。



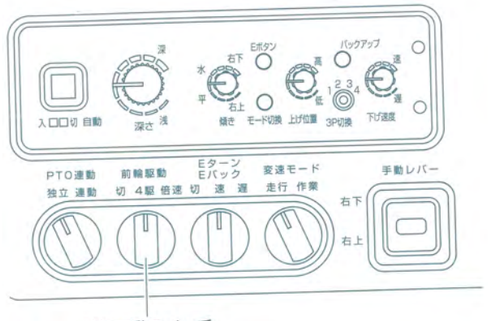
❹プラウ作業を行わない場合は、電子ドラフトスイッチを「切」位置にして負荷ランプを「消灯」にしてください。

13. 前輪倍速運転のしかた

⚠警告

- 「倍速」位置の状態で、路上走行・傾斜地作業やローダ作業はしないでください。
- ほ場から出る前には、必ず切換スイッチを「倍速」以外の位置にしてください。
- フロントローダや前輪に重荷重がかかる作業には使用しないでください。

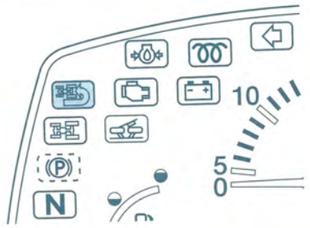
守らないと転倒などの事故を起こすおそれがあります。



前輪駆動スイッチの切換は、停車中・走行中でも、クラッチペダルを踏まずに、「切」「4駆」「倍速」が選択できます。

「前輪倍速」をほ場内で使うとスムーズに小回りができ、「旋回跡が荒れない」「旋回径が小さい」「旋回時間が短い」などの特長を生かせます。

副変速レバーが「C」「1」「2」速で、前輪駆動スイッチを「倍速」位置にすると、計器盤のランプが点灯し、前輪倍速が働きます。



取扱いの注意

安全を確保するために、次のような機構が組込まれています。

1.前輪駆動スイッチが「倍速」の状態で、副変速レバーを「3速」に入れると前輪倍速が作動しなくなります。

2.副変速レバーが「3速」の状態で、前輪駆動スイッチを「倍速」位置にしても、前輪倍速は働きません。

通常、前輪倍速はハンドルをいっぱいに切ると働き、直進状態にハンドルを戻すと4輪駆動の状態になります。

14. ロータリー耕うんのしかた

❶前輪タイヤ、後輪タイヤの輪距は、標準状態にしてください。

❷作業条件により、車速およびPTO回転速度を決めて耕うんを始めます。

❸耕うん方法は数種類ありますが、ほ場の条件によって適切な耕法を選んでください。一般的には、ロータリー耕うんは隣接耕が標準です。

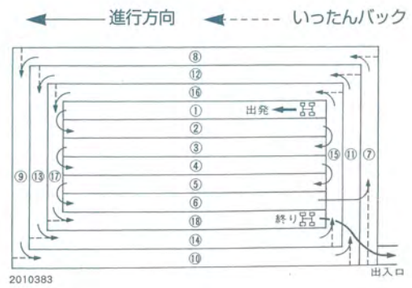
❹いずれの耕法による場合でも、トラクターの旋回ができるだけの枕地と同じ幅を、ほ場の両側に残して内側から作業を始めます。(目安として耕作地の周囲を3行程弱残します)

❺耕うん時は、前・後輪タイヤがすでに耕うんしたところに落ちないように、気をつけながら運転します。

❻サイドドライブロータリーは、右サイドフレーム側があぜぎわによるようにして耕うんすると残耕が少なくなります。

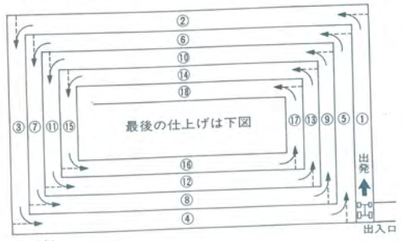
〈隣接耕うんの順序〉

- 一般的なロータリー耕うん方法です。
- 図のような順序をとるのは、一度耕うんした所を後輪タイヤで踏まないための、最善の方法です。
- したがって出発点は、トラクターが最後に外へ出る場所によって決まります。



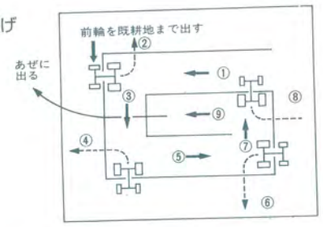
〈回り耕うんの順序〉

- 弱湿田または湿田地で、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。
- 耕うん順序は外周部から仕上げていきます。
- トラクターが最後に出る場所は、あぜに近い所から出てください。



2010384

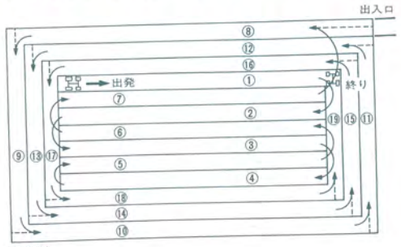
最後の仕上げ



2010585

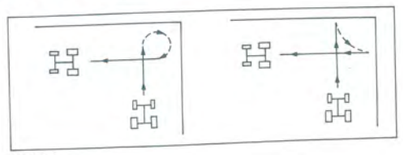
〈一うね置き耕うんの手順〉

一うね置き耕うんは、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。



2010386

〈トラクターの方向転換〉


2010387

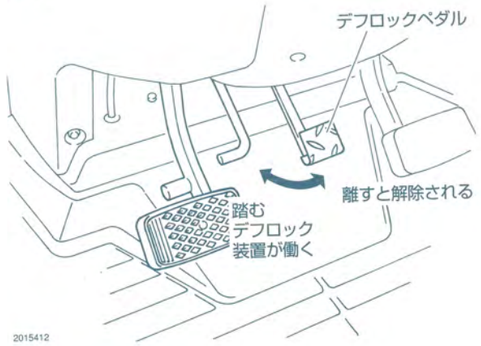
15. デフロックの使いかた

⚠警告

- **かならずデフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回できずに事故をおこすおそれがあります。**
- **路上走行中は、絶対にデフロックを使用しないでください。守らないと、走行が不安定になり事故をおこすおそれがあります。**

デフロックペダルを踏むと、差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。

湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいときに使用すると効果があります。



2015412

取扱いの注意

- デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行ってください。
- 抜けにくいときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
- クリープ（超低速）での使用は、絶対さけてください。

16. トラックへの積込み・積降しのしかた

⚠危険

- **トラックへの積込み・積降しは、進路変更をすることがないように進路を定めて低速で行ってください。あゆみ板の上で進路を変えたり停止するために、クラッチの操作を絶対にしないでください。守らないと、転落などの事故をおこすおそれがあります。**

⚠警告

- **トラックへの積込み・積降しは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選び、あゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。**
- **トラックへの積込みは後進で、積降しは前進で行ってください。**
- **トラックにのせて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。**

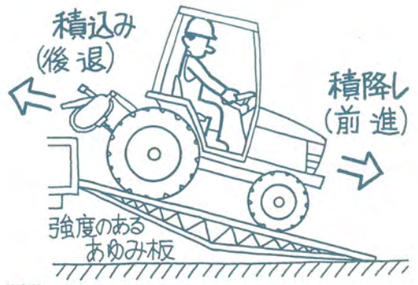
守らないと、トラクターが転落するなど、事故をおこすおそれがあります。

〈積込み操作要領〉

❶十分な強度と長さのあゆみ板を使用します。
❷ブレーキペダルは必ず連結してください。
❸バックアップボタンは「切」の位置にしてください。
❹変速は低速位置で、シャトルレバーを「R」（後進）位置（積降し時は「F」位置）でエンジン回転を低速にして積込んでください。
❺前輪駆動スイッチを「4駆」位置にし、落輪しないようにハンドルは慎重に操作してください。
❻万一積込み途中でエンストしたときは、すぐにブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ降りてください。あらためてエンジンを始動し積込んでください。
❼積込みが終了したら、駐車ブレーキをかけキーを外して、ロープで本機を確実に固定してください。

〈積降し操作要領〉

❶積込みと逆の手順で行ってください。



2015432

17. 車輪幅(輪距)の調節のしかた

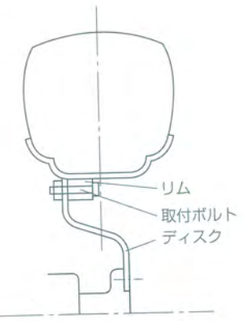
作業の種類・作物の条間に合わせ、トラクターの車輪幅を調節してください。また、傾斜地作業やけん引作業には、車輪幅を広げて使用してください。

締付トルクについて

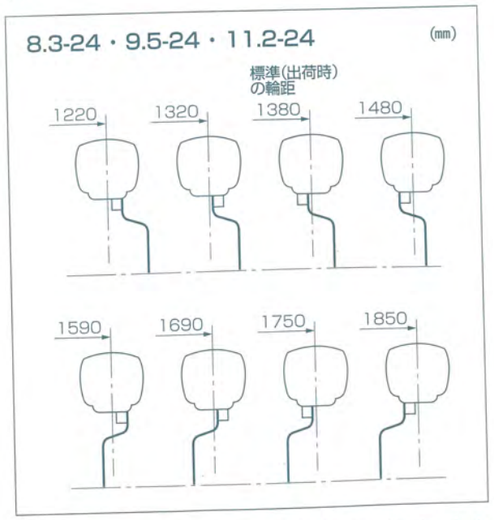
リムとディスクの取付ボルト		250～294N・m(26～30kg・m)
ホイルと車軸の取付ボルト	前輪	167～206N・m(17～21kg・m)
	後輪	342～372N・m(35～38kg・m)

前輪輪距調節

リムとディスクの取り付け位置変更により、8段階に変えられます。



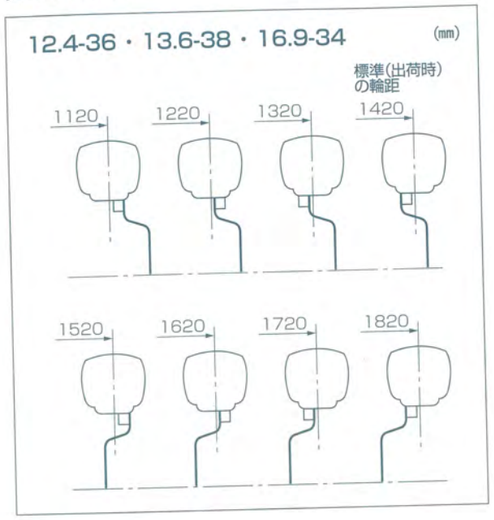
2016131



※タイヤサイズ11.2-24のみ輪距1220で使用できません。

後輪輪距調節

リムとディスクの取り付け位置変更により8段階に変えられます。



取扱いの注意

- **輪距1120㎜は、タイヤと車体が接触しますので、使用しないでください。**
- **16.9-34のみ輪距1120・1220で使用できません。**

フロントローダ装着時の前輪輪距

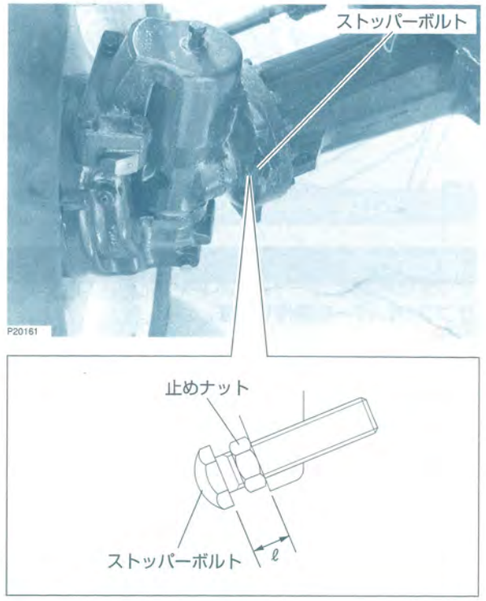
フロントローダを装着した場合、前輪を広げすぎるとフロントローダ本体とタイヤが接触することがありますので、下表の範囲内で右表のタイヤ内切角度と合わせ、調節してください。

輪距(mm) \ タイヤサイズ	8.3-24	9.5-24	11.2-24
1220	○	○	×
1320	○	○	○
1380	○	○	○
1480	○	○	○
1590	○	×	×
1690	×	×	×
1750	×	×	×
1850	×	×	×

○：使用できます。
×：使用できません。

前輪切れ角度の調節

輪距を狭くした場合、旋回時にタイヤがトラクター本体に接触することがありますので、次の要領でタイヤ切れ角度を調節してください。



ℓ 寸法表（ ）は内切角度

輪距(mm) \ タイヤサイズ	8.3-24	9.5-24	11.2-24
	ℓ 寸法(mm)		
1220	36(40°)	36(40°)	
1320	23(48°)	28(45°)	28(45°)
1380	10(55°)	23(48°)	23(48°)
1480	10(55°)	10(55°)	23(48°)
1590	10(55°)	10(55°)	10(55°)
1690	10(55°)	10(55°)	10(55°)
1750	10(55°)	10(55°)	10(55°)
1850	10(55°)	10(55°)	10(55°)

調節要領

ストッパーボルトの止めナットをゆるめ、ストッパーボルトを上記の ℓ 寸法に調節してください。

取扱いの注意

- **調節後は、止めナットを確実に締めつけてください。**

タイヤの空気圧

⚠警告

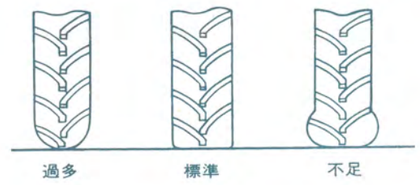
- **タイヤに空気を入れるときは、規定の最大空気圧以上に空気を入れないでください。**
  守らないと、タイヤが破裂し、傷害事故をおこすおそれがあります。

前・後輪の空気圧を標準空気圧に調整してください。

タイヤの空気圧

	タイヤサイズ	標準空気圧 KPa（kgf/㎠）
前輪	8.3-24	240（2.4）
	9.5-24	220（2.2）
	11.2-24	180（1.8）
後輪	12.4-36	160（1.6）
	12.4-38	160（1.6）
	13.6-38	160（1.6）
	16.9-34	120（1.2）

前・後輪の空気圧が適正かどうか、外観上の判断する目安は下図のとおりです。



18. サブコントロールバルブ（2連）の使いかた

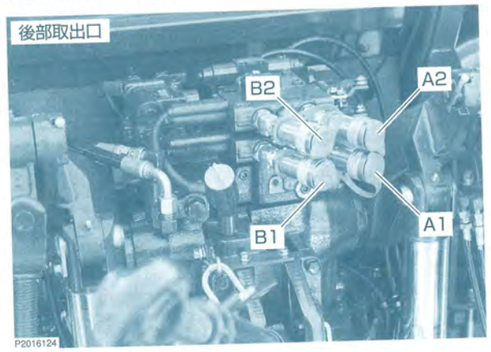
⚠注意

- 油圧取出口のプラグを外したり、配管の取り付け、取り外しを行なうときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。

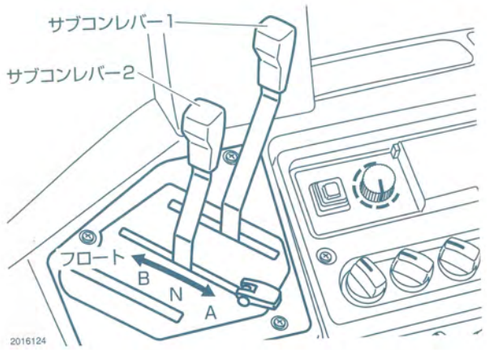
単動・複動・フロートが兼用のサブコントロールです。

- セット圧　19.6MPa（200kgf／cm²）
- 油 流 量　49ℓ／分

油圧取出口は、トラクター後部にあります。取出口は、クイックカプラーです。



単動シリンダを使用する場合は、Aポートに配管してください。



複動の場合

サブコンレバーを操作します。

A方向へ引く　：Aポートから油が出る。
（通常シリンダ伸び側）

B方向へ押す　：Bポートから油が出る。
（通常シリンダ縮み側）

フロート位置へ押す：フロートの状態になります。

単動の場合

サブコンレバーを操作します。

A方向へ引く　：Aポートから油が出る。
（通常シリンダ伸び側）

フロート位置へ押す：フロートの状態になります。
（通常作業機等の重さでシリンダが縮みます。）

作業機の装着

油圧配管は、必ずA1, B1系統と、A2, B2系統に分けて接続してください。

※油圧作業機の詳しい取り付けかたは、各作業機の取扱説明書を参照してください。

取扱いの注意

- **取出ポートのネジの取り付け、取り外しをしたときは、取出口の二面幅（27㎜）をスパナで固定してください。**

19. 油圧外部の取り出しかた

⚠注意

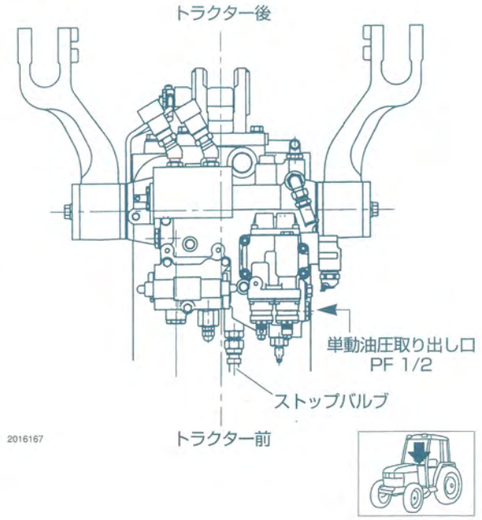
- **油圧取出口のプラグを外したり、配管の取り付け、取り外しを行うときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。**

単動シリンダ…ダンプトレーラなど

ダンプトレーラなどシリンダーの場合、シリンダヘッド油圧取出口のプラグを外し、作業機側のホースを取り付けます。

〈操作要領〉

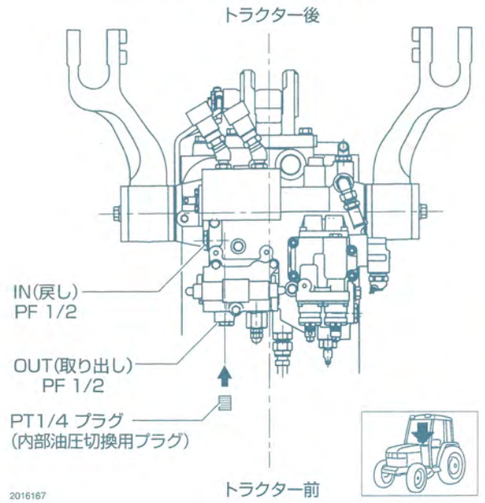
❶作業機上下レバーを「下」位置にします。
❷油圧ストップバルブを「閉」方向にいっぱいに締めます。
❸作業機上下レバーを操作して、作業機を動かします。



複動油圧取出口…フロントローダなど

❶トラクターの後部右側にある外部油圧取出口を、作業機のバルブと配管してください。（内部油圧切換用PT1/4プラグを組み込みます。）

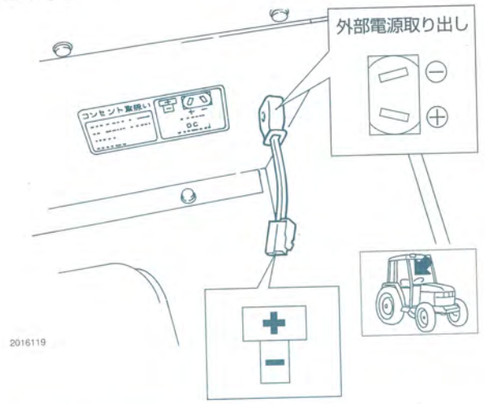
前側……OUT
（取り出し、PF1/2 Oリングポート）
外側……IN
（戻し、PF1/2 Oリングポート）



※作業要領および油圧作業機の詳しい取り付けかたは、各作業機の取扱説明書を参照してください。

20. 外部電源・充電コンセントについて

作業機への外部電源取出しや、バッテリの充電に使用します。充電の場合は、充電器の出力側を差し込みます。

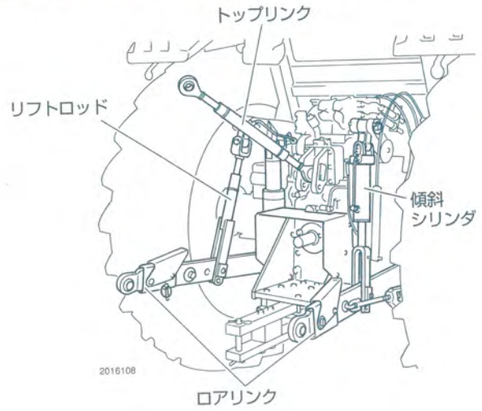


取扱いの注意

- このコンセントに100Vの家庭用電源（交流）、および24Vのバッテリ電源を直接さし込まないでください。
  守らないと、電装品の破損を引きおこします。
- 端子のプラス、マイナスを間違えたり、過負荷電流で使用しますと（最大：12V15A）ヒューズが切れます。ヒューズの交換は、ヒューズボックス内で行います。
  （→105ページ参照）

21. 3点リンクについて

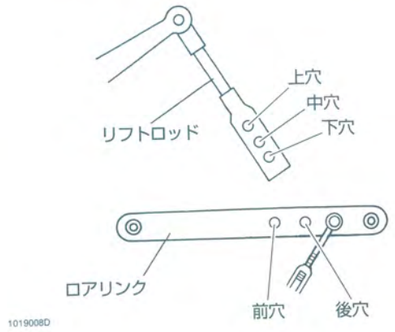
このトラクターは、カテゴリⅠ・Ⅱいずれの作業機も使用できます。（標準仕様はカテゴリⅡです。）



リフトロッドとロアリンクの取付穴の選択

リフトロッドおよびロアリンクの穴は、作業機により下表の位置で使用してください。

ロアリンク	リフトロッド	作　業　機
前穴	中穴	一般作業機
前穴	上穴	揚げ高さを必要とする作業機
後穴	下穴	揚力を必要とする作業機
後穴	中穴	揚力および揚げ高さを必要とする作業機



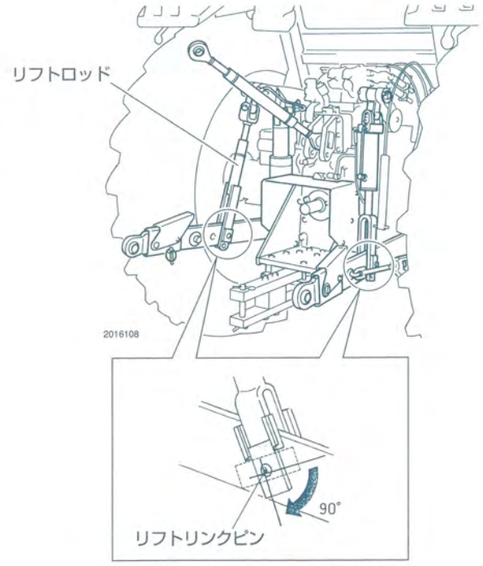
（詳細は、作業機の取扱説明書に従ってください。）
リフトロッド左は、基準長さ650±5㎜になっていますので、長さを変えないでください。ただし、取付作業機の取扱説明書に指定の長さがある場合は、その表示長さに合わせてください。



リフトロッドと傾斜シリンダの穴は、同じ位置を使用し、傾斜シリンダで作業機を水平に調整してください。

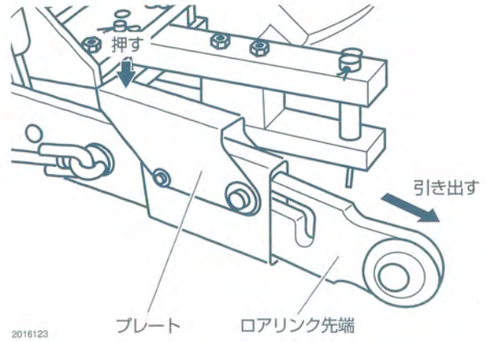
フローティング機構

ロータリ耕うんのような広い幅の作業をする場合は、フローティングに切り替えると、凹凸あるいはうねりの多いところでも均平な作業ができます。
下図のように、リフトリンクピンを抜いて90°向きを変えれば、フローティングになります。ただし、リフトリンクの穴が下穴使用時のみ可能です。



テレスコロアリンクの使いかた

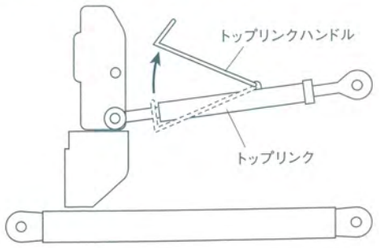
プレートを押して、ロアリンクの先端を引き出すと、上下と左右に微調整でき、作業機の取り付けがしやすくなります。



作業機の取り付けが終了したら、作業機を降ろした状態でトラクターをゆっくりとバックするとロアリンク先端は収納されます。

トップリンクの調節のしかた

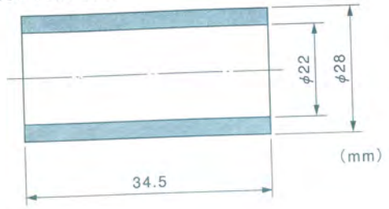
- トップリンクヒンジの取付穴は、使用する作業機によって選んでください。
- 標準は下穴を使用し、トップリンクを取り付けてください。
- トップリンクの長さの調節は、下図のように、トップリンクのハンドルを起こしてターンバックルを回し、長さを調節します。調節後は、ハンドルを元の位置に戻し、固定します。



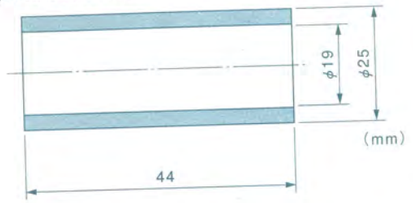
カテゴリⅠの作業機を使用する場合

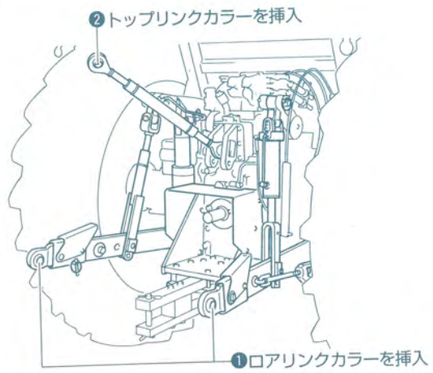
このトラクターには、下記の部品が同梱（標準付属品）されています。この部品を使って、カテゴリⅠの作業機も使用できます。

❶ロアリンクカラー：2個
(9034 0021 070)

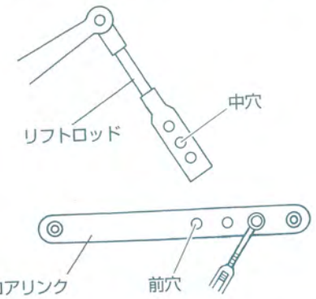


❷トップリンクカラー：1個
(9145 0003 700)





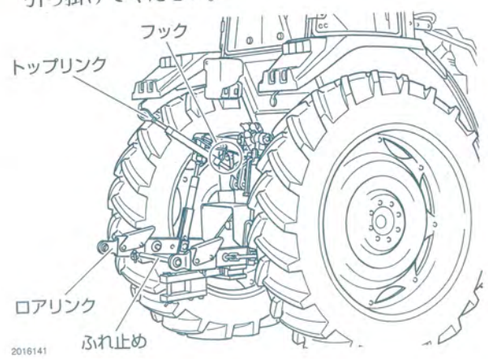
ロアリンクとリフトロッドの取付穴は、ロアリンク前穴とリフトロッド中穴で取り付けます。



作業機を取り付けないとき

❶ロアリンクがタイヤに当たらないよう、振れ止めをしておいてください。

❷トップリンクは、ハンドルを起こして、フックに引っ掛けてください。



22. 外部操作スイッチの使いかた

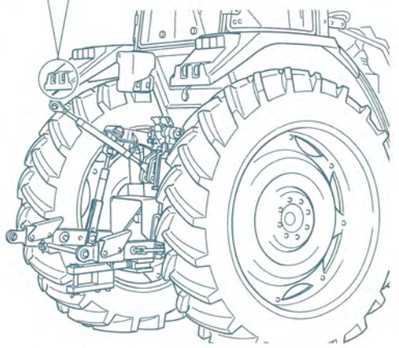
⚠注意

- **外部操作スイッチを操作するときは、必ずタイヤの外側から行ってください。守らないと、作業機の上昇・下降によりケガをするおそれがあります。**

油圧リフト外部操作スイッチ

❶外部操作スイッチの上側を押すと、押している間はリフトアームが上昇します。また、下側を押すと、押している間はリフトアームが下降します。





❷作業機を装着するときは、左側のロアリンクピン位置を、油圧リフトスイッチで合わせてください。右側は、傾斜シリンダスイッチでピン穴位置を合わせて装着してください。

取扱いの注意

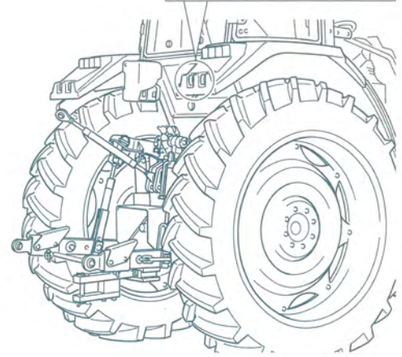
- **作業機上下レバーを使って作業機を上昇するときは、リヤウインドウに作業機のレバーが当たらないよう、必ず作業機の位置を確認しながら少しずつ動かしてください。**

傾斜シリンダ外部操作スイッチ

❶傾き自動スイッチを「切」位置にしてください。

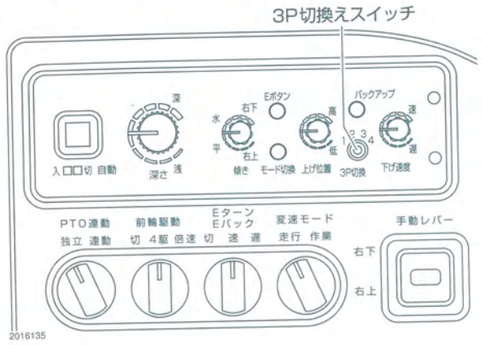
❷外部操作スイッチの上側を押すと、押している間は傾斜シリンダが短くなっていきます。
スイッチの下側を押すと、押している間は傾斜シリンダが伸びていきます。





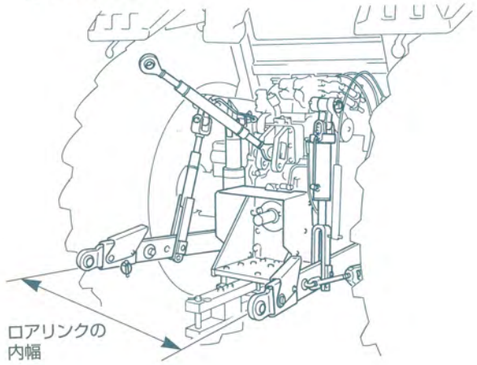
23. 3P切換えスイッチ

作業機をつけかえたとき、その作業機によって定まる3点リンクの取付状態（ロアリンク幅およびロアリンク穴位置）に応じて3P切換表より選択し、その位置にスイッチを切換えてください。



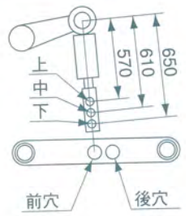
※操作カバーを開けて、マイナスドライバを使って行ってください。

※作業機の取り付けは作業機の取扱説明書に従って行ってください。



3P切換表

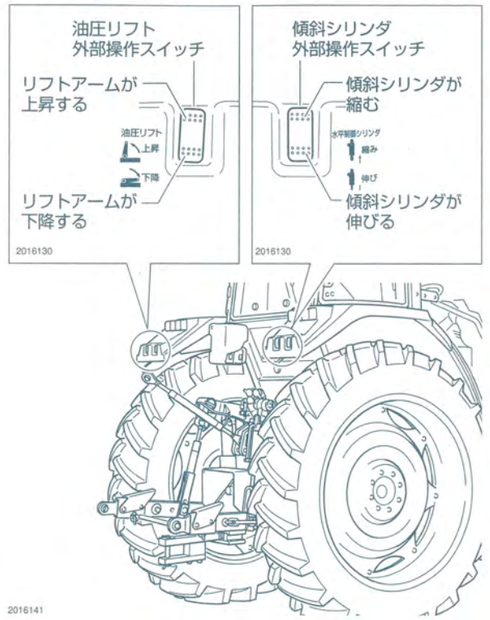
3P切換スイッチ	ロアリンク内幅	ロアリンク穴位置	シリンダ穴位置とリフトリンク長さ	作業機例
1 2 3 4	683㎜	前	中 610	カテゴリー1 一般作業機
1 2 3 4	825㎜	前	上 570	カテゴリー2 揚げ高さを必要とするとき
1 2 3 4	825㎜	前	中 610	カテゴリー2 一般作業機
1 2 3 4	825㎜	後	下 650	カテゴリー2 （揚力アップ穴）
		後	中 610	カテゴリー2 （揚力アップ穴）



24. 一般作業機の取り付けかた

❶平坦な場所で作業機の中心に、トラクターの中心を合わせて止めます。

❷油圧リフト外部操作スイッチを使って、左側ロアリンクを先に作業機のピンに合わせて取り付けます。(➔81ページ参照)



❸傾斜シリンダ外部操作スイッチを使って、右側ロアリンクを作業機のピンに合わせて取り付けます。(➔81ページ参照)

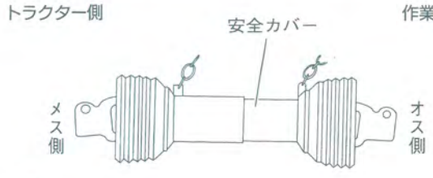
❹作業機のピンにロアリンクの穴を合わせるときは、テレスコロアリンク機構を使用すると容易にできます。(➔79ページ参照)

❺トップリンクを取り付け、作業機の傾きを調節してください。

❻チェックチェーンのターンバックルで、作業機の横振れを調節します。作業機をいったん持ち上げ、作業機の中心とトラクターの中心が合うように調節し、作業機が中心位置で左右に10㎜程度振れるように調整し固定します。

❼作業機を地面まで降ろして、トップリンクのターンバックルで作業機の姿勢を調整します。

❽動力を必要とする作業機を取り付けるときは、ドライブシャフトの安全カバーのメス側をトラクターに、オス側を作業機に取り付けます。



❾作業機を最上昇位置にし、作業機が円滑に回ることを確認してください。。

回転が円滑でない場合は、トップリンクを伸縮して調整してください。

25. スイングドローバの使いかた

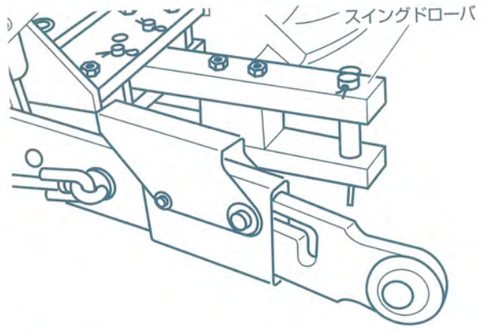
⚠警告

- けん引作業は、必ずドローバを使用してください。トップリンクやロアリンクなどでのけん引はしないでください。守らないとトラクターや作業機の転倒事故をおこすおそれがあります。

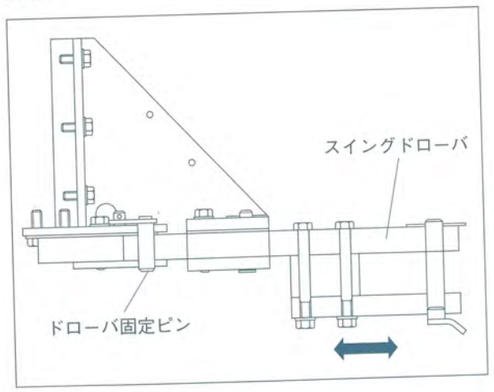
けん引作業機を使用する場合は、必ずスイングドローバをお使いください。
3P（PTO駆動）で使用する作業は、スイングドローバを縮めた状態で、左側へ固定してください。
スイングドローバは、前後に2段階と左右に調節ができます。

前後の調節

❶スイングドローバを手で支え、ブラケットのドローバ固定ピンを外し抜き取ります。
❷ドローバを前後にスライドさせ、ピンを差し替えてドローバ固定ピンをセットします。



2016123

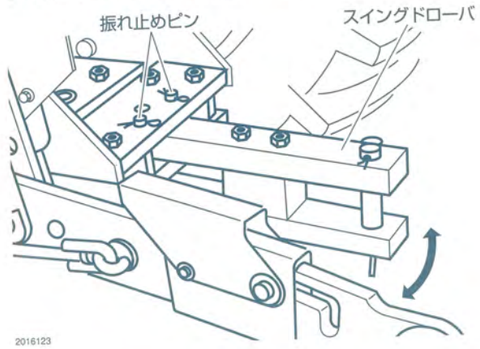


重量物けん引

重量物けん引の場合、スイングドローバは1番縮めた状態でけん引してください。

左右の調節

振れ止めピンを抜いて調節します。



2016123

PTO駆動とけん引作業を併用

PTO駆動とけん引作業を併用する場合は、スイングドローバは中央の位置で、セットして使用してください。

26. 作業機の取り扱いについての注意事項

⚠警告

- トラクターを移動して作業機を着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の着脱は、平坦で安定した場所で、行ってください。夜間は、適切な照明をしてください。
- 重い作業機を装着した場合には、フロントにバランスウエイトをつけて、バランスを保ってください。
- 作業機を調整する場合は、トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、PTO駆動スイッチが「切」、PTO変速レバーが「中立」位置にあることを確認してから行ってください。
- けん引作業をするときは、かならずドローバヒッチを使用てください。
- けん引作業、傾斜地での作業などは、輪距（左右のタイヤの間の幅）を広くして使用してください。
- 作業機によっては、かなりの長さになりますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。
- バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。
- フロントローダー作業時は、後方に作業機をつけるなどして前後バランスを保ってください。
- 装着する作業機の取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- PTO軸を使用しないときは、PTO軸の安全カバーをかならず取り付けてください。守らないと、巻き込まれたりして、ケガを負うおそれがあります。
- 作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。守らないと、作業機がこわれ、事故をおこすおそれがあります。

27. パワーステアリングについて

⚠注意

- エンジン運転中は、ハンドル操作が大変軽くなっていますので、道路走行など慎重に行ってください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

パワーステアリングは、エンジン運転中のみ作動します。ただし、エンジン回転が低速のときは、多少ハンドルが重くなる事がありますが異常ではありません。

取扱いの注意

- ハンドルをいっぱいに切るとリリーフ弁が働き、信号音がでます。短時間であればかまいませんが、この音が鳴ったままで運転しないでください。
- 走行しないでハンドルを切る（スエ切り）ことは、タイヤやリムなどの損傷を早めますので、必要なとき以外は操作しないでください。

28. フロントウエイトについて

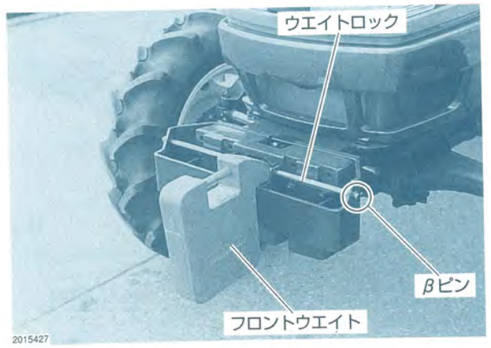
⚠警告

- 重い作業機を装着した場合には、前輪が浮き上がりがちになり、ハンドル操作が効かなくなったり、転倒するおそれがあります。
  作業機に合った適切なフロントウエイトを付けてください。
- フロントウエイトを付けても適切なバランスが保てないような重い作業機は使用しないでください。

このトラクターには、別売のフロントウエイトがあります。
1枚20kgまたは、30kgのフロントウエイトを8枚付けることができます。装着する作業機に応じて前輪荷重の割合が20%以上になるようにフロントウエイトを付けてください。

フロントウエイトの取り付けかた

フロントウエイトをバンパーに引っかけて、ウエイトロックを差し込み、β（ベーター）ピンで固定してください。



1. 作業後の手入れ

⚠危険

- シートをかける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラが十分冷えたことを確認してからかけてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

使用後はトラクターを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各グリス注入部（グリスニップル）には、グリスアップを行ってください。

⚠注意

- 点検・整備の修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。守らないと、やけどを負うおそれがあります。

取扱いの注意

- 電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。
- キャビンの洗車の注意
  洗車する場合、高圧洗浄機を使用してキャビンへの直接放水をすると、キャビン内へ水が漏れる場合がありますのでさけてください。



2. フロントマスク・サイドカバーの開閉のしかた

フロントマスクの開閉のしかた

❶フロントマスクのオープンレバーを手前に引くと、フロントマスクのロックが解除されます。



❷フロントマスクを手前に引き、前照灯のカプラーを外せば、フロントマスクが外れます。



❸フロントマスクを閉じる場合は、カプラーを取り付けて下側の突起部を溝に入れ、前面を軽く押すとロックされます。

サイドカバーの開閉のしかた

❶ロアカバー左右の取手口に指を入れ、レバーを持ち手前に引くとカバーが外れます。



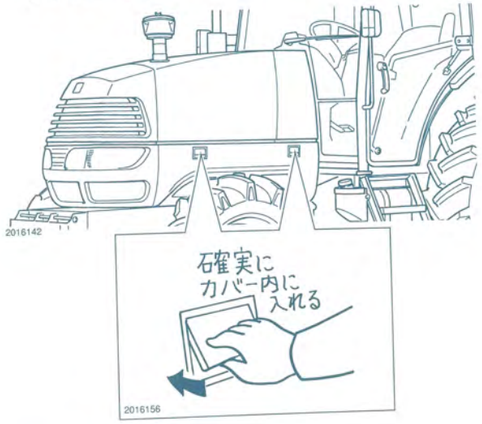
2016165

❷サイドカバーのツマミ（2か所）を起こし、回して手前へ引き、やや持ち上げてサイドカバーを取り外します。



2016166

❸取り付けは取り外しと逆の手順で行ってください。ロアカバーを閉めた後、取手口のレバーを手で押して、カバー内に収納されていることを確認してください。



2016142
2016156

取扱いの注意

- ロアカバー取手口のレバーが、カバーからはみ出した状態のまま走行すると、カバーが外れて落ちるおそれがあります。

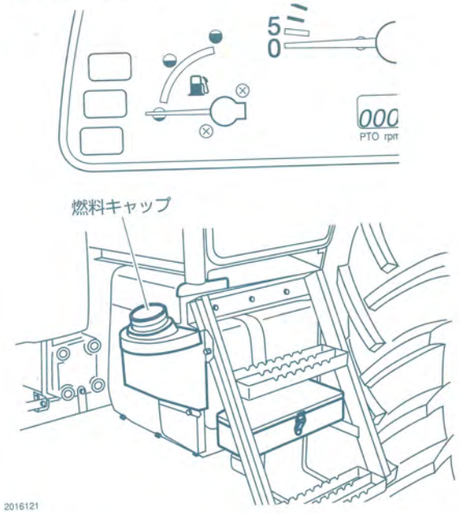
3.燃料の点検・給油のしかた

⚠危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- エンジンが回転しているときや、エンジンが熱い間は、絶対に給油しないでください。

守らないと、火災をおこすおそれがあります。

キースイッチを「入」位置にして、燃料計が減少位置を示したら、燃料キャップをはずして給油口より補給してください。



2016121

取扱いの注意

- 給油するときは、こし網を使用してください。

4.長期間使用しない場合の手入れ

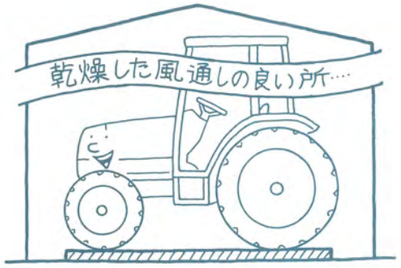
⚠警告

- 格納する場合は、バッテリを取り外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

トラクターを長期間使用しない場合は、次の要領で整備し、格納してください。

❶長期間保管の場合は、必ずキーを抜き取ってください。

❷乾燥した風通しの良い所で、ウエイトなどは取り外し、ロータリーも取り外すか、降した状態にして、下には板を敷いてください。



2015453

❸外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

❹燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。燃料コックは「C」(閉の状態)にしてください。

❺バッテリを完全充電し、本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、本機に取り付けたまま保管するときは、必ずアース側(一側)を外してください。

❻冷却水を抜き取ってください。

❼プレクリーナ・マフラ・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。

❽タイヤは、前・後輪とも、正規の空気圧にしてください。(➔106ページ参照)

❾バックアップ切換スイッチを「切」の位置にしてください。

取扱いの注意

- バッテリは、使わなくても自然放電します。1カ月に1度は充電器で完全充電してください。(➔99・100ページ参照)

長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。



2015454

9章 定期の点検・整備のしかた

⚠警告

- 点検・整備は、交通の危険がなく、トラクターが倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、タイヤに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- 1年毎に定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプやパワーステアリングホースは2年毎に交換してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
- 点検・整備・修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。
- 点検・整備などで取り外したカバー類は、かならず取り付けてください。
  守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- マフラやエンジンミッションなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。
  守らないと、ヤケドをするおそれがあります。

定期点検や整備は、農閑期に行うと農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに販売店・整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプや、パワーステアリングホース、ラジエータホースなどのゴムホース類や電気配線は2年ごとに交換するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

1. 定期点検一覧表

実施項目＼アワメータ表示時間	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	550時間目	600時間目	参照ページ
エンジン潤滑油交換	交換			交換				交換				交換	93
ミッションオイル点検(交換)	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	93
フロントアクスルオイルの点検(交換)	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	94
エンジンオイルエレメント交換	交換					交換						交換	94
ラインフィルタ(ミッションオイルエレメント)交換	交換					交換						交換	95
ラジエータ内部の掃除	冷却水交換時												96
ウォーターセパレータ、フュエルフィルタの清掃・交換		○		○		交換		○		○		洗浄	95
冷却水の点検(交換)	仕事時ごとに点検(1年ごとに交換)												96・97
エアークリーナエレメントの点検(交換) ※3	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	98
防塵網のゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	98
冷却ファン・ラジエータのゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	98
バッテリ液量点検	仕事時ごとに点検												99
バッテリ液比重点検および補充電		○		○		○		○		○		○	99
燃料パイプおよび結合部の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100
パワーステアリングのゴムホースの点検 ※2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100
ラジエータホースの点検・交換	2年ごとに交換												100
油圧ゴムホースの点検・交換	2年ごとに交換												—
燃料パイプ・電気配線の交換	2年ごとに交換												100・101
電気配線の点検 ※1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	101
各部グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	101・102
ステアリング各部締付け点検		○		○		○		○		○		○	—
重要ボルトナットの点検(増締)	○	○		○		○		○		○		○	—
冷却ファンベルトの点検	○	○		○		○		○		○		○	104
エンジンのブリーザパイプの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
エンジンクランクケースの洗浄						○						○	—
吸排気弁すき間の点検												○	—
燃料噴射弁の点検												○	—
発電機、始動電動機の点検	○	○				○				○			—
油圧装置の点検	○	○				○				○			

※1　50時間ごとの点検を基本としますが、使用時間が満たない場合は1年ごとに行ってください。
※2　パワーステアリングの高圧ホースは2年ごとに交換してください。
※3　エアクリーナ目詰り警告ランプが点灯したときは、エレメントを掃除してください。

2. オイル・グリス・不凍液一覧表

種　　類	ディーゼル軽油JIS号を使用してください。		
エンジンオイル （新SAE、CC級以上） （JIS　K2216　2種 DG　または　DM）	純　正　油	マルチSTOUオイル（10W-30）	その他一流メーカーのオイルでAPIサービス分類CD級オイルを使用してください。
	全　　農	クミアイエンジンオイル（ディーゼル用）	
	日石三菱	ダイヤモンドHDS-3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	
ミッションオイル （油圧パワステオイル兼用 フロントアクスルオイル）	純　正　油	三菱ハイトランプラスオイル	
グリス （マルチパーパスタイプ）	日石三菱	エピノックグリース	作業前点検・50時間ごとグリスアップ
不凍液 （JIS　K2234　2種 パーマネントタイプ）	純　正　品	三菱ロングライフクーラント	工場出荷は−30℃を基準としております。

注）気温−10°以下のとき、燃料は特3号軽油を使用してください。

3. 給油・給水一覧表

		MT651・751・801・901
燃　　料		120.0 ℓ
冷却水	ラジエータ	11.0 ℓ
	サブタンク	1.0 ℓ
エンジンオイル		13.4 ℓ
ミッションオイル		50.0 ℓ
フロントアクスル		11.0 ℓ

4.各部オイルの点検・交換のしかた

- 交換した排油は、絶対に川や下水道に流したりせずに、専門の業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。

⚠危険

- **エンジンが回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油はしないでください。守らないと、火災を起こすおそれがあります。**
- **オイルを補給・交換する時は、必ずキースイッチを「切」にし、エンジンが停止してから行ってください。**

守らないと、PTOのドライブシャフトに巻き込まれるおそれがあります。

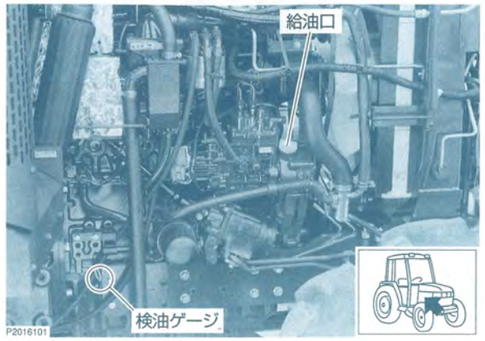
⚠注意

- **エンジン停止直後のオイル交換はしないでください。守らないと、ヤケドをするおそれがあります。**

エンジンオイル

点検

エンジン部右側横の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。

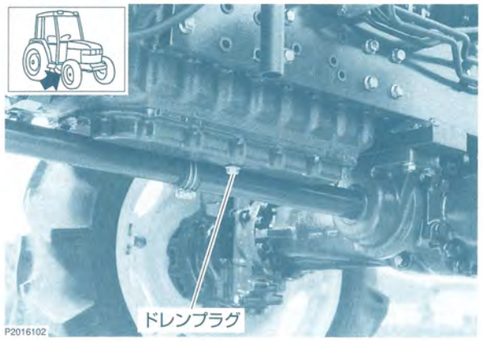


取扱いの注意

- **オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。**

交換

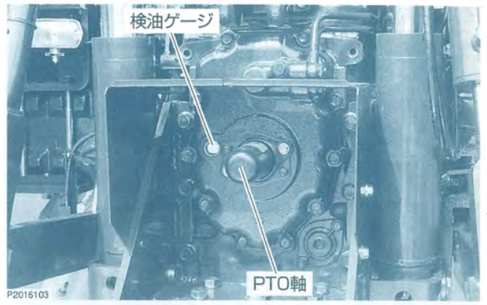
エンジン下部のドレンプラグから排油してください。
給油はエンジンの給油口からしてください。
エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせてエンジンオイルを使いわけることが大切です。

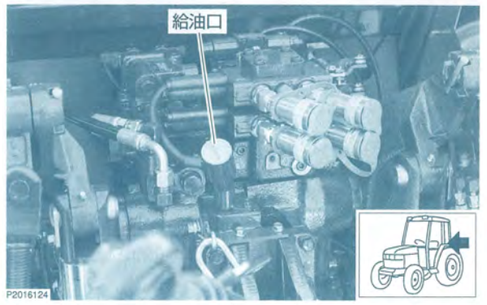


ミッションオイル

点検

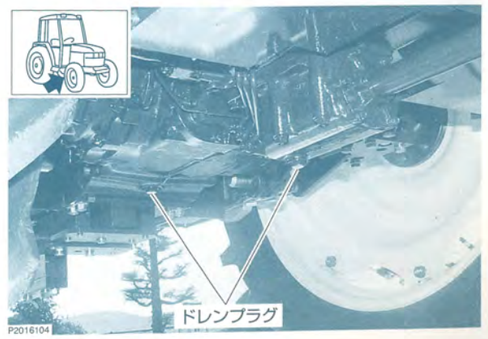
PTO軸横の検油ゲージを見て、オイルがあるか調べます。オイルが不足しているときは、給油口より検油ゲージの規定量まで入れてください。





交換

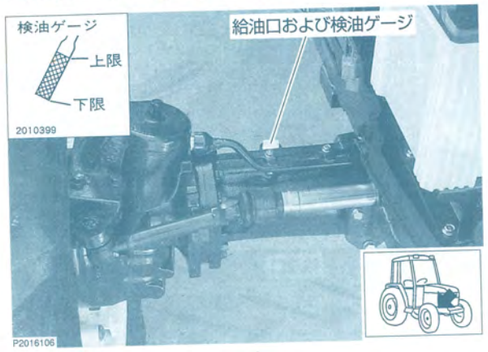
ミッションケース下部2ヶ所のドレンプラグから排油してください。
給油はトップリンク下の給油口から入れてください。
※ミッションオイルは、油圧オイル、パワステオイルと併用しています。
※ミッションオイルは、必ず純正ハイトランプラスオイルを使用してください。



フロントアクスルオイル

点検

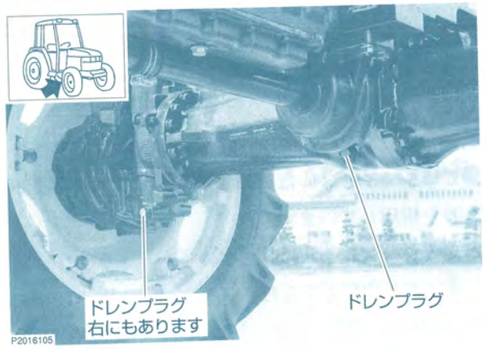
フロントアクスル右上部の給油口のふたをはずしてゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりゲージの規定量まで入れてください。



交換

フロントアクスル下部の左右ドレンプラグ２箇所から排油してください。

給油はフロントアクスル右上部の給油口より行ってください。

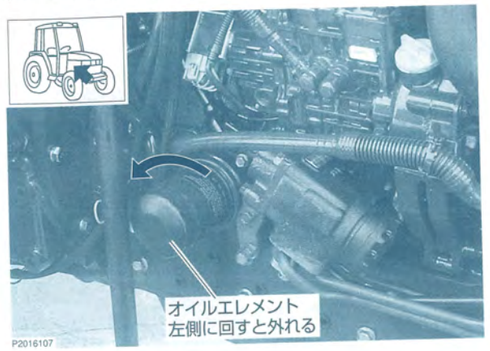


※フロントアクスルオイルは、必ず純正ハイトランプラスオイルを使用してください。

5.各部エレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメント

300時間または、エンジンオイルを2～3回交換ごとにエレメントを取り替えてください。



交換

❶エンジンオイルを抜き取った後、カートリッジを左側に回して外します。

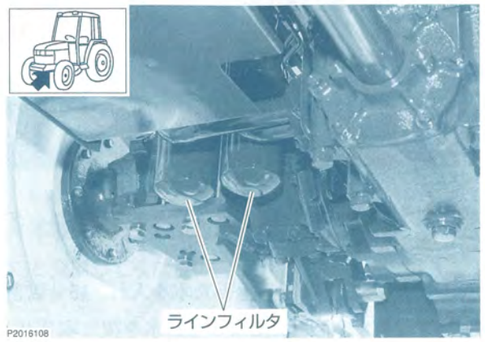
❷新しいカートリッジの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、確実に取り付けてください。

❸エンジンオイルを交換後、エンジンを始動して油圧パイロットランプが消えるまで回してください。

❹油圧パイロットランプが消えたら、もう一度検油ゲージでオイル量の点検をし、不足していれば、補給します。

ラインフィルタ(ミッションオイルエレメント)

ミッションケース下部右側のラインフィルタは、カートリッジタイプになっています。300時間毎に交換してください。



交換

❶ミッションオイルを抜き取った後、ラインフィルタのカートリッジを左側に回して外します。

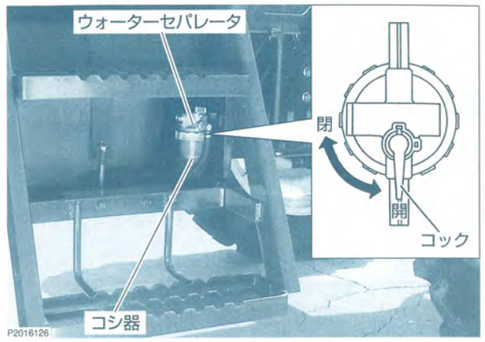
❷新しいラインフィルタの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、確実に取り付けてください。

❸ミッションオイル交換後、一度エンジンをアイドリングで始動し、オイルを循環させてから、エンジンを停止し、検油窓でオイルの量を点検し、不足している場合は補給してください。

ウォーターセパレータ（燃料コシ器）、フュエルフィルタの清掃・交換

❶ウォーターセパレータのコックを「C」(閉の状態) 位置にします。

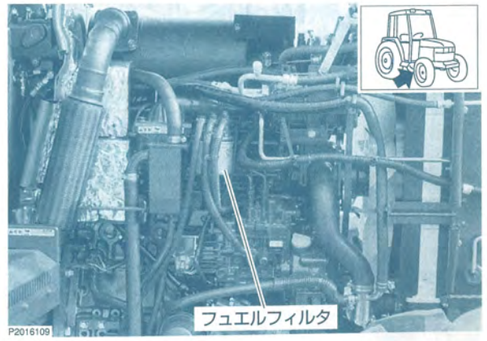
❷ウォーターセパレータのコシ器を外し、コシ器内の水・ゴミを取り除きます。



❸ウォーターセパレータの洗浄が終わったら元通りに取り付け、ウォーターセパレータのコックを「O」(開の状態) 位置にし、燃料のエア抜きを行います。(➔97ページ参照)

❹フュエルフィルタのエレメントは、300時間ごとに交換してください。

交換はエレメントを反時計回りにして取り外し、新品と交換してください。



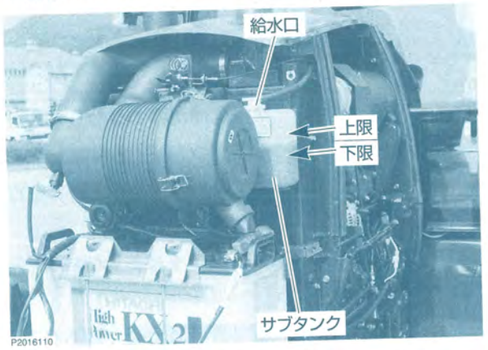
6.冷却水の点検・交換のしかた

⚠危険

- ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。エンジンが停止してエンジンが冷えてから開けてください。守らないと、熱湯が吹き出し、ヤケドを負うおそれがあります。

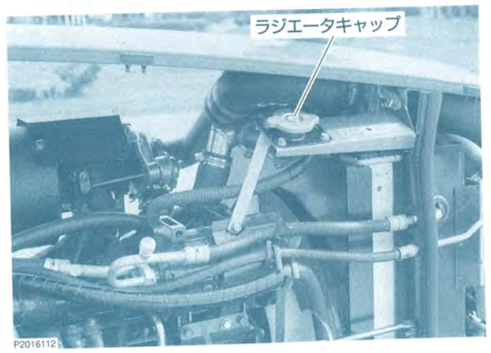
点検

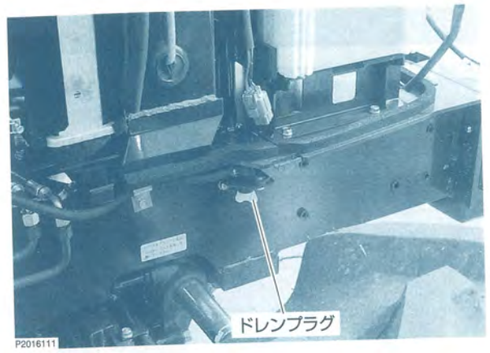
フロントマスクを開け、サブタンク内の水が「上限」から「下限」の範囲にあるか調べてください。不足しているときは、サブタンクの給水口より清水を補給してください。



交換

❶ラジエータキャップとドレンプラグを外し、ラジエータ内の水を全て抜きます。





❷水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ内部を洗います。

※ラジエータ洗浄剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエータ内はいっそうきれいになります。

❸ドレンプラグを取り付け、不凍液を必要量入れてから、清水をあふれるまで入れます。

❹ラジエータキャップを取り付けエンジンを始動して、不凍液と清水をよく混合します。

❺キャビン内のエアコンスイッチを「ON」にして、10～15分くらい空運転してから、エンジンを停止します。

❻エンジンが冷えてからラジエターキャップを開け、冷却水が不足している場合はラジエターから清水を補給してください。サブタンクにも規定量補給してください。

〈不凍液の取扱いについて〉

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果をもっています。出荷時にはオールシーズンタイプを使用しています。なお、不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯等においては下表を参照の上、安全な濃度で使用してください。

なお、工場出荷時の不凍液混合比率は、外気温度－30℃としております。

不凍液混合比率表

外気温度（℃）		−5	−10	−15	−20	−25	−30
比率	水（%）	82	73	66	61	55	49
	不凍液（%）	18	27	34	39	45	51

取扱いの注意

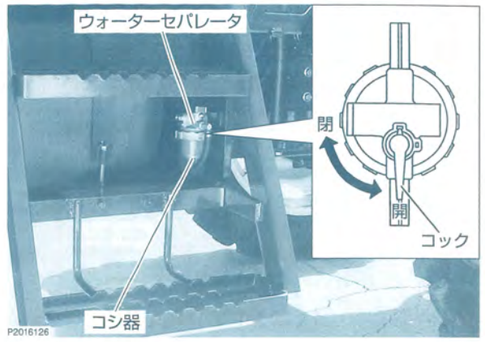
- 新しい冷却水と交換するときは、必ず防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。
- 混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱書の指示にしたがってください。
- 冷却水が自然に不足した場合には、清水だけを入れてください。（セミパーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して、確認してください。）
- 不凍液の有効期限は１年です。毎年新しい不凍液と交換してください。

7.燃料の空気（エア）抜きのしかた

燃料切れを起し、エンジンが停止したとき、または、点検整備でウォーターセパレータのコシ器、フュエルフィルタ、燃料配管を外したときは、次の手順で燃料の空気（エア）抜きをしてください。

❶燃料タンクに燃料を補給します。

❷燃料コックを「O」（開の状態）の位置にします。



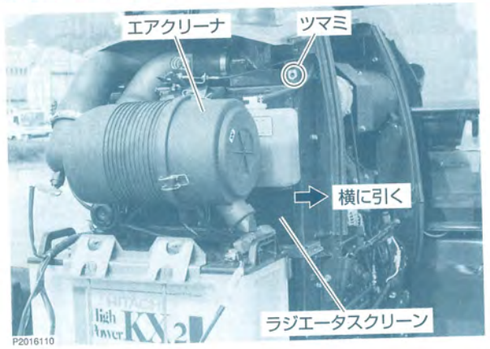
❸アクセルレバーを最高回転位置にし、キースイッチを「始動」位置にしてセルモータを約10秒間回します。

以上で空気（エア）抜きは完了です。



8.ラジエータスクリーンとエアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた

エアクリーナは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。50時間毎に掃除・300時間ごとに交換してください。規定時間になっていなくても、１年間でエレメントを交換してください。

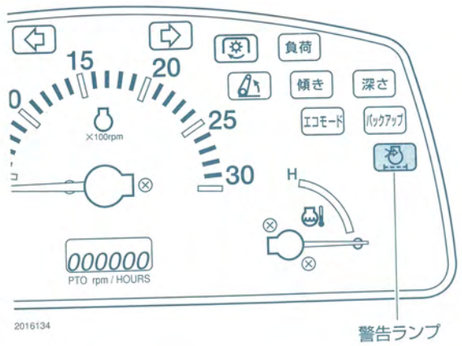


〈ラジエータスクリーンの掃除のしかた〉

左上部のツマミを起こして回し、ラジエータスクリーンを手前に引いて横に引き出してください。
ワラクズやホコリを取り除いてください。
作業前、作業後に掃除してください。

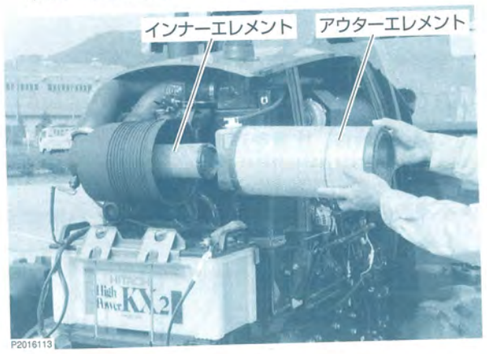
〈エアクリーナが詰まったとき〉

エアクリーナエレメントに目詰まりが発生すると警告ランプが点灯します。
警告ランプが点灯したら、エレメントの掃除をしてください。



〈エアクリーナエレメントの掃除のしかた〉

❶蓋を取り外し、中のアウターエレメントを抜き取り、エレメントの内側から、空気を吹き付けるか、振動を与えて塵を落します。フインに傷を付けないように気をつけてください。



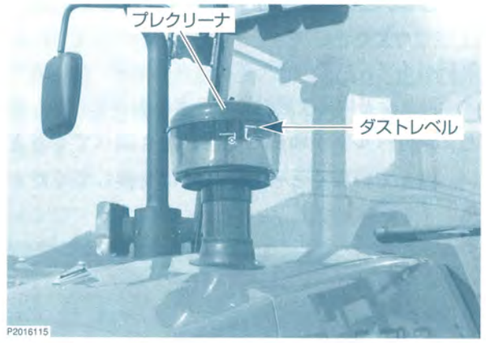
❷インナーエレメントはアウターエレメントの3回目の整備ごとに交換してください。

取扱いの注意

- **インナーエレメントを掃除して、再使用しないでください。必ず新しい物と交換してください。**

9.プレクリーナの点検と掃除のしかた

プレクリーナ本体に表示してあるダストレベルまでゴミが溜まったときは、プレクリーナの蓋を外し、本体を外して、内側を掃除してください。



10.バッテリの点検のしかた

⚠危険

- **バッテリの点検時・充電時は火気厳禁です。守らないと、引火爆発し、ヤケドを負うおそれがあります。**
- **バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。守らないと、服が破れたり、ヤケドを負うおそれがあります。**

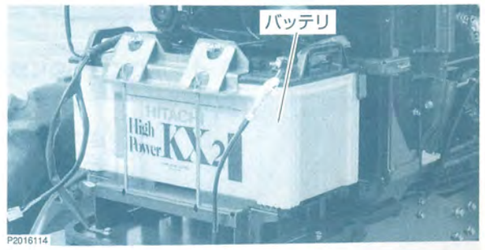
⚠警告

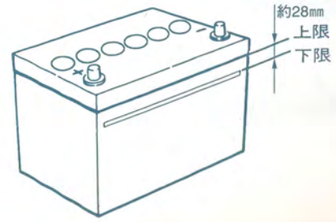
- **バッテリ液は、「下限（LOWER）」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。**

⚠注意

- **バッテリケーブルの取り付けは＋側を先に取り付け、取り外すときは－側から取り外してください。守らないと、ショートしてヤケドを負うおそれがあります。**

バッテリの上限と下限のラインの間に液があるか調べます。不足している槽があれば蒸溜水を上限ラインまで補給してください。





取扱いの注意

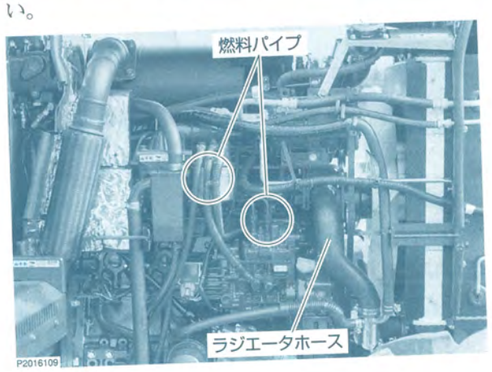
- バッテリ各槽に、液を入れすぎると、充電時にバッテリ液が吹き出し、トラクターの金属部を腐蝕させます。
- 急速充電は避けてください。
- バッテリを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリを使用してください。
- 環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

11.パイプ類の点検について

⚠危険

- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこします。かならず点検してください。
  守らないと、火災をおこすおそれがあります。

燃料パイプ、パワーステアリングホース、ラジエータホースなど傷んで燃料もれ、水もれがないか、また、締付ベルトがゆるんでないかも調べてください。傷んでいなくとも２年ごとに交換してください。



取扱いの注意

- 燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。（➜97ページ参照）

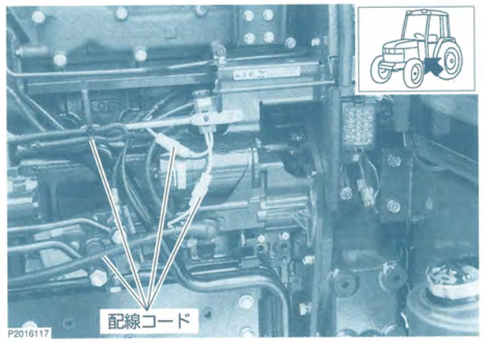
12.電気配線の点検について

⚠警告

- 配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや傷、または接続部のはずれが無いか、毎日作業前に点検してください。
- バッテリや配線に付着しているワラクズやゴミは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。

守らないと、ショートして火災をおこすおそれがあります。

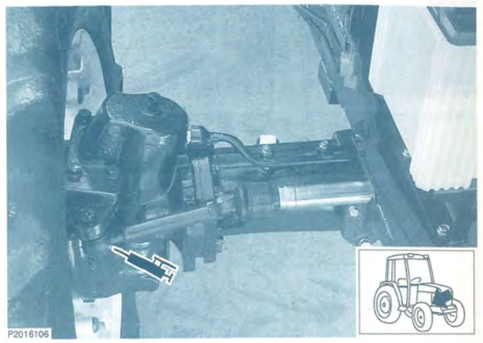
エンジンサイドカバーを外し、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接触部のゆるみがないかを調べてください。傷んでいる場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で修理してください。
傷んでなくても使用時間50時間ごと、または１年ごとに定期点検を受けてください。



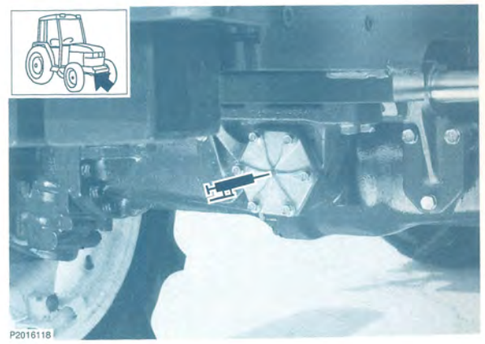
13.グリスアップ(注入)について

グリスアップは、50時間ごとに行っていただきますが、作業に入る前に、各箇所のグリスの点検を行い、必要ならばグリスアップしてください。また、代かき作業などで泥水に入った後は、作業終了後必ずグリスアップしてください。

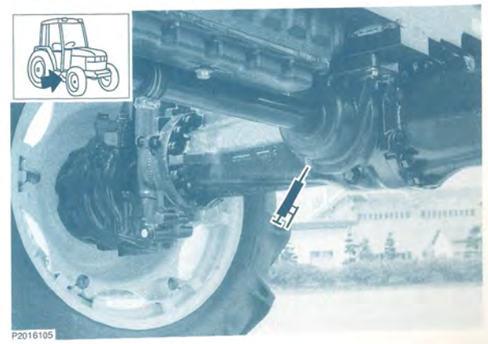
タイロッド（左右各１カ所ずつあります）



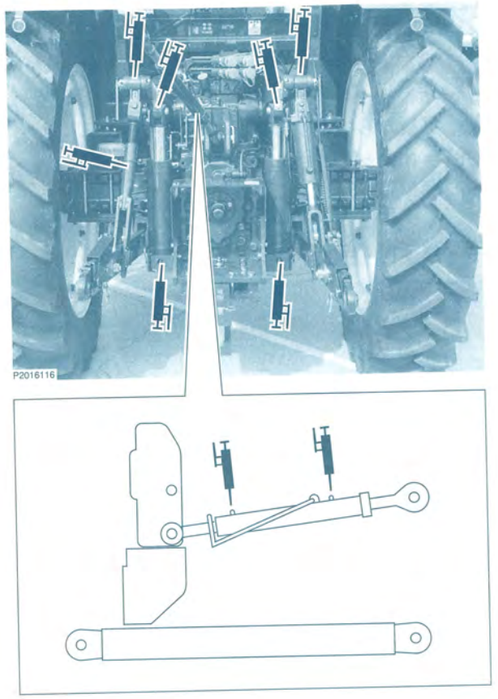
センターピンサポート（前側）



センターピンサポート（後側）



3点リンク部

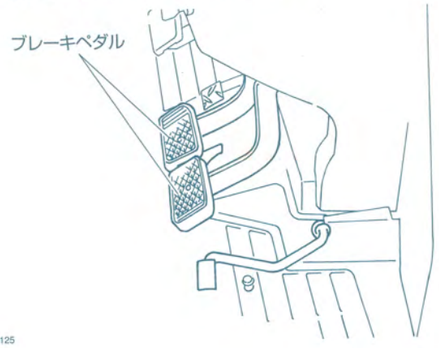


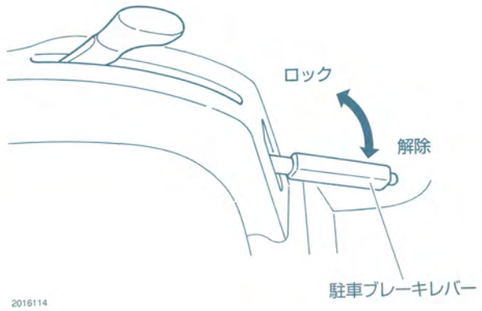
14.ブレーキの点検について

⚠警告

- ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

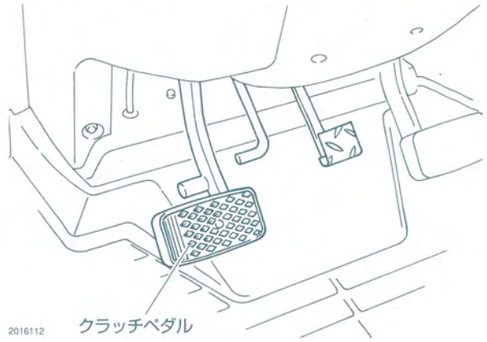
ブレーキペダルを踏み込んで、正常に作動すること。
駐車ブレーキロックが確実に作動する事を確認してください。
ブレーキのききが悪かったり、片ぎきする場合は、お近くの販売店へ連絡してください。





15.クラッチの点検について

クラッチペダルを踏み込んで、正常に作動すること。

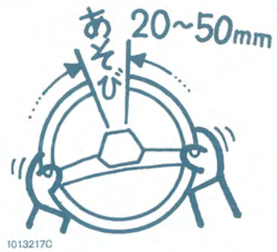


16.ハンドルの点検・調整について

⚠警告

- ハンドルに著しくガタや遊びがないように、点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が20～50㎜の範囲にあるか調べてください。遊び量が適正でないとハンドルが重くなったり、直進性が悪くなります。遊び量が適正でないときは、お買い上げいただいた販売店、JAで整備してください。

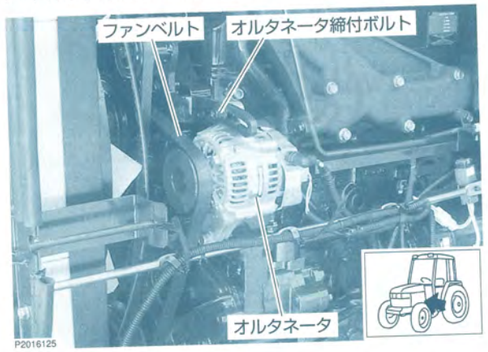


17.ファンベルトの点検・調整について

⚠注意

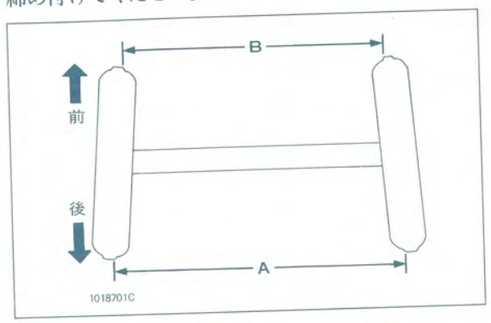
- **エンジンが十分冷えた状態で行ってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。**

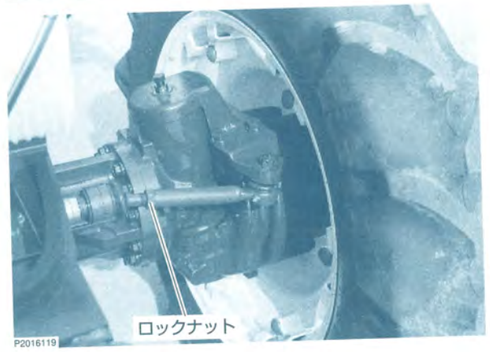
ロアカバーおよびボンネットサイドカバーを開け、ファンベルトの中間を指で押え、ベルトのたわみが10～15㎜あるか、ベルトが損傷していないか調べてください。たわみが適正でないときは、オルタネータ締付ボルトをゆるめ、オルタネータを移動させて張りを調節します。また。オルタネータをいっぱいに動かしてもベルトがスリップするようでしたら、新しいベルトと交換してください。なお、新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。



18.トーインの点検・調整について

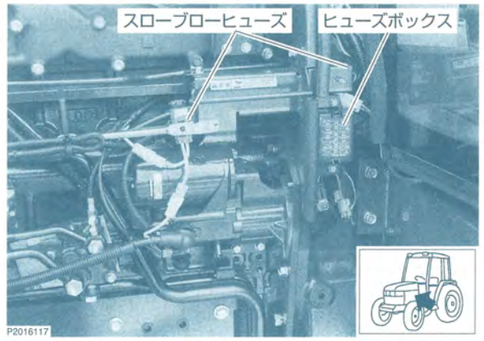
トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり異常に振れることがあります。調整は前輪のA寸法とB寸法を測定し、A－Bが4～8㎜であるか調べてください。規定寸法でない場合は、左右のタイロッドエンドのロックナットをゆるめ、ネジ長さを調節します。トーインが4～8㎜になったらロックナットを締め付けてください。





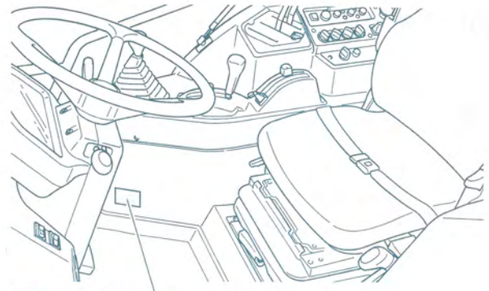
19.ヒューズ・ヒュージブルリンクの点検・交換について

ヒューズボックスの蓋を外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。
また、エンジンを停止して、メインヒューズ（スローブローヒューズ）を点検してください。スローブローヒューズはヒューズの一種で万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したらお買い上げいただいた販売店、またはJAで点検を受けてください。



エンジンルーム内ヒューズBOX

ブレーキランプ 10A	5A	エンジン 5A
MAC 10A	予備	フラッシャランプ 10A
外部電圧 20A	10A	コンビメータ 10A
フロントワイパー 15A	予備	ヘッドランプ 15A
キャビン電源 20A	20A	ミッションバルブ 20A
✕	予備	スタータリレー 5A



キャビン内ヒューズボックス

キャビン内ヒューズBOX

コンプレッサエアコン 10A	IGNエアコン 5A	エアコン 5A	電源リアデフオーガ 25A	✕					
予備 5A		予備 10A		予備 20A					
メモリ電源ルームランプ 15A	エアコンブロア 25A	ワークランプF 15A	ワークランプR 10A	リヤワイパー 10A	✕				

〈点検・交換のしかた〉
ヒューズボックスの蓋を外して、ヒューズを点検してください。規定容量のものと交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店またはJAで点検を受けてください。

取扱いの注意

- **ヒューズを交換するときは必ず規定容量のヒューズを使用してください。**

20.タイヤの点検について

⚠警告

- **タイヤに空気を入れる際には、規定の最大空気圧以上に空気を入れないでください。**

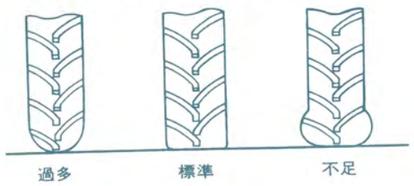
守らないと、タイヤが破裂し、傷害事故をおこすおそれがあります。

前・後輪の空気圧を標準空気圧に調整してください。また、タイヤに亀裂などがないか確認してください。
前・後輪に標準以上の荷重がかかるときは、空気圧を下表の最大圧内に調整してください。

タイヤ空気圧

	タイヤサイズ	標準空気圧　KPa(kgf/cm²)
前　輪	8.3-24	240（2.4）
	9.5-24	220（2.2）
	11.2-24	180（1.8）
後　輪	12.4-36	160（1.6）
	12.4-38	160（1.6）
	13.6-38	160（1.6）
	16.9-34	120（1.2）

前・後輪の空気圧が適正かどうか、外観上の判断する目安は下図を参考にしてください。



21.排気ガスの色について

エンジン始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。
黒色…燃料が濃すぎるための不完全燃焼。
白色…エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。
黒色、白色の排気ガスが負荷をかけなくても出るときは、販売店またはJAで整備してください。

10章 キャビンの手入れと点検・調整

⚠警告

- **点検・整備は、交通の危険がなく、トラクターが倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、タイヤに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故を起こすおそれがあります。**

⚠注意

- **1年毎に定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。**
- **点検・整備・修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。**
- **点検・整備などで取り外したカバー類は、かならず取り付けてください。**

守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

定期点検や整備は、農閉期に行うと農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに販売店・整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

1.エアコン定期点検一覧表

点検内容	内　容	整　備	参照ページ
コンデンサ	汚れ・つまり	清　掃	
フィルタ	汚れ・つまり・はずれ	清　掃	108
Vベルト	張り具合・破損	調整または交換	108
温水バルブと温水配管	作動確認・水漏れ	増締め	108
各部品の締付部品	ボルトのゆるみ		109
配管とその接続部	冷媒漏れ		109

※ Vベルトは6ヶ月ごとの点検、または約50時間ごとの点検を行ってください。

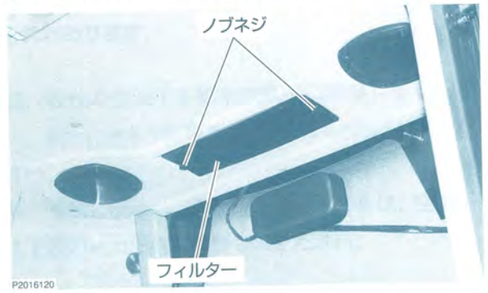
取扱いの注意

- **日常点検は必ず実施してください。**

2.日常点検と清掃のしかた

フィルターの清掃のしかた

ノブネジをゆるめて取り外してください。フィルターを300時間ごとに清掃してください。また汚れがひどい場合は、交換してください。



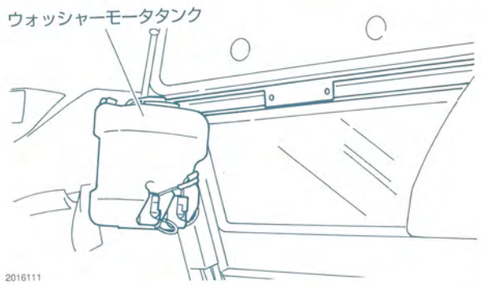
外気導入口用フィルターの清掃のしかた

フィルタが汚れて目づまりすると、外気導入時の吹き出し風量が少なくなりますので、キャビン後部の取り付けノブ2か所を外して、フィルター部を取り外し、圧縮エアで汚れを落としてください。汚れがひどい場合は水洗いしてください。



ウォッシャーモータタンクの点検

フェンダ後側(左側)に取り付けられています。タンク容量は約1.5ℓで、水と液の割合は約1：1にします。

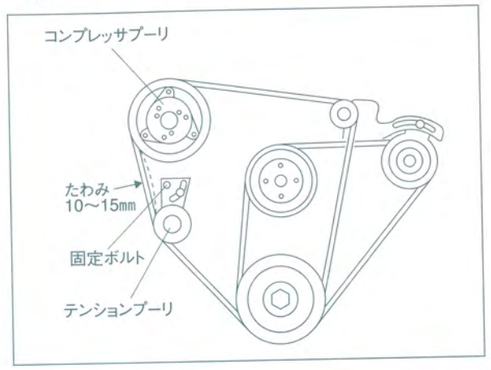


コンプレッサ駆動ベルトの点検と調整

ベルトテンションとコンプレッサプーリーの中間位置を指で押え、10～15㎜であれば正常です。

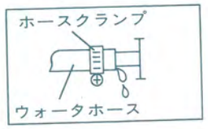
〈調整方法〉

❶テンションプーリーの固定用ボルトをゆるめます。
❷テンションプーリーを外側に引っ張ってベルトの張りを調節します。
❸調整後テンションプーリーの固定ボルトを締めます。



温水配管の水漏れ点検

- ウォータホース破損の場合は交換してください。
- ウォータホースのクランプ不良による水漏れは、クランプ修正時に交換してください。
- ヒーターコア破損の場合は交換してください。

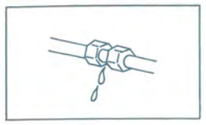


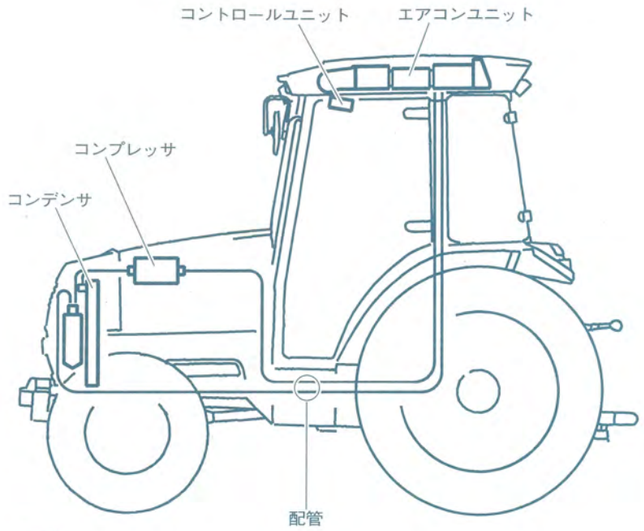
サイクル部品の点検

- サイクル部品（下記の部品）自体とその取付ボルトのゆるみや折損がないか、目視にて確認してください。
- ゆるみのある部品は、増締めし、亀裂・破損している部品は交換してください。

配管とその接続部

- 配管とその接続部にオイルのにじみ・ゴミ・ホコリの付着がないか目視にて確認してください。
- 配管接続部の増締めを行う際は、必ずダブルスパナを用いて行ってください。





エアコンチェック表

エアコンの状態	異常なし	異常あり		
高・低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、低圧パイプは冷たい温度差がはっきりある。 コンプレッサ吐出側温度　70℃ コンプレッサ吸入側温度　5℃	高圧パイプは温かく、低圧パイプはやや冷たい。温度差はあまりない。	高圧パイプ、低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。	高圧パイプは熱く、低圧パイプはやや温かいが温度差はある。
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れている所がある。	油の汚れがはなはだしい所がある。	異常なし。
このエアコンの状態は	冷媒量も不足なく異常はない。	どこか少し漏れがあるかも知れない。	冷媒がほとんど漏れてなくなってしまったようである。	冷媒が過充填になっている。

⚠警告

- もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。守らないと回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。処置を行っても不調の場合は、最寄りの販売店かJAへ連絡してください。

1.エンジン関係

状　況	点検箇所	処　置
キーを回してもスタータが回らない。	クラッチペダルを踏み込んでいますか。	クラッチペダルを完全に踏み込んでから、キースイッチを「始動」に回してください。
	PTO駆動スイッチは「切」になっていますか。	「切」の位置にしてから、キースイッチを「始動」位置にしてください。
	バッテリ液は規定量入っていますか。または放電してはいませんか。	バッテリ液を規定量補給し、満充電してください。
	バッテリ端子部のゆるみ外れ、腐蝕はありませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。
	メインヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
	キースイッチが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。
	セルモータが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満タンに給油し、エア抜きをしてください。
	ウォーターセパレーター・燃料こし器の燃料コックが「C」(閉) 位置になっていませんか。	燃料コックを「O」(開) 位置にしてください。
	燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行ってください。
エンジンが不規則に回転する。	燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きをしてください。
	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい軽油と交換してください。
	燃料フィルタが目詰まりしていませんか。	洗浄、または交換してください。

状　況	点検箇所	処　置
エンジンが過熱する(オーバーヒート)。	冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。
	ファンベルトはゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。
	ラジエータフィンが目詰まりしていませんか。	清掃してください。
	エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。
エンジンの力が出ない。	エアクリーナが目詰まりしていませんか。	エアクリーナを点検してください。
	燃料噴射ポンプが焼付いていませんか。	サービス工場で修理してください。
	圧縮力が不足していませんか。	
	バルブクリアランスの調整は適正ですか。	
	噴射時期が悪くありませんか。	
運転中にエンジン油圧ランプが点灯した。	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。	オイルを規定量まで補給してください。
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適性粘度のオイルと交換してください。
	プレッシャスイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	オイルポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
サーモスタートランプが点灯しない。	ヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
運転中にチャージランプが点灯した。	ファンベルトのゆるみ、または破損はありませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。

2.クラッチ・ブレーキ関係

状　況	点検箇所	処　置
クラッチがすべる、または切れない。	クラッチワイヤーが破損していませんか。	ワイヤーを交換してください。
	油圧ポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	クラッチ戻しダンパーが破損していませんか。	ダンパーを交換してください。
ブレーキのききが悪い。		サービス工場で修理してください。
ブレーキペダルの戻りが悪い。		サービス工場で修理してください。

3.油圧関係

状　況	点検箇所	処　置
作業機が上がらない。	油圧ストップバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップバルブを「開」にしてください。
	ミッションオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。
	吸入パイプ系統からエアの吸い込みがありませんか。	フィルタケースや取付部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換してください。
	オイルフィルタが目詰まりしていませんか。	清掃または交換してください。
	油圧ポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	電磁バルブが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
シャトルレバーを「R」にしても、作業機が上がらない。	バックアップスイッチは入っていますか。	バックアップスイッチを入れてください。
	バックアップスイッチの接触は、悪くありませんか。	バックアップスイッチを確認してください。
	MAC回路のヒューズが切れていませんか。	新しいヒューズと交換してください。(➜105ページ参照)
作業機が下がらない。	油圧ストップバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップバルブを「開」にしてください。
	電磁バルブが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
クイックアップスイッチを「下げ」にしても、作業機が下がらない。	作業機上下レバーが「上」位置になっていませんか。	作業機上下レバーを「下」方向に移動させてください。

4.電装関係

状　況	点検箇所	処　置
ヘッドランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ソケットから配線が外れていませんか。	点検してセットしてください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
フラッシャランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	フラッシャユニットが故障していませんか。	フラッシャユニットを交換してください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
ランプ類が点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	配線の接続が悪くありませんか。	点検し確実に接続してください。
	スイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	アースの状態が悪くありませんか。	アース線を確実に車体に締めつけてください。
	バッテリが放電していませんか。	充電してください。
ホーンが鳴らない。	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ホーンスイッチの接触が悪くありませんか。	ホーンスイッチを確認してください。

12章 その他

1.用語解説

あ行

アタッチメント
トラクターに後付けする部品

安全スイッチ
クラッチを踏まないと、エンジンがかからないようにするためのスイッチ

安全キャブ
トラクター転倒時、作業者を保護するための国の検査に合格したキャビン

オルタネータ
エンジンからの動力で電気を発生させる装置

か行

クイックヒッチ
トラクターに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリープ
超低速の作業速度

耕深
耕うんする深さ

さ行

3点リンク
トラクターに作業機を装着する為の3点で支持を行うリンク

サーモスタート
寒冷時、エンジンの始動性を良くするための補助装置

下げクッション
作業機が地面に接地する直前に作業機をゆっくり下げることにより、作業機を地面に降ろしたときに生じる、土の盛り上がりやトラクターの思わぬ前進を防止する装置

軸距
前・後タイヤの中心間の距離

た行

チェックチェーン
トラクターに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェーン

トップリンク
作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の上部をつり下げているリンク

ドライブシャフト
トラクターの動力を作業機へ伝達するための軸

は行

バックアップ装置
シャトルレバーを「後進」に入れると自動的に作業機が上昇する装置

ヒュージブルリンク
電気配線に規定以上の電流が流れた場合に、電気系統の保護を行う部品

PTO（パワー　テイク　オフ）
作業機の動力を取り出すための軸

ま行

MAC
作業機の左右の傾きや耕深をコンピュータにより全自動で行う装置

や行

揚力
トラクターが作業機を上昇させるための力

ら行

リフトアーム
トラクターの作業機を上げるためのアーム

リフトリンク
リフトアームとロアリンクを連結しているリンク

リリーフ弁
油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

輪距
左右のタイヤ中心間の距離

ロアリンク
作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の下部をつり下げているリンクで左右1本ずつある

2.仕様

MT651

項目			型式 MT651	備考
重量	車両重量（kg）		3330	3P付
	荷重（kg）	前輪	1400	
		後輪	1930	
	附荷重量（kg）	後輪	40kg×8	アタッチメント
		本体	30kg×8	アタッチメント
機関出力（PS/rpm）			65/2400	
形状			ホイールトラクター	
車種			小型特殊自動車	
性能	走行速度 km/h (m/sec)	前進 1速 主1 副C	0.20（0.06）	最高速度 30.66 (8.52)
		2速 主2 副C	0.25（0.07）	
		3速 主3 副C	0.32（0.09）	
		4速 主4 副C	0.41（0.11）	
		5速 主5 副C	0.51（0.14）	
		6速 主6 副C	0.65（0.18）	
		7速 主1 副1	1.21（0.34）	
		8速 主2 副1	1.53（0.43）	
		9速 主3 副1	1.97（0.55）	
		10速 主4 副1	2.50（0.70）	
		11速 主5 副1	3.14（0.87）	
		12速 主6 副1	3.98（1.11）	
		13速 主1 副2	3.57（0.99）	
		14速 主2 副2	4.53（1.26）	
		15速 主3 副2	5.84（1.62）	
		16速 主4 副2	7.40（2.06）	
		17速 主5 副2	9.29（2.58）	
		18速 主6 副2	11.78（3.27）	
		19速 主1 副3	9.12（2.53）	
		20速 主2 副3	11.56（3.21）	
		21速 主3 副3	14.89（4.14）	
		22速 主4 副3	18.88（5.24）	
		23速 主5 副3	23.69（6.58）	
		24速 主6 副3	30.03（8.34）	
		後進 1速 主1 副C	0.20（0.06）	最高速度 31.51 (8.75)
		2速 主2 副C	0.26（0.07）	
		3速 主3 副C	0.33（0.09）	
		4速 主4 副C	0.42（0.12）	
		5速 主5 副C	0.53（0.15）	
		6速 主6 副C	0.67（0.19）	
		7速 主1 副1	1.24（0.35）	
		8速 主2 副1	1.58（0.44）	
		9速 主3 副1	2.03（0.56）	
		10速 主4 副1	2.57（0.71）	
		11速 主5 副1	3.23（0.90）	
		12速 主6 副1	4.09（1.14）	
		13速 主1 副2	3.67（1.02）	
		14速 主2 副2	4.66（1.29）	
		15速 主3 副2	6.00（1.67）	
		16速 主4 副2	7.61（2.11）	
		17速 主5 副2	9.55（2.65）	
		18速 主6 副2	12.10（3.36）	
		19速 主1 副3	9.37（2.60）	
		20速 主2 副3	11.88（3.30）	
		21速 主3 副3	15.31（4.25）	
		22速 主4 副3	19.40（5.39）	
		23速 主5 副3	24.35（6.76）	
		24速 主6 副3	31.14（8.65）	

項目			型式 MT651	備考
機体寸法	全長（mm）		4160	ロアリンクまで
	全幅（標準性能）（mm）		1810	
	全高（mm）		2660	
	軸距（mm）		2300	
	輪距	前輪（mm）	1380	
		後輪（mm）	1420	
	最低地上高（mm）		390	
機関	銘柄型式		4TNV102	
	種類		ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエータ	
	シリンダ数		4	
	内径×行程（mm）		102×125	
	総排気量（cc）		4085	
	燃料系統	噴射ポンプ	MP-3	
		噴射弁形式	Eガバナー	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量（ℓ）		120	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイド圧送式	
		潤滑油量（ℓ）	13.4	
	冷却水量（ℓ）		11	サブタンク仕様
	電気系統	充電発電機（V-A）	12—55	
		始動発電機（V-kW）	12—2.7	
		蓄電池（V-Ah）	12—140	
動力伝動部	主クラッチ		湿式多板	
	変速機潤滑油量（ℓ）		50	
	差動装置形式		傘歯車式（デフロック付）	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	8.3—24	
		後輪	12.4—36	
	かじ取装置		全油圧パワーステアリング	
	足ブレーキ		湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ハンドブレーキ	
運転装置	計器類及び照明装置		アワメータ、水温計、フラッシャパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、尾灯、サーモパイロットランプ、リフトアップランプ、駐車パイロットランプ、4WDパイロットランプ、他	
動力取出軸	回転方向		右回り（軸に向かって）	
	軸寸法（mm）		JIS 35	
	軸回転速度（rpm）		591、760、986	
けん引装置形式			スイングドローバヒッチ	
作業機昇降装置	装着装置の種類規格		3点リンク JIS2(1)形	
	油圧制御方式		・ポジションコントロール付 ・ドラフトコントロール付	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。
※走行速度はナミラグタイヤ仕様。

MT751

項目			型式 MT751	備考
重量	車両重量（kg）		3330	3P付
	荷重（kg）	前輪	1400	
		後輪	1930	
	附荷重量（kg）	後輪	40kg×8	アタッチメント
		本体	30kg×8	アタッチメント
機関出力（PS/rpm）			75/2400	
形状			ホイールトラクター	
車種			小型特殊自動車	
性能	走行速度 km/h (m/sec)	前進 1速 主1 副C	0.20（0.06）	最高速度 30.66 (8.52)
		2速 主2 副C	0.25（0.07）	
		3速 主3 副C	0.32（0.09）	
		4速 主4 副C	0.41（0.11）	
		5速 主5 副C	0.51（0.14）	
		6速 主6 副C	0.65（0.18）	
		7速 主1 副1	1.21（0.34）	
		8速 主2 副1	1.53（0.43）	
		9速 主3 副1	1.97（0.55）	
		10速 主4 副1	2.50（0.70）	
		11速 主5 副1	3.14（0.87）	
		12速 主6 副1	3.98（1.11）	
		13速 主1 副2	3.57（0.99）	
		14速 主2 副2	4.53（1.26）	
		15速 主3 副2	5.84（1.62）	
		16速 主4 副2	7.40（2.06）	
		17速 主5 副2	9.29（2.58）	
		18速 主6 副2	11.78（3.27）	
		19速 主1 副3	9.12（2.53）	
		20速 主2 副3	11.56（3.21）	
		21速 主3 副3	14.89（4.14）	
		22速 主4 副3	18.88（5.24）	
		23速 主5 副3	23.69（6.58）	
		24速 主6 副3	30.03（8.34）	
		後進 1速 主1 副C	0.20（0.06）	最高速度 31.51 (8.75)
		2速 主2 副C	0.26（0.07）	
		3速 主3 副C	0.33（0.09）	
		4速 主4 副C	0.42（0.12）	
		5速 主5 副C	0.53（0.15）	
		6速 主6 副C	0.67（0.19）	
		7速 主1 副1	1.24（0.35）	
		8速 主2 副1	1.58（0.44）	
		9速 主3 副1	2.03（0.56）	
		10速 主4 副1	2.57（0.71）	
		11速 主5 副1	3.23（0.90）	
		12速 主6 副1	4.09（1.14）	
		13速 主1 副2	3.67（1.02）	
		14速 主2 副2	4.66（1.29）	
		15速 主3 副2	6.00（1.67）	
		16速 主4 副2	7.61（2.11）	
		17速 主5 副2	9.55（2.65）	
		18速 主6 副2	12.10（3.36）	
		19速 主1 副3	9.37（2.60）	
		20速 主2 副3	11.88（3.30）	
		21速 主3 副3	15.31（4.25）	
		22速 主4 副3	19.40（5.39）	
		23速 主5 副3	24.35（6.76）	
		24速 主6 副3	31.14（8.65）	

項目			型式 MT751	備考
機体寸法	全長（mm）		4160	ロアリンクまで
	全幅（標準性能）（mm）		1810	
	全高（mm）		2660	
	軸距（mm）		2300	
	輪距	前輪（mm）	1380	
		後輪（mm）	1420	
	最低地上高（mm）		390	
機関	銘柄型式		4TNV106	
	種類		ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエータ	
	シリンダ数		4	
	内径×行程（mm）		106×125	
	総排気量（cc）		4412	
	燃料系統	噴射ポンプ	MP-3	
		噴射弁形式	Eガバナー	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量（ℓ）		120	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイド圧送式	
		潤滑油量（ℓ）	13-4	
	冷却水量（ℓ）		11	サブタンク仕様
	電気系統	充電発電機（V-A）	12—5.5	
		始動発電機（V-kW）	12—2.7	
		蓄電池（V-Ah）	12—140	
動力伝動部	主クラッチ		湿式多板	
	変速機潤滑油量（ℓ）		50	
	差動装置形式		傘歯車式（デフロック付）	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	8.3—24	
		後輪	12.4—36	
	かじ取装置		全油圧パワーステアリング	
	足ブレーキ		湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ハンドブレーキ	
運転装置	計器類及び照明装置		アワメータ、水温計、フラッシャパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、尾灯、サーモパイロットランプ、リフトアップランプ、駐車パイロットランプ、4WDパイロットランプ、他	
動力取出軸	回転方向		右回り（軸に向かって）	
	軸寸法（mm）		JIS 35	
	軸回転速度（rpm）		591、760、986	
けん引装置形式			スイングドローバヒッチ	
作業機昇降装置	装着装置の種類規格		3点リンク JIS2(1)形	
	油圧制御方式		・ポジションコントロール付 ・ドラフトコントロール	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。
※走行速度はハイラグタイヤ仕様。

MT801

項目				型式 MT801	備考
重量	車両重量（kg）			3405	3P付
	荷重（kg）	前輪		1430	
		後輪		1975	
	附荷重量（kg）	後輪		40kg×8	アタッチメント
		本体		30kg×8	アタッチメント
機関出力（PS/rpm）				80/2400	
形状				ホイールトラクター	
車種				小型特殊自動車	
性能	走行速度 km/h (m/sec)	前進	1速 主1	副C	0.21（0.06）	最高速度 32.81 (9.11)
			2速 主2		0.27（0.07）	
			3速 主3		0.34（0.10）	
			4速 主4		0.44（0.12）	
			5速 主5		0.55（0.15）	
			6速 主6		0.69（0.19）	
			7速 主1	副1	1.30（0.36）	
			8速 主2		1.64（0.46）	
			9速 主3		2.11（0.59）	
			10速 主4		2.68（0.74）	
			11速 主5		3.36（0.93）	
			12速 主6		4.26（1.18）	
			13速 主1	副2	3.83（1.06）	
			14速 主2		4.85（1.35）	
			15速 主3		6.25（1.74）	
			16速 主4		7.92（2.20）	
			17速 主5		9.94（2.76）	
			18速 主6		12.60（3.50）	
			19速 主1	副3	9.76（2.71）	
			20速 主2		12.37（3.44）	
			21速 主3		15.94（4.43）	
			22速 主4		20.21（5.61）	
			23速 主5		25.36（7.04）	
			24速 主6		32.14（8.93）	
		後進	1速 主1	副C	0.22（0.06）	最高速度 33.73 (9.37)
			2速 主2		0.27（0.08）	
			3速 主3		0.35（0.10）	
			4速 主4		0.45（0.12）	
			5速 主5		0.56（0.16）	
			6速 主6		0.71（0.20）	
			7速 主1	副1	1.33（0.37）	
			8速 主2		1.69（0.47）	
			9速 主3		2.17（0.60）	
			10速 主4		2.75（0.76）	
			11速 主5		3.46（0.96）	
			12速 主6		4.38（1.22）	
			13速 主1	副2	3.93（1.09）	
			14速 主2		4.99（1.38）	
			15速 主3		6.42（1.78）	
			16速 主4		8.14（2.26）	
			17速 主5		10.22（2.84）	
			18速 主6		12.95（3.60）	
			19速 主1	副3	10.03（2.79）	
			20速 主2		12.95（3.60）	
			21速 主3		16.38（4.55）	
			22速 主4		20.82（5.78）	
			23速 主5		26.06（7.24）	
			24速 主6		33.04（9.18）	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。
※走行速度はハイラグタイヤ仕様。

項目			型式 MT801	備考
機体寸法	全長（mm）		4160	ロアリンクまで
	全幅（標準性能）（mm）		1810	
	全高（mm）		2710	
	軸距（mm）		2300	
	輪距	前輪（mm）	1380	
		後輪（mm）	1420	
	最低地上高（mm）		420	
機関	銘柄型式		4TNV106	
	種類		ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエータ	
	シリンダ数		4	
	内径×行程（mm）		106×125	
	総排気量（cc）		4412	
	燃料系統	噴射ポンプ	MP-3	
		噴射弁形式	Eガバナー	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量（ℓ）		120	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイド圧送式	
		潤滑油量（ℓ）	13.4	
	冷却水量（ℓ）		11	サブタンク仕様
	電気系統	充電発電機（V-A）	12—55	
		始動発電機（V-kW）	12—2.7	
		蓄電池（V-Ah）	12—140	
動力伝動部	主クラッチ		湿式多板	
	変速機潤滑油量（ℓ）		50	
	差動装置形式		傘歯車式（デフロック付）	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	9.5—24	
		後輪	13.6—38	
	かじ取装置		全油圧パワーステアリング	
	足ブレーキ		湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ハンドブレーキ	
運転装置	計器類及び照明装置		アワメータ、水温計、フラッシャパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、尾灯、サーモパイロットランプ、リフトアップランプ、駐車パイロットランプ、4WDパイロットランプ、他	
動力取出軸	回転方向		右回り（軸に向かって）	
	軸寸法（mm）		JIS 35	
	軸回転速度（rpm）		591、760、986	
けん引装置形式			スイングドローバヒッチ	
作業機昇降装置	装着装置の種類規格		3点リンク JIS2(1)形	
	油圧制御方式		・ポジションコントロール付 ・ドラフトコントロール付	

MT901

項目				型式 MT901	備考
重量	車両重量（kg）			3415	3P付
	荷重（kg）	前輪		1435	
		後輪		1980	
	附荷重量（kg）	後輪		40kg×8	アタッチメント
		本体		30kg×8	アタッチメント
機関出力（PS/rpm）				90/2400	
形状				ホイールトラクター	
車種				小型特殊自動車	
性能	走行速度 km/h (m/sec)	前進	1速 主1	副C	0.21（0.06）	最高速度 32.81 (9.11)
			2速 主2		0.27（0.07）	
			3速 主3		0.34（0.10）	
			4速 主4		0.44（0.12）	
			5速 主5		0.55（0.15）	
			6速 主6		0.69（0.19）	
			7速 主1	副1	1.30（0.36）	
			8速 主2		1.64（0.46）	
			9速 主3		2.11（0.59）	
			10速 主4		2.68（0.74）	
			11速 主5		3.36（0.93）	
			12速 主6		4.26（1.18）	
			13速 主1	副2	3.83（1.06）	
			14速 主2		4.85（1.35）	
			15速 主3		6.25（1.74）	
			16速 主4		7.92（2.20）	
			17速 主5		9.94（2.76）	
			18速 主6		12.60（3.50）	
			19速 主1	副3	9.76（2.71）	
			20速 主2		12.37（3.44）	
			21速 主3		15.94（4.43）	
			22速 主4		20.21（5.61）	
			23速 主5		25.36（7.04）	
			24速 主6		32.14（8.93）	
		後進	1速 主1	副C	0.22（0.06）	最高速度 33.73 (9.37)
			2速 主2		0.27（0.08）	
			3速 主3		0.35（0.10）	
			4速 主4		0.45（0.12）	
			5速 主5		0.56（0.16）	
			6速 主6		0.71（0.20）	
			7速 主1	副1	1.33（0.37）	
			8速 主2		1.69（0.47）	
			9速 主3		2.17（0.60）	
			10速 主4		2.75（0.76）	
			11速 主5		3.46（0.96）	
			12速 主6		4.38（1.22）	
			13速 主1	副2	3.93（1.09）	
			14速 主2		4.99（1.38）	
			15速 主3		6.42（1.78）	
			16速 主4		8.14（2.26）	
			17速 主5		10.22（2.84）	
			18速 主6		12.95（3.60）	
			19速 主1	副3	10.03（2.79）	
			20速 主2		12.95（3.60）	
			21速 主3		16.38（4.55）	
			22速 主4		20.82（5.78）	
			23速 主5		26.06（7.24）	
			24速 主6		33.04（9.18）	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。
※走行速度はハイラグタイヤ仕様。

項目			型式 MT901	備考
機体寸法	全長（mm）		4160	ロアリンクまで
	全幅（標準性能）（mm）		1810	
	全高（mm）		2710	
	軸距（mm）		2300	
	輪距	前輪（mm）	1380	
		後輪（mm）	1420	
	最低地上高（mm）		420	
機関	銘柄型式		4TNV106T	ターボ付
	種類		ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエータ	
	シリンダ数		4	
	内径×行程（mm）		106×125	
	総排気量（cc）		4412	
	燃料系統	噴射ポンプ	MP-3	
		噴射弁形式	Eガバナー	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量（ℓ）		120	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイド圧送式	
		潤滑油量（ℓ）	13.4	
	冷却水量（ℓ）		11	サブタンク仕様
	電気系統	充電発電機（V-A）	12—55	
		始動発電機（V-kW）	12—2.7	
		蓄電池（V-Ah）	12—140	
動力伝動部	主クラッチ		湿式多板	
	変速機潤滑油量（ℓ）		50	
	差動装置形式		傘歯車式（デフロック付）	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	11.2—24	
		後輪	16.9—34	
	かじ取装置		全油圧パワーステアリング	
	足ブレーキ		湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ハンドブレーキ	
運転装置	計器類及び照明装置		アワメータ、水温計、フラッシャパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、尾灯、サーモパイロットランプ、リフトアップランプ、駐車パイロットランプ、4WDパイロットランプ、他	
動力取出軸	回転方向		右回り（軸に向かって）	
	軸寸法（mm）		JIS 35	
	軸回転速度（rpm）		591、760、986	
けん引装置形式			スイングドローバヒッチ	
作業機昇降装置	装着装置の種類規格		3点リンク JIS2(1)形	
	油圧制御方式		・ポジションコントロール付 ・ドラフトコントロール付	

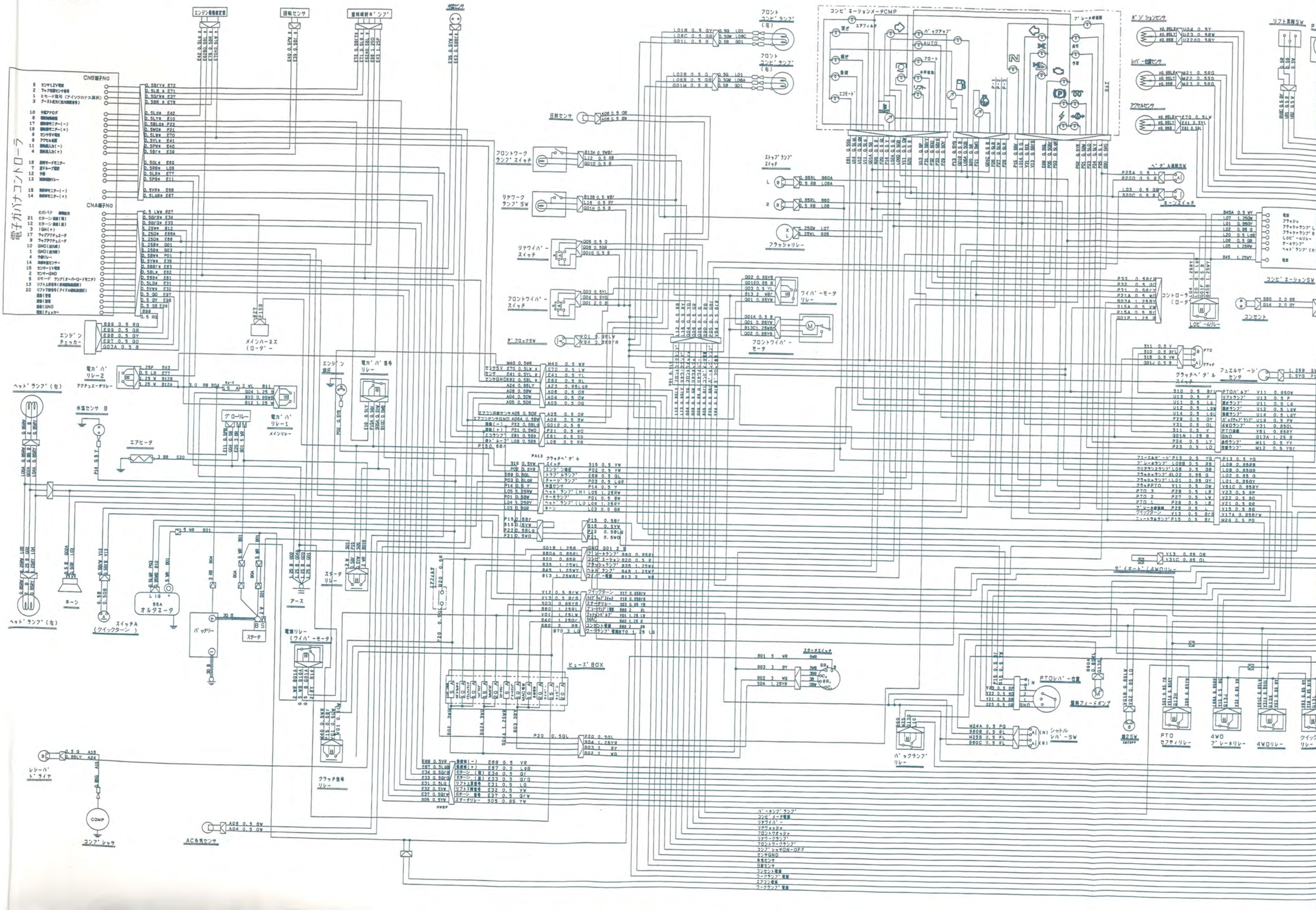
3.（1）標準付属品KIT

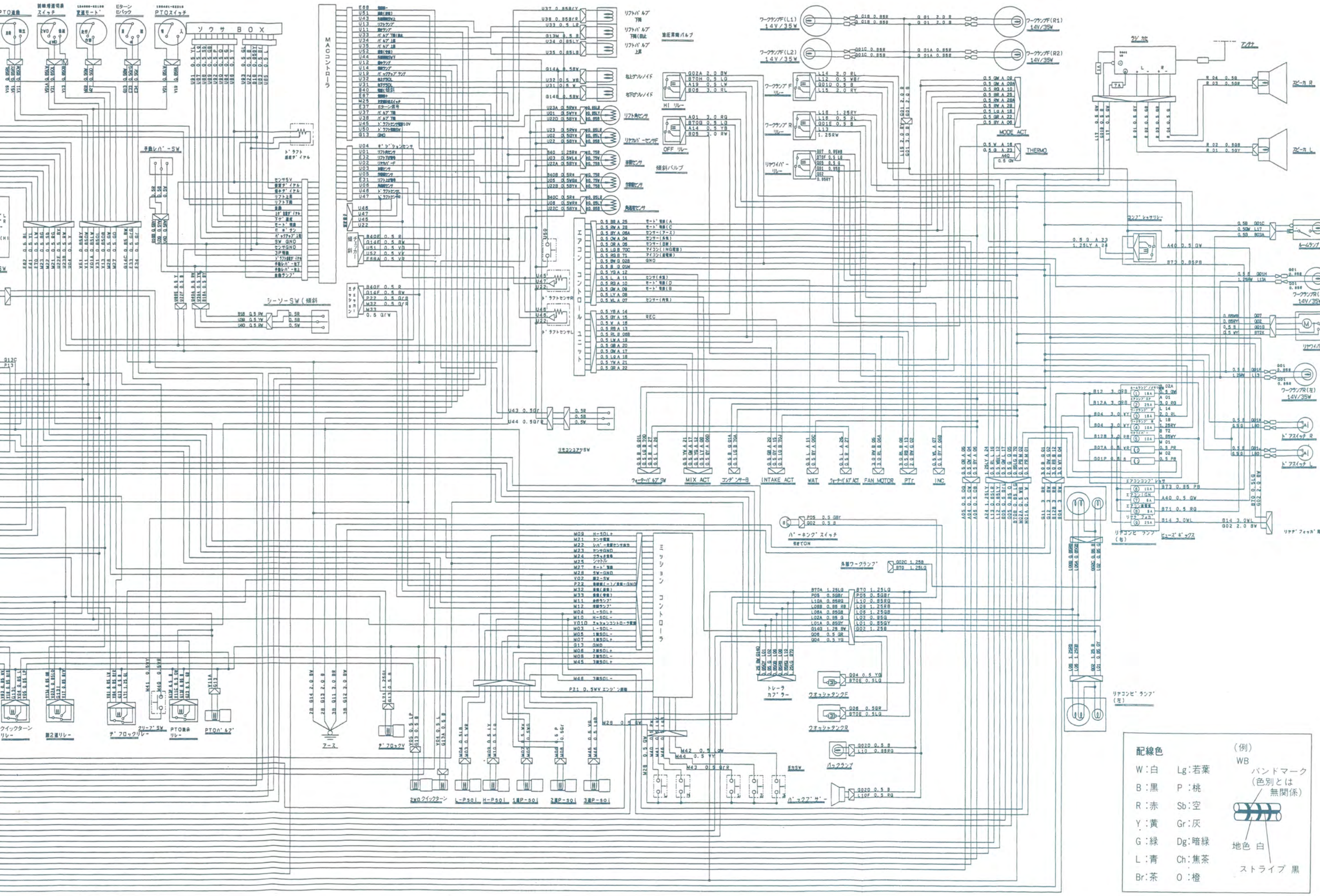
	品　名	仕　様	個数	備　考
付属工具	両口スパナ	8×10	1	
	両口スパナ	12×14	1	
	両口スパナ	17×19	1	
	両口スパナ	22×24	1	
	両口スパナ	26×32	1	
	両口スパナ	27×30	1	
	メガネレンチ	17×19	1	
	キセルレンチ	30	1	仕組使用
	キセルレンチパイプ	26×30	1	
	ねじ回し	差換式	1	
	プライヤ	150	1	
	グリースポンプ		1	
	ハンマー	1ℓb	1	

3.（2）付属品および予備品

部品名称	個数	備　考
	SCV-2連	
ジャッキ（棒付）	1	
スタータキー	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	
ラジカセ取扱説明書	1	
パイプ　6×10×1000	1	ブレーキバルブ空気抜用
ジョイント（オスR1/2）	4	仕組品
ダストキャップ（オス1/2）	4	
頭付ピン　19×92	1	トップリンク用
ロックピン　CMP	1	
カラー（トップリンク）19×25×44	1	
ピン　25（トップリンク）	1	
ボールソケットピン　CMP	1	
カラー（ロアリンク）22×28×35	2	ロアリンク用
ワイヤーBKT　CMP	1	
ツバボルト　8×16	2	ワイヤーBKT　取付ボルト

4.配線図


電子ガバナコントローラ
CN8端子NO
CNA端子NO
エンジン
チェッカー
メインハーネス
(ロータ゛ー)
ヘット゛ランプ゛(右)
ヘット゛ランプ゛(左)
電カ゛ハ゛
リレー2
アクチュエータリレー
電カ゛ハ゛
リレー1
メインリレー
エアヒータ
水温センサ B
グロールレー
エンジン
始動
電カ゛ハ゛信号
リレー
スイッチA
(クイックターン)
キーン
オルタネータ
バッテリー
スタータ
スタータ
リレー
アース
電源リレー
(ワイハ゛ーモータ)
ヒューズ゛BOX
クラッチ信号
リレー
レシーハ゛
ト゛ライヤ
コンプ゛レッサ
AC系気センサ
フロント
コンビ゛ランプ゛
(右)
フロント
コンビ゛ランプ゛
(右)
日射センサ
フロントワーク
ランプ゛スイッチ
リヤワーク
ランプ゛SW
リヤワイハ゛ー
スイッチ
フロントワイハ゛ー
スイッチ
ヂ゛フロックSW
クラッチペ゛タ゛ル
スイッチ
エンジン増速
トラブ゛ルランプ゛
チェーン゛ランプ゛
水温センサ
ヘット゛ランプ゛(HI
ヘット゛ランプ゛(LO
ターンランプ゛
ホーン
クラッチペ゛タ゛ル
スイッチ
エンジン増速
トラブ゛ルランプ゛
チェーン゛ランプ゛
水温センサ
ヘット゛ランプ゛(HI
ヘット゛ランプ゛(LO
ターンランプ゛
ホーン
コンビ゛ネーションメータCMP
エアフィルタ
選択
昇降
エコモード
パックアップ
AUTO
フロート
水平制御
ブレーキ作動確
ポジションセンサ
レバー位置センサ
アクセルセンサ
リフト高調SW
ヘッダー高調SW
ホーンスイッチ
ストップランプ
スイッチ
フラッシャリレー
ワイハ゛ーモータ
リレー
フロントワイハ゛ー
モータ
コントローラ
(ロータ゛ー)
コンビ゛ネーションSW
コンセント
LOビームリレー
フェエルゲ゛ージ
センタ
クラッチペ゛タ゛ル
スイッチ
PTO
クラッチ
ハ゛ックランプ゛
リレー
PTOハ゛ーサ゛
PTOセフティリレー
4WD
フ゛レーキリレー
4WDリレー
クイック
リレー
シャトル
レハ゛ーSW
燃料フィードポンプ
ヒューズ2SW
ヘッダー
4WDソレノイド
ハ゛ーキング゛ランプ゛
コンビ゛メータ電源
リヤワイハ゛ー
リヤウォッシャ
フロントウォッシャ
リヤワークランプ゛
フロントワークランプ゛
コンプ゛レッサON-OFF
センサGND
水気センサ
日射センサ
コンセント電源
ワークランプ゛電源
ミラヒータ電源
ワークランプ゛電源


PTO連動
前後進選択スイッチ
4WD
後輪
前輪
4WD
Eターン
Eバック
PTOスイッチ
ソウサ BOX
MACコントローラ
ドラフト感度ダイアル
手動レバーSW
シーソーSW（傾斜
傾斜センサー
エアコンコントロールユニット
リフトバルブ下降
リフトバルブ下降(微)
リフトバルブ上昇
左Bソレノイド
右Bソレノイド
HI リレー
OFF リレー
傾斜バルブ
ワークランプF(L1) 14V/35W
ワークランプF(L2) 14V/35W
ワークランプF(R1) 14V/35W
ワークランプF(R2) 14V/35W
ワークランプF リレー
ワークランプR リレー
リヤワイパーリレー
MODE ACT
THERMO
ラジカセ
アンテナ
スピーカR
スピーカL
コンプレッサリレー
ルームランプ
ワークランプR(右) 14V/35W
リヤワイパー
ワークランプR(左) 14V/35W
ドアスイッチR
ドアスイッチL
ミッションコントローラ
ウォーターバルブSW
MIX ACT
コンデンサーB
INTAKE ACT
WAT
ウォーターバルブACT
FAN MOTOR
PTr
INC
パーキングスイッチ
常時ON
後部ワークランプ
トレーラカプラー
ウオッシャタンクF
ウオッシャタンクR
バックランプ
バックブザー
ミッションコントローラ
クイックターンリレー
前2速リレー
デフロックリレー
クリープSW
PTO表示リレー
PTOバルブ
アース
デフロックV
2WDクイックターン
L-PSOL
H-PSOL
1速P-SOL
2速P-SOL
3速P-SOL
エアコンコンプレッサ
リヤコンビランプ(右)
リヤコンビランプ(左)
ヒューズボックス
リヤデフォッガ用電熱カプラ
配線色
W：白
B：黒
R：赤
Y：黄
G：緑
L：青
Br：茶
Lg：若葉
P：桃
Sb：空
Gr：灰
Dg：暗緑
Ch：焦茶
O：橙
（例）
WB
バンドマーク（色別とは無関係）
地色 白
ストライプ 黒